

資 料



目 次

○松本市森林再生市民会議 運営委員会 -----	資料 1
松本市森林再生市民会議での検討の経過 -----	資料 2
運営委員会 名簿 -----	資料 4
○イベント -----	資料 5
イベント開催概要 -----	資料 6
イベント開催報告(第 1～8 回) -----	資料 7
○フォーラム -----	資料 43
フォーラム開催概要 -----	資料 44
フォーラム開催報告(令和 4～6 年度) -----	資料 45
○アンケート -----	資料 114
アンケート実施結果(一般市民) -----	資料 115
アンケート実施結果(森林所有者) -----	資料 144
アンケート実施結果(森林事業者) -----	資料 155
○関係者聞き取り -----	資料 161
関係者聞き取り概要 -----	資料 162
関係者聞き取り記録 -----	資料 164

松本市森林再生市民会議 運営委員会



■運営委員会での検討の経過

回	年度	日時	会議事項
第1回	令和 4年度	令和 4 年 8 月 3 日(水) 17:00～19:30	(1) 松本市森林再生市民会議の目的について (2) 3 か年の計画について (3) 今年度のスケジュールについて (4) 第 1 回イベントについて (5) PR方法について
第2回		令和 4 年 9 月 27 日(火) 19:00～21:00	(1) ビジョンの位置づけについて (2) ビジョンにむけて必要な検討事項 (3) 第1回、第 2 回イベントについて
第3回		令和 4 年 11 月 28 日(月) 19:00～21:00	(1) 第 1 回イベントの報告 (2) 第 2 回イベントの準備状況 (3) 第 3 回イベントの内容について (4) R4 フォーラムの内容について (5) アンケートについて
第4回		令和 5 年 1 月 17 日(火) 19:00～21:00	(1) 第 2 回イベントの報告 (2) これまでの振り返りと今後の進め方 (3) 第 3 回イベントの準備状況 (4) R4 フォーラムについて (5) アンケートについて
第5回		令和 5 年 3 月 14 日(火) 19:00～21:00	(1) 第 3 回イベントの報告 (2) R4 フォーラムの準備状況 (3) アンケートについて (4) 令和 5 年度の取組み
第6回	令和 5年度	令和 5 年 4 月 26 日(水) 17:00～19:30	(1) フォーラムの報告 (2) R4 年度のまとめ (3) R5 年度の取組み ア 森林長期ビジョンについて イ イベント及びフォーラムについて
第7回		令和 5 年 5 月 15 日(月) 19:00～21:00	(1) R5 年度の取組み ア 森林長期ビジョンについて イ イベント及びフォーラムについて (2) アンケートについて
第8回		令和 5 年 6 月 27 日(火) 19:00～21:00	(1) 第 4 回イベントについて (2) R5 スケジュールについて (3) 森林長期ビジョンについて (4) アンケートについて (5) 松枯れ被害対策基本方針について
第9回		令和 5 年 9 月 9 日(土) 9:00～12:00	(1) 第 4 回イベント結果報告について (2) 第 5 回イベントについて (3) アンケート作成状況について (4) 森林長期ビジョンについて
第 10 回		令和 5 年 11 月 8 日(水) 19:00～21:00	(1) 第 5 回イベント結果報告、第 6 回イベント予定 (2) アンケートについて (3) ビジョンの骨格づくり (4) 今後の取組みについて

回	年度	日時	会議事項
第 11 回	令和 5年度	令和 6 年 1 月 29 日(月) 19:00～21:00	(1) 第 6 回イベント結果報告について (2) R5 フォーラムについて (3) 第 7 回イベントについて (4) アンケートについて (5) ビジョン素案づくりについて
第 12 回		令和 6 年 3 月 22 日(金) 19:00～21:00	(1) R5 フォーラム結果報告 (2) 第 7 回イベント結果報告 (3) アンケートについて (4) ビジョン素案について
第 13 回	令和 6年度	令和 6 年 4 月 20 日(土) 19:00～21:00	(1) 森林長期ビジョンの素案について (2) R6 フォーラムについて (3) 今後のスケジュールについて
第 14 回		令和 6 年 6 月 10 日(月) 19:00～21:00	(1) 森林長期ビジョンの骨格について (2) R6 フォーラムについて (3) 委員長の聞き取りについて (4) 今後のスケジュールについて
第 15 回		令和 6 年 7 月 16 日(火) 19:00～21:00	(1) R6 フォーラム開催結果報告 (2) 森林長期ビジョンの素案について (3) 第 8 回イベントについて (4) 委員長聞き取り中間報告
第 16 回		令和 6 年 9 月 17 日(火) 19:00～21:00	(1) ビジョンについて ア ビジョン骨格作成の報告 イ ビジョン(案)の内容協議 ウ 今後のスケジュール (2) 第 8 回イベントについて
第 17 回		令和 6 年 11 月 28 日(木) 19:00～21:00	(1) 第 8 回イベント結果報告 (2) 森林長期ビジョン(案)について (3) 今後のスケジュール (4) ビジョン実現に向けた推進体制について

■運営委員会 名簿

No.	区分	氏名	所属・肩書
1	有識者 (学識経験者)	三木 敦朗(委員長)	信州大学学術研究院農学系 助教
2		清水 裕子(副委員長) ※1	(一社)森林風致研究所 副理事長
3		香山 由人	長野県指導林業士
4		小山 泰弘	長野県林業センター育林部長
5	林業関係者	永原 芳秀	松本広域森林組合あづみ支所技能班長
6		小口 真澄	横山木材有限会社総務部長
7		小穴 厚	NPO 法人浅間温泉木の絆会副会長
8	公募委員	菊地 徹 ※2	会社経営
9		渡辺 美沙樹	会社員
10		大田 紀代美(副委員長) ※3	理学療法士
事務局	松本市 森林環境課		
	株式会社 環境アセスメントセンター		

※1 令和 5 年度まで委員在任

※2 令和 5 年 4 月まで委員在任

※3 令和 6 年度から副委員長

イベント



■イベント開催概要

回	年度	開催日	場所	内容
第1回	令和 4年度	令和4年 11月26日(土)	松本市美鈴湖もりの 国オートキャンプ場と 周辺森林	・山歩き ・林業従事者からのお話 ・薪割り・火起こし体験
第2回		令和4年 12月10日(土)	松本市岡田財産区 林業現場	・林業現場見学 ・グループワーク
第3回		令和5年 2月18日(土)	・竜島温泉 ・北部交流センター えんてらす	・地元産材を利用した施設見学
第4回	令和 5年度	令和5年 7月29日(土)	本郷地区山林 浅間温泉 大音寺山 周辺	・山地火災後、植生復元の取組みをして いる森の見学 ・森林整備(下草刈り)や竹林の手入れの 体験
第5回		令和5年 9月30日(土)	乗鞍高原	・森林浴体験 ・講師として源平靖佳氏(元大芝高原森 林浴ガイド)と甲斐原さなえ氏(森林セ ラピスト)を招聘
第6回		令和5年 11月4日(土)	松本市内田 牛伏川階段工周辺	・防災や治山の観点から、牛伏川のフラン ス式階段工を見学 ・講師として山浦直人氏(土木・環境しな の技術支援センター理事)と藤本済氏 (日本綜合建設株式会社取締役副社 長)を招聘
第7回		令和6年 3月10日(日)	あがたの森 文化会館講堂ホール	木工体験 A コース:1 本の木を切ったり削ったりし て自由にモノを作る B コース:お道具箱、小枝の色鉛筆、バー ドコールの製作
第8回	令和 6年度	令和6年 9月22日(日)	長野県林業総合 センター	子供たちによる森林体験

松本市森林再生市民会議 第1回イベント 開催報告

1. 開催日時

- ・令和4年11月26日（土） 9：30～12：00（9：00受付開始）

2. 開催場所

- ・松本市美鈴湖もりの国オートキャンプ場と周辺森林

3. テーマ

- ・森の散策
- ・薪割り、火起こし体験

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：
1人×4組、2人×1組 合計6名 ※定員30人 4名キャンセル
- ・専門家：柳沢林業 原社長

5. タイムテーブル

時間	内容
9：00～9：30	受付&グループ分け
9：30～9：40	はじめの会
9：40～10：50	山歩きと専門家からの説明
10：50～11：20	薪割り・火起こし体験
11：20～11：40	林業事業者からのお話
11：40～12：00	焚き火を囲んでフリートーク ・イベントの感想や自身の森林との関わり等を発表
12：00～	昼食、自由解散

6. 開催の様子



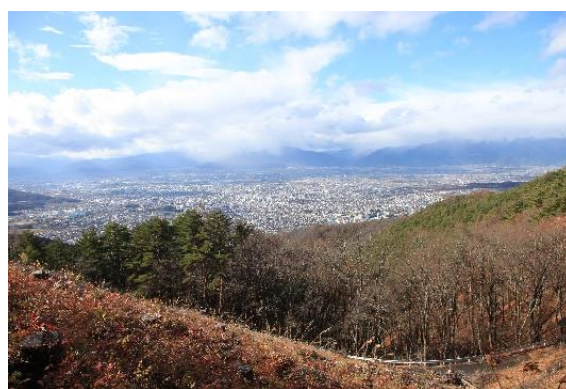
山歩き 1



山歩き 2



専門家（柳沢林業原社長）からの説明



松本市街地の眺望と松枯れ状況



薪割り体験



火おこし体験



林業事業者（柳沢林業原社長）からのお話



焚き火を囲んでフリートーク

【フリートークでの主な発言】

■A 班

参加者 1

- ・日ごろから山の中で活動したい、子どもと森で遊びたいと考えており、イベントに参加した。山の中で、森に関するいろいろな話が聞けて良かった。気軽に遊べる里山があるとよい。山の購入にも興味がある。

参加者 2（小学生）

- ・薪割り、火おこしが楽しかった。

参加者 3

- ・松本市の HP でイベントを知り、参加した。今日は、落ち葉がたまったフカフカの道を歩いて楽しかった。山登りが好きで高い山には登っているが、低い近くの山に気軽に入れる場所がないのかと日頃から考えている。里山は、誰の土地かわからず、どこから入ればよいのかわからず、道もわかりづらいので怖いイメージがある。山に入ってよい場所がわかったり、遊歩道が整備されるとよいと感じる。

■B 班

参加者 1

- ・松本市でマツ枯れが進行しているのをみて危機感を抱いている。乗鞍地域でもゼロカーボンを主眼においた取り組みが実施されており、持続可能な取り組みを念頭におきながら自分に何か出来ることを見つかればよいと思い参加した。

参加者 2

- ・これまで東京や京都など自然が身近にあまりない環境の中で生活してきたが、元々登山好きということもあり 3 年前に松本へ移住してきた。現在住んでいるのは松本市の街なかでそこから登山にも行くが、その中間となる今回のイベント開催地のような里山は気軽に出掛けられるので、自然と触れ合うにはとても身近で行きやすい環境だと感じている。

参加者 3

- ・かつて三城牧場の近くに「県民の森」としてカラマツの森を楽しめる森林空間を設計したことがある。当時は美ヶ原への登山ブームもあって賑わった。その後、美ヶ原へ車で行けるようになったことから登山ブームは去り、現在では県民の森は廃止されている。このように人と森のリズムはうまく合致しないこともあることから、人が森林を利用する空間を創造する際には、レクリエーション面や林業面などいろいろな用途に配慮する必要があると感じている。

松本市森林再生市民会議 第2回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和4年12月10日（土） 13：25～17：00（12：45受付開始）
- ・天候：晴れ

2. 開催場所

- ・松本市岡田財産区 林業現場

3. テーマ

- ・松本市の林業現場の見学
- ・見学を踏まえたグループワーク（感想とできるとよいこと）

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：15名
- ・現地説明：林業作業者 → 清水直幸氏（松本広域森林組合 松本支所長）
所有者 → 由比ヶ浜昇氏（松本市岡田財産区 議長）

5. タイムテーブル

時間	内容
12：00～12：45	スタッフ集合、受付設営、事前打合せ（松本市役所 東庁舎前）
12：45～13：00	受付
13：00～13：25	バス移動
13：25～15：40	はじめの会（林道入口 土場） （1）担当運営委員あいさつ （2）松本市あいさつ （3）講師、スタッフ紹介 ■第1部 林業現場見学 （1）事業の概要：松本広域森林組合 松本支所長 （2）森林所有者から：松本市岡田財産区 議長 （3）植林箇所状況 （4）伐採・造材・集材状況 ※伐採～造材～集材のデモンストレーションあり
15：40～16：05	バス移動
16：05～17：00	■第2部 グループワーク（松本市役所 本庁舎3階 大会議室） 4グループに分かれてグループワーク（ファシリテーター：小山委員） ①参加した感想 ②できるとよいこと

6. 開催の様子



土場での説明



作業現場の状況



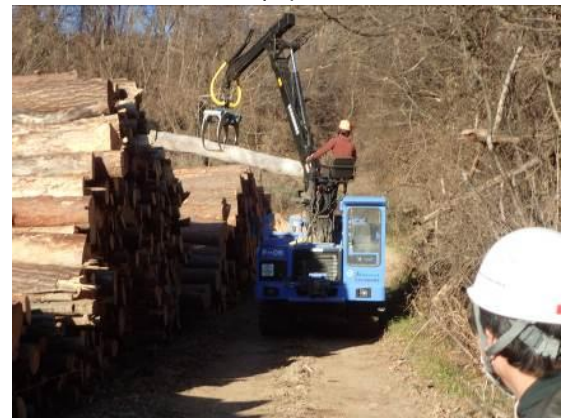
作業現場の見学



伐倒



造材



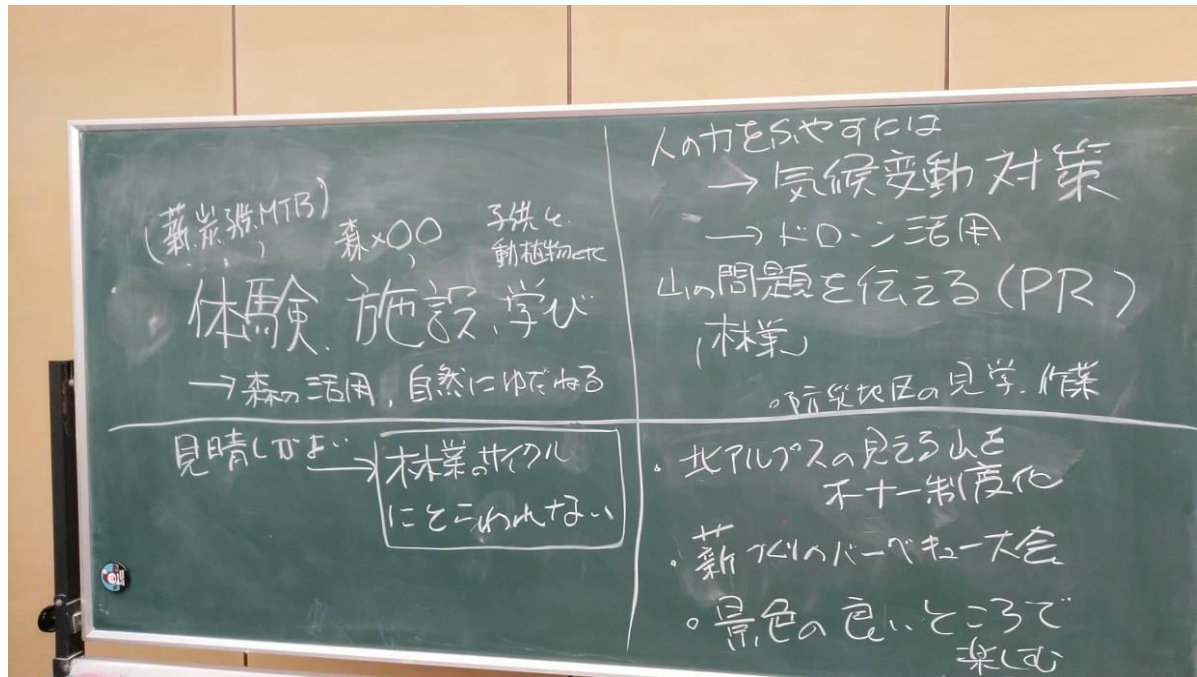
集材



グループワーク（グループ分け）



グループワーク（発表）



グループワーク結果のまとめ

松本市森林再生市民会議 第3回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和5年2月18日（土） 12：15～17：30（12：45受付開始）
- ・天候：曇り時々雨

2. 開催場所

- ・木質バイオマスチップボイラー施設（竜島温泉）
- ・木造施設（塩尻市北部交流センター えんてらす）

3. テーマ

- ・地域での木材資源の活用（地産地消）

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：13名
- ・現地説明：竜島温泉 施設の概要 → 佐藤氏、當銀氏（松本市 環境・地域エネルギー課）
チップ供給 → 山本氏（松本平森林エネルギー株式会社）
えんてらす 施設の概要 → 中野氏（塩尻市 北部交流センター）

5. タイムテーブル

時間	内容
12：15～12：30	担当運営委員及び事務局集合、打合せ（市役所 東庁舎前）
12：30～12：45	運営委員集合
12：45～13：00	受付
13：00～13：45	バス移動 (1) 開会 (2) 課長あいさつ (3) 担当委員の自己紹介
13：45～14：20	第1部：木質バイオマスチップボイラー施設見学（竜島温泉） (1) スタッフ及び講師紹介 (2) 施設の概要について (3) チップの供給について
14：20～15：05	バス移動（途中 トイレ休憩）
15：05～16：50	第2部：木造施設見学（塩尻市北部交流センター えんてらす） (1) 講師紹介&施設の概要説明 (2) 施設見学&自由時間 (3) 4グループによる座談会
16：50～17：30	バス移動
17：30	市役所到着・解散

6. 開催の様子



木質バイオマスチップボイラー施設の見学



担当者からの説明



木造施設の外観



講師による説明（施設の見学）



子育て支援センター



会議室



図書館



交流スペース

■参加者からの感想

参加者 1

- ・松本市の森林再生ビジョンへ色んなアイデアを提案していきたい。
- ・地域資源を地域で循環させ経済を地域内で回す。
- ・木材エネルギー（マキ、ペレットなど）

参加者 2

- ・見学の機会をいただきありがとうございます。エネルギーの面から木質バイオマスチップボイラー普及するといいですね。北部交流センターを見学して、コンクリートフローにひびが目立ちます。コンクリートを打った時カッターで溝を付けると膨張時のひび割れを防げると思います。

参加者 3

- ・積極的な質問が多く、参加者の意識の高さがうかがわれました。森林保全、林業の持続可能性の観点から、やはり、林業&川下加工品製造が経済的に成り立つマクロ的視点が欠かせないと思います。

参加者 4

- ・温泉のボイラーを見せてもらい、思ったよりコンパクトでスキャダーも付いており運用しやすそうでした。金額はなかなか高くどこにでもと言うわけにはいかない。ランニングコストもやっぱり高いと感じました。家庭でも使えるようなもっと小型、手作業のボイラーがあれば広がるし欲しいと思って探しています。
- ・「えんてらす」とてもきれいでこんな設備が増えてくると良いですね。でも大きな設備がある工場がないと作れない。親が建具屋で長男ですが継ぎませんでした。手作業とちょっとした機械だけではダメですね。

参加者 5

- ・今さらながらですが、手触りは『木』はぬくもりがあるなあ今日は再認識した一日となりました。竜島温泉のところで聞いた説明から、世の中では食生活について地産地消と、なるべく地場産の物を、また自分の住んでいる地の物の良さを知ろうが広まっています。エネルギーについても同様なのではないかと。その価値を広く知ってもらい、その上で他より価格が高かろうと、皆が納得して協力してもらえるようになれば一番良い事ではないかと思いました。今日一日ありがとうございました。

参加者 6

- ・松本市の他部局との連携による、施設管理等の話が聞けて良かった。（行政的に連携が十分でないところが多いので）草の根的な取組が、一番大切で効果的なのでこのようなイベントを（かわった方々が主となって動いていくこと）がんばってください。
- ・木の利用拡大はエンドユーザーを増やすこと、薪ストーブ等が身近であるが、都市部では難しい。→都市部は屋根に太陽光
- ・木質系は、街外で、集落等の熱利用等考えてみては良いか。熱エネルギーは燃やす最終手段なので、そこまでの A, B 材の利活用と公益的機能をいかに発揮させるかを考えて、熱エネ、自然エネを考えることが重要だと思った。
- ・一般市民にこんな活動をしていること、ありとあらゆる機会ととらえて PR してください（一番難しいと思うところです）。

参加者 7

- ・たしかに 0 と 1 は大違いだろうけれど。でも何か割り切れないな。森に関するイベントには熱いのだが松本のってあまり見た気がしない。あっても美ヶ原散歩とか白樺峠とかゆるいというか、周縁的なものしかやっていない印象。
- ・役所の全課横断で深めるイベントを段階的にゴール決めて学校まきこんでやったらどうか。コ

レってどう木を使うかって話か。そこだけ考えようって話か。切り取って考えられるのかなあ、コレ。消費のハナシか、結局。

参加者 8

・本日初めて参加させていただきましたが、非常にためになったと思います。
皆さんの活気で、専門的な質問を聞き、とても関心が高まっている分野であることを再認識することができました。
木質バイオマスについては金銭面がネックであると感じます。
導入費用>リターンとなると、導入の際に大きなハードルになるだろうと感じました。
小型化が可能で費用もおさえる事ができれば、家庭の給湯器として利用できないかなあと夢を抱きました。お風呂のお湯や床温暖の温水として使うことができれば、家庭の電気使用量がぐっと下がるかもしれないと考えました。

参加者 9

- ・チップボイラーの施設を初めて見ることができ、非常に貴重な体験でした。参加者の方々の質問がとても専門的で驚きました。今回、初参加でしたので、来年度もあるようでしたら、林業の現状などについても勉強させていただきたいと思います。
- ・街中に住んでいるため、自身の生活と森林の接点が殆どありませんでしたが、環境問題や森林資源の活用などについて、自分の問題として考えてみたいと思いました。事務局、スタッフ、会議の委員の皆様、貴重な機会を与えて下さりありがとうございました。

参加者 10

- ・チップの作り方が気になりました。木材を破砕して、乾燥させるのかな、と思ったのですが、どのくらいの量どのくらいの時間で作ることができるのか、作っているところを見たいと思いました。
- ・木という資源の良さを改めて感じました。チップや、えんてらすもそうですが、温かみや香りのある材で、人の暮らしを豊かにしながら素朴で自然な持続可能性をもつ資源を、大切に、有効に活用していけるといいな、と思いました。

参加者 11

- ・市役所の建て替え＝木質化を実現したいです！市民とワークショップで意見交流しつつ！

参加者 12

- ・森林エネルギーに関心ある人達と多く出逢えてとてもうれしく思いました。地域の未利用材を活用した新しいエネルギー循環のサイクルが出来て、いつか、原発に頼らない、輸入原油に頼らない、純国産エネルギー社会になって欲しいと思います。
- ・国の税金をガソリン代を下げるために使わず、森道整備に使い、美しい森を永続的に維持して欲しいと思います。

参加者 13

- ・竜島温泉、えんてらす、両方とも、こんな身近な所に山の恵みが生かされていると知り、大変勉強になりました。
- ・木質バイオマスボイラーは、私の住む安曇（乗鞍、上高地、沢渡…）と奈川でも活用の道がありそうです。
- ・森林の利用の方法は、今日の観察先のように、とても広いです。日々の暮らしとマッチングするよう、たくさんのつながりを作ることが大切だと感じました。人と山林の関わり方の多様性という感じです。
- ・森林を要に、他の分野ともコラボできる可能性を感じました。森林×エネルギー、森林×地域づくり、森林×農業…
- ・木を伐り、薪を作り（チップを作り？）これらの体験を通したアウトドア、ワーケーションも面白いと思います。本日はありがとうございました。

松本市森林再生市民会議 第4回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和5年7月29日（土） 9：00～12：00
- ・天候：晴れ

2. 開催場所

- ・本郷地区山林（浅間温泉 大音寺山周辺）

3. テーマ

- ・山火事から再生した山林の見学
- ・草刈り体験

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：15名
- ・久保村 会長（木の絆の会）

5. タイムテーブル

時間	内容
8：15～8：45	担当運営委員及び事務局集合、打合せ（浅間温泉大音寺山付近駐車場）
8：45～9：00	受付（駐車場）
9：00～9：40	はじめの会 ・挨拶 ・スタッフ紹介 ・注意事項：熱中症、蜂刺され、安全管理 ・山火事からの再生の概要、木の絆会の活動内容（NPO 法人浅間温泉木の絆会 久保村会長） ・準備体操
9：40～10：50	第1部：山林見学 ・山火事からの再生について
10：50～11：30	第2部：草刈り体験 ・下草刈りによる森林整備
11：30～11：50	（移動）
11：50～12：00	おわりの会 ・挨拶 ・感想用紙への記入

6. 開催の様子



山火事からの再生についての説明



準備体操



階段状に設置した擬木



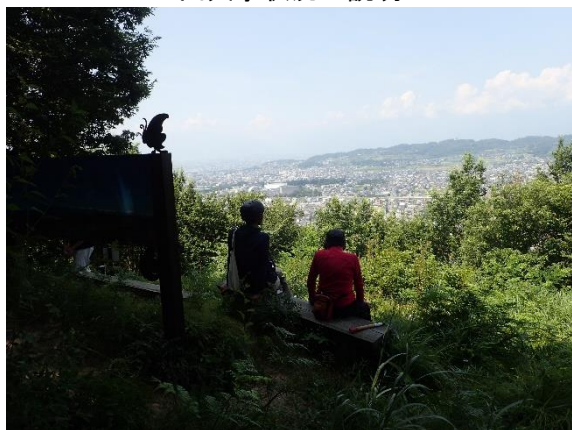
整備後の山林



山火事状況の説明



火事により被災したアカマツ



親子ひろば展望台からの松本市の展望



草刈り体験

■参加者からの感想

参加者 1

- ・森林火災の後に地域の皆さんと意見交流をし、魅力的な山づくりに尽力されていることの成果を実際に目にすることができて、自分の心に来るものがありました。
- ・草刈りも初めて体験しましたが、この作業を少人数で行うことの大変さが理解できました。
- ・地元子ども達を参加させていることも聞きました。このことについて自分はぜひ続けてほしいと思います。地元のことを知り自分達で守っていくという意識を持つ人が増えるような気がしました。

参加者 2

- ・私達の生活に当たり前のように存在している森林。だがこれは自然に存在している訳ではなく、誰かの支えあってのものだなと改めて実感することができた。
- ・私が広島からわざわざ信州大学で森林を学ぼうと長野に来たのは、今回のような森林の中でのイベントや活動に参加したかったからなので、参加できた今回のイベントはとても満足できるものだった。これを通し、もっと自然と触れ合いたいという気持ちも強くなったし、もっと人と森を繋げていこうと思った。

参加者 3

- ・山に生えている植物について知ることができて良かったです。山火事により変わってしまった山をどのように再生したのか、この山に観光客を呼ぶためにどのようなことをしているのかを知ることができて良かったです。

参加者 4

- ・山の恵みや付き合い方について学べたことが面白かった。
- ・山火事から再生した例はあまり聞かないので、その点でも学べることがいっぱいあった。
- ・山火事後放置せず、地域で盛り上げていることが好印象だった。
- ・針葉樹が日本は多いが、広葉樹メインの森が見られたことは貴重だったと思う。
- ・山道が岩肌が見えている場所で、不思議な地形だと思った。
- ・今日みたいに山の作業を一般の方を交えて行くと地域も森も活性化すると思う。

参加者 5

- ・終始小穴さんの愛にあふれる3時間弱の里山散策でした。ひとつのフィールドに20年間手を掛け続ける情熱と愛情に直に触れて、だからこそ安全安心で心地よい里山空間が保たれているのだと感服・納得した次第です。
- ・多くの市民にこの里山に訪れていただき、人が手を入れながら自然の環境を保っていくことの意義を体感してもらえたと思います。
- ・運営委員の皆さん、事務局の皆さん、お疲れ様でした！引き続きよろしくお願いします。

参加者 6

- ・森林火災にあって焼け野原になったところからの森づくりは、他では見ることでできない珍しい事例だと思いました。
- ・天然更新のもの、植樹されたもの、どちらもあると伺いましたが、火災後どのように木が増えていったのかが気になりました。
- ・観光客や外国人の方も訪れているとのことでしたが、どこでこの場所の存在を知り、入り方や道を知ることができたのかを知りたいです。他のエリアの森にも足を踏み入れるきっかけづくりに役に立つかなと。

参加者 7

- ・中学校2年生以来山に登り、自然を感じられて良かったです。
- ・20年前に山火事があったと思えないくらいすごい山だと思いました。
- ・自分は高校生で、大学入学後は農業・林業について学ぼうと思っているので、いい体験ができ

ました。

参加者 8

- ・松フォレ初参加でしたが、自然に触れ合え学ぶことができ大変有意義な時間でした。やはり人の手を入れないと自然（美しい自然）は守れないのだなと改めて実感しました。
- ・美しい自然を守る＝自然と触れ合う人々を増やすことも大切なのかなあとも思いました。小学1年生と年少の子どもがおりますが、教育の場としてもとても良いなと、今日学んだことを子ども達に伝えていきたいと思います。
- ・これからますます物価が上がっていくこの世の中で、山の中で食料を調達する、食べられる植物が沢山あると思うので、そのような講義もあったら楽しそうだなあと思いました。今日はお話を聞けて楽しかったです。ありがとうございました。

参加者 9

- ・山林火災をきっかけに地元の方が山の整備を始められたとのこと、活動が20年以上続いていることにまず感謝いたします。
- ・外（下）から眺める山はどの山も同じように見えますが、中に入ると整備がされている山は安心感があるし、歩いてみたいと思わせてくれます。
- ・松本市のあちこちに歩いて楽しい遊歩道を整備してもらえるとありがたいです。ただし、自転車やバイク、トレイルランニングは怖いので、あまり入ってほしくないかな…。今日はありがとうございました。

参加者 10

- ・山火事が出発点だったと確認した。火事がなければ活動はどうなっていたのだろう。
- ・長期間にわたり徐々に人の手を入れることで、確実に山が変わることを理解した。
- ・人力の他に費用も掛かるはずだが、費用収支をできる限り公開していただきたい。他地区での活動推進の助けとなろう。
- ・植樹する樹種が限定されていることと、途中の説明で雑木は皆伐するとの説明を聞いて、個人としてはこのNPOの活動に賛同しないと決めた。多様性を損なう活動であるし、麓の旅館に過剰に配慮した商業主義的活動のように感じた。雑木という木は存在しないはず。

参加者 11

- ・とても楽しく気持ちのいい時間を過ごさせていただきました。一人ひとりの自然に対する思い（敬い）が大事になってくると思い参加させていただきました。貴重なお話もありがたかったです。今後も参加させていただきたいと思います。
- ・今回は体験的な感じでしたが、実際の整備のお役に立てるようになればと思いました。

参加者 12

- ・今日はありがとうございました！とても楽しいお時間でした。色んな方と話ができて嬉しかったです。
- ・植物（食べ物）に興味があるので、もっと勉強したいと思います。そういうイベントにまた参加したいと思います。ダンケシェーン！

参加者 13

- ・久しぶりに山の中に入り、色々な植物を見る貴重な体験ができました。
- ・至るところで木にツルが巻き付いており、山でもその駆除は大変かと思いました。
- ・ワラビ採りやタケノコ採りが体験できると良いと思いました。

参加者 14

- ・山へ入る時・下山する時にバランスを崩すことがあるため、所々、要所要所に手すりをつけてほしい。

- ・多くの方が山へ遊びに来たくなるように工夫を凝らしてほしい。

■アンケート自由記述

設問：将来（未来）の松本市の森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・現在若者の森林や林業離れが目立っていると聞いています。そんな中、松本市で地元の人も参加出来る松フォレのような機会を設けて活動してくださっている所を見てとても感動しました。地元の人々に知ってもらえるこの取り組みを続けてもらおうとともに、松本市の恵まれた森林環境を大切にしていきたいと思います。
- ・市民が自分たちの森を市民が生かすことが大切だと思う。

設問：将来（未来）の松本市の森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・まだ自分は若く経験が浅いですが、それなりに感じていることがあります。それは、森林や林業は自分に関係ないと思う方も多いと思いますが、何かしらの形で恩恵を受けているということです。その自然を大切にしていくなためにも、まずは多くの人に関心を持ってもらう必要があると感じました。また、専門的に自然と接する場合でも、新しい技術ばかりに目を向けず技術の継承や現場独特の観察力を磨ける、継承していけるような体験もしていく必要があると思いました。
- ・1年間に何回森-山-森林に入るだろう。4つの四季、12の月、52の週、365の日。霧訪山に毎日登る人がいると報道されたが、毎日山に登ることは報道する価値があると思われるほどに稀なことなのだろう。山への関与度合いを深めたり、周辺人口の拡大を図るためには、山に入るきっかけ作りが欠かせない。

山に入ったことがない人は山のことを考えないだろう。

市民に向けていかに多くのキッカケを提供できるかを一つの KPI として設定するなどして、機会を提供することを期待しています。まずは年間に 12 個のキッカケを提供することを目指したら良い。12 個のキッカケを用意し、1 キッカケで 20 名を送客できたら年間 240 名となり、人口の 0.1% 達成だ。この 12 個を異なるエリアで開催するもよし、1 キッカケを複数回開催するもよし。キッカケメニューを拡大するのも良い。あつという間に年間 2400 名=1% が達成できる。これを 10 年続ければ 1 割が見える。1 割が参加すれば、サポーターやバックアップ体制も整う。国や県の補助金・支援策の活用もできる。いずれは自らが山にゆくのではなく、自宅や町内会に山・樹木を引き寄せる動きも出てこよう。

世代別、地域別、組織別(学校・職場など)に対して、遊ぶ・使う・学ぶ・手入れするなどのキッカケを組み合わせ提示するなど。

今回のイベントも大変良いキッカケだと感じましたよ。

設問：全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。

- ・長い時間をかけて少しずつ山に手を入れてきた経緯がよく理解できた。地元在住者として何らかの行動を起こそうと思った。今回、案内していただいた NPO は多様性に関して重視していないという印象を受けた。この点に関しては残念であった。
- ・多数の団体や参加者で賑わったが、山に入る以上は遭難や事故の可能性はある。また、途中参加や途中離脱も発生していた。人数の把握や中間点呼などして、安全の確認作業が行われるべきだと感じた。
- ・面白かったです！

松本市森林再生市民会議 第5回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和5年9月30日（土） 9：00～17：00
- ・天候：晴れ

2. 開催場所

- ・乗鞍高原

3. テーマ

- ・乗鞍高原で森林浴体験を通じて松本の森の未来を考える

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：13名
- ・講師：源平靖佳氏（元大芝高原森林浴ガイド） 甲斐原さなえ氏（森林セラピスト）

5. タイムテーブル

時間	内容
8：45～9：00	事務局市役所集合、受付準備
9：00～9：15	担当運営委員・講師集合、打合せ
9：15～9：30	受付（プログラム・木の名札配布）、バス乗車
9：30～10：15	バス出発（車内にてはじめの会） （1）開会 （2）市からあいさつ （3）講師、スタッフの紹介 （4）講師からの説明及び注意事項
10：15～10：25	風穴の里でトイレ休憩
10：25～11：00	（移動）
11：00～11：05	休暇村到着 ・コース行程説明 ・参加者自己紹介
11：05～11：45	昼食
11：45～14：30	森林浴 ・準備運動 ・牛留池散策 ・善五郎の滝散策 ・安息 ・グループディスカッション
14：30～14：40	（駐車場へ移動）
14：40～15：30	バス出発（車内にて終わりの会）
15：30～15：40	風穴の里でトイレ休憩
16：30～17：00	市役所到着、感想文回収、解散

6. 開催の様子



準備運動



森林浴体験（林内の散策）



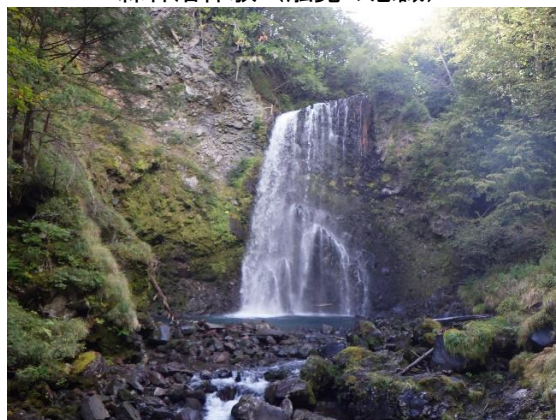
牛留池



森林浴体験（触覚の意識）



森林浴体験（聴覚や嗅覚の意識）



善五郎の滝



安息



グループディスカッション

■参加者からの感想

参加者 1

- ・天候に恵まれてとても楽しい一日を過ごせました。最後にシートに寝転がって大空を見上げた時に森林浴を堪能し、深呼吸をゆっくりして楽しかったです。
- ・遊歩道も、人の手が入っているからこそしっかりと整備されていて安心して歩かせてもらいました。サクラは葉のにおいで覚えました。
- ・あらためて松本は森林が豊かであると認識しました。自然を壊さずうまく活用していく企画をするのが良いように思います。
- ・以前、乗鞍で流れ星観察会に参加したこともよく覚えています。一ノ瀬園地も一度遊びに行きたいと頭で思いつつ、まだ行けていません。
- ・一時期、木のガードレールの設置が進められていましたが、費用も高くなるらしいとか。費用の問題が解決され、また材木がたくさん活用されるといいと思いました。

参加者 2

- ・今日は天気にも恵まれ大変ラッキーでした。
- ・乗鞍高原の林を楽しむことが出来ましたし、牛留池、そして善五郎の滝の美しさ、溪流を目に焼き付け良き思い出となると思います。
- ・これから地球温暖化の加速が進む中、ますます森林再生は大切なこととなります。
- ・森林再生長期ビジョン作成で必要なお質問を記載していただき回答させて戴ければと思います。

参加者 3

- ・森林浴は初めてだったので、もっとガシガシ歩くものだと思っていましたが、ゆっくりのんびり楽しむことができてとても良かったです。ありがとうございました。
- ・またこのような機会があれば参加したいと思っています。できれば松本市街地近くで参加できると嬉しいです。
- ・もっと若い方、家族でも参加できると良いと思います。

参加者 4

- ・ゆっくり自然を楽しめました。スタッフの方も多くて、誰とお話ししても新しい珍しいお話を聞かせていただいて、心地よい時間が過ごせました。
- ・普段は生活でも仕事でも時間に追われているので、こんなゆったりした休日は必要ですね。
- ・松本市の HP や LINE でお知らせは来ますが、とてもよい企画なので、参加しやすくなればいいと思います。（友人や職場の人は誰も知りませんでした。）
- ・身近な自然の中に入ってみることが森林再生に市民を巻き込む一番効果がある方法だと思います。
- ・今日は一日楽しかったです。ありがとうございました！

参加者 5

- ・森や自然の中に入るためには…準備をしっかりして「行くぞ！」と心して、全身を使って汗かきかきでいくものだ、と認識していましたが、こんなに楽に安心してゆったりと楽しめるものだ、と思いを改めました。松本はこんな素晴らしい森林に囲まれていて、移住して良かったと思います。
- ・移住して 4 年目。都会から離れて自然に囲まれたい、という思いが実現し、やがてそれが、自然に囲まれているのが当たり前というようになってくると、ただ、眺めるだけ、となりかねない自分を感じています。今回のような企画があるおかげでアクティブにもなれます。旅行者のツアーだと心重いですが、今回のように市民同志で気軽に参加できる企画はとてもありがたいです。
- ・学都、岳都、楽都に加えて森都のイメージも素敵だ。

参加者 6

- ・樹木の癒やし効果を感じました。

参加者 7

- ・今日はありがとうございました。
- ・乗鞍高原は久しぶりに来ました。善五郎の滝は初めてです。
- ・来る途中の水枯れしたダムを見て、滝の水量に心配していましたが、気持ちの良い水しぶきをあげて堪能しました。
- ・ゆっくり歩いての森林浴は初めての体験でしたが、お天気にも恵まれ自然を満喫し、ストレス解消になりました。こんな体験が大勢の人に気軽にしてもらえるようになれば…と思います。
- ・県外の人達にも長野県、松本市は自然がいっぱいと人気です。
- ・恵まれた自然を大切に残して行ってほしいです。

参加者 8

- ・今日は参加させていただきありがとうございました。
- ・気持ちの良い森を歩き森林浴体験はとても楽しかったです。
- ・寝転がって上を見上げる事は余りありませんので、流れる雲と空の青、葉っぱに風が当たる微妙な動きは感動でした。
- ・同じような森がもっと近くにあったらと思いますが、標高の違いもあり。松本近辺だとまた違った森が形成されるのでしょうか？
- ・松本は里山から高い山までありますが、アルプス公園の他にもっと身近に行ける山があったらうれしく思います。

参加者 9

- ・ゆったり森の散策を楽しむことができました。
- ・土の上に寝転んで木漏れ日を浴び、風にゆれる木の葉を眺める時間は、ふだん市街地で仕事をする者にとって、とても豊かで貴重なひとときでした。
- ・きょうの体験を周囲に伝えたいと思います。

参加者 10

- ・今日初めて「松フォレ」のイベントへ参加させていただきました。乗鞍にもこのたび初めて足を運びました。
- ・写真や動画を通して見るのではなく、自分自身の目、足、五感を通して実体験、体感できたことがとても良い経験となりました。
- ・こうして知らない場所で、滝や池の知らない場所を訪れたり、キノコや山菜などの植物を感じることができました。
- ・また道中も参加者やお手伝いの方と短時間のあいだでもトークして知識、情報を交換でき楽しい時間を過ごせました。

参加者 11

- ・日頃、自然観察会など楽しんでいます、森林浴体験は初めてでした。
- ・五感で感じるとか、森（自然）と人とのつなぎ役＝インタープリターなど、相通じることが多く、今後の活動に生かしていきたいと思います。
- ・まつフォレに参加させていただくのは2度目です。
- ・「森を育てる」ことはSDGsの目標達成にもかかせないことですし、規模の大きい（森＝広い）ものばかりでなく、小さくても木々の緑の茂る森も沢山ふえると、結果、森の面積が増えることです。
- ・針葉樹も広葉樹も常緑樹も、どんな森もあって良い。
- ・多様性を大切に、その場所に合った森で良いと思います。そんな場所が身近にあり、誰でも足を運び楽しめる所があったら良いと思います。
- ・今日のような企画を沢山つくってもらい、次の世代の若い人たちに沢山参加してもらい、森に親しみ、森を守り、森を育てて行ってほしいと思います。

参加者 12

- ・いつもの森林と違い、広葉樹が多く広がり木漏れ日、空気ともとても気持ちよく過ごせました。
- ・横になるのも、なにか普段とは違う感じでした。極力手をかけないというのも、ひとつの森の姿でそこには手の入った森林とはまた一味ちがう魅力があるのだと、あらためて気づかされました。

参加者 13

- ・気温がちょうど良く気持ちよく散策できた。
- ・乗鞍レベルでなくても良いので、もう少し街から近い所に森林浴ができる場所があると良い。

参加者 14

- ・県外からの移住の方に里山、森林の「魅力」をお伝えしていけば、人口と子どもの増加に役立ててと考えます。ここに来てよかったです！

参加者 15

- ・秋の紅葉が物足りないと思っています。赤とかあざやかなオレンジがあれば映えます。
- ・長野県には長野県なりの豊かな自然があって、いつも楽しませてもらっています。

参加者 16

- ・きょうの感想：リラックスできました。
- ・森林、林業、再生について：「森林そのものの価値」を、土地所有、林業関係者、観光関連、防災関係者等々、幅広い利害関係者で整理しなおすと、さらに森の新しい価値を創造していくと良いと思います。
- ・keyword：「森林の価値の提供」「森林の価値の創造」

■アンケート自由記述

設問：どのような思い(動機など)をもって本イベントへ参加されましたか？

- ・乗鞍高原の自然を五感で感じ癒されたいと思った。
- ・山や自然に親しむために4年前に都会から松本に移住しました。移住後、登山を中心アウトドアに親しんできました。常にしっかり準備して気合いを入れて大汗をかきかき親しむのが自然に親しむこと、、、といった自分のスタイルや思いを払拭したい、との思いでしょうか。
- ・乗鞍高原を知りたかった。
- ・山が好きでよく行きますが、知識が無いので気づきが少ないです。専門家の方の話が聞けると、より自然が楽しめるようになると思って参加しました。

設問：あなたにとって、松本の森の魅力はどのようなところですか？

- ・身近に山々があり 四季の移り変わりを感じられる喜びがある。
- ・山々の美しい四季を身近に楽しめる。
- ・適度に人の手が入っていて整備されており、心身を癒してくれるところ。3つの区域に分けて魅力を感じています。
 - 1) 高山帯
日常では体感できない景色や動植物、音や香りなど、主に登山で得られる豊かな森
 - 2) 中高帯
上高地や乗鞍高原など観光として風光明媚な森
 - 3) 周辺域
美鈴湖や高ボッチやアルプス公園など町の一部として里山的に親しめる森
- ・画一的ではないこと。
- ・近くに多様な自然があり、出かける度に楽しめる。楽しみ方もいろいろある。
- ・市街から比較的身近な距離に森林資源があるところ。

設問：そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。

- ・地球沸騰化の今、森林保護や管理の重要性、またその結果が水質につながっていき如何に後世の生活に必要なか再確認イベント
- ・移住してきて人繋がりはまだ浅い者としては…旅行会社のツアーではなく、安価でかつ自然をテーマに緩い人繋がりができる安全なイベントがあると嬉しいです。直近ではオープンしたての博物館で市民対象の学べるイベント(そこで松本の森の時代変遷解説などがあると尚善)など。
- ・冬の森にも行ってみたい。
- ・色々なイベントに参加していますが、内容もですが、それよりそのイベントを企画された方とたくさん話を出来たイベントが心に残っています。

設問：将来(未来)の松本市の森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・ヨーロッパのように子どもの頃から森で遊び遊ぶ事が出来るような体制が森林・林業の発展に繋がるのでは。
- ・枯れゆく赤松樹林を活かして観光の目玉にできるようなイベントが創れるといいですね！
- ・森が身近にあるのに隔たりを感じるので、身近で楽しい場所であれば良いのと思います。
- ・森林は心をリフレッシュするのに欠かせないので、もっと身近に感じて、大切にしたい。

設問：森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・啓蒙運動の推進。企業や一般の人々に興味を持って頂きクラウドファンディングなど活用して宣伝。
- ・林業を身近に感じるムーブメントが起こせるといいな、と思っています。学校教育に林業理解を組込む。柳沢林業さんはじめ松本の林業者と組んで市民参加のイベントで「森都松本」のイメージづくりなど思いつきですが。
- ・微生物を元気にするバクチャーという粉があるのですが、山を元気にすることが出来るのでは…と思っています。

- ・林業は、なかなか見ることもなく、知らない世界です。林業が実際にどんな仕事をされているのか、分かると面白いと思います。

設問：全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。

- ・信州の美しい森林を後世に残したい。
- ・有難うございました！松本の森や自然と響き合いたい、という方々がこの松本におられることが確認できました。
- ・想定外のゆっくりさでしたが、それなりに愉しかったです。途中でマスクを外すことを促されましたが、マスクをする自由もあるしマスクをしないといけない事情があってマスクをしていることも考慮していただきたいと思います。
- ・良い天気で森林浴はとても気持ちよかったです。どの方とのお話しも発見が沢山あり、楽しかった。ありがとうございました。

松本市森林再生市民会議 第6回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和5年11月4日（土） 13：00～16：00
- ・天候：晴れ

2. 開催場所

- ・松本市内田 牛伏川階段工周辺

3. テーマ

『土砂災害から生活を守ってきた山の取り組みを歴史的に学ぶ』
～牛伏川階段工に学ぶ山地災害史とその対応～

4. 参加者（敬称略）

- ・一般（松本市内に在住または松本市内に通勤、通学されている方）：13名
- ・講師：山浦 直人（土木・環境しなの技術支援センター理事）
：藤本 済（日本総合建設株式会社 取締役副社長）

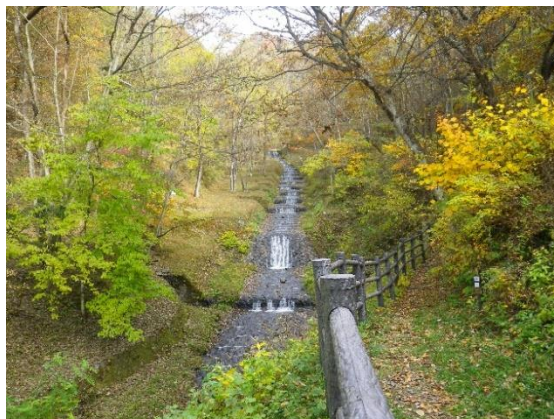
5. タイムテーブル

時間	内容
12：00～12：15	事務局・市役所集合、受付準備
12：15～12：30	担当運営委員・講師 連岳橋駐車場集合、打合せ
12：30～13：00	受付
13：00～13：15	はじめの会（進行：小山委員） ・市からのあいさつ ・講師、スタッフの紹介 ・講師からの説明及び注意事項
13：15	牛伏川階段工見学開始
13：15～14：50	移動しながら見学・説明
14：50～15：15	松建小屋到着 ・休憩 ・参加者意見交換
15：15～15：45	移動
15：45～16：00	終わりの会 ・講師お礼 ・アンケート記載
16：00	アンケート回収、解散

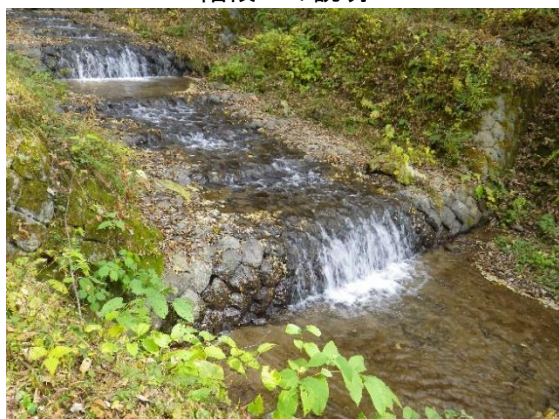
6. 開催の様子



階段工の説明



牛伏川階段工



角が丸くなった石積み



空石積み工法



第一号堰堤



第二号堰堤



ニセアカシアの巻き枯らし



意見交換

■参加者からの感想

参加者 1

- ・森を育てることは 100 年の事業だと感じました。日常で森を意識することが少ないので、楽しみながら森や林業に接する機会があると良いと思います。山菜採り、きのこ採りなどは山や森に入るよい動機です。
- ・今日の企画も良かったです。ありがとうございます。治山・治水への熱い情熱が伝わりました。

参加者 2

- ・目指せ国宝 フランス階段より古い 1~5 号堰堤を含めて、このような物が現在まで残っていることはすごい事である。これから維持をどのようにするのか、ボランティア任せではダメである。市民、県民の協力が必要です。松本城より大切な物ではないでしょうか。

参加者 3

- ・明治・大正の人々のおかげで、こんなにきれいな山川に恵まれている事を考えると、我々も何か出来る事をするべきと思います。
- ・今日の説明はすごくわかり易く、理解が深まりました。また機会があれば参加したいと思います。また皆が山林に興味を持つ事が大事だと思います。

参加者 4

- ・たくさんの事を知ることができて、参加してよかった。
- ・自然がダメになってしまっても、知恵とある程度の偶然で回復できるものだなと感じた。
- ・今後、今の山を守る為にも、私たちは自身の損得を考えず、相手（自然・他人）にとって迷惑を掛けない事は何なのかと考え、生きていく事が大切だと思った。

参加者 5

- ・ひとつの山の歴史を中世から現代まで、その山を歩きながら見聞きすることができて、とても興味深く学びの多い時間でした。
- ・先人たちの知恵と技術に大いに驚かされ、感服しました。
- ・治山・治水を目的とした事業と山の再生・育成が、相互に作用し合いながら長い歳月をかけて効果的に機能し続けていることに感動しました。
- ・「今の人たちに、これ（石積み）をやれといってもできない。」という言葉が印象的で、であれば現代における治山・治水とはどのような手法（アプローチ）で実践することが適切なのだろうか。そして、その事に自らの地域の事として、市民はどのように関わり得るのだろうかと考えさせられました。

■アンケート自由記述

設問：どのような思い(動機など)をもって本イベントへ参加されましたか？

- ・フランス式階段工を見てみたかった。
- ・牛伏川階段工には昔から興味があり歴史を聞きたかった。22 日にも市のエコスクールで登ったが何度聞いても新鮮だった。

設問：あなたにとって、松本の森の魅力はどのようなところですか？

- ・市街地から近く身近な所。
- ・ちょっと移動しただけで緑あふれる中にはいれ、リフレッシュできる場所。

設問：そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。

- ・看板が設置してありますが、今回のような解説があるとより深く理解できると思うので、ガイドツアーがあると良いと思う（可能なら有料で）。博物館の音声ガイドアプリでも良いですが、現地でスマホが使えないので。
- ・私たちが知っているようで知らないちょっとした自然、昔ながらの場所を案内してくれるようなイベント。

設問：森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・林業に従事している人のお話や、他の県の取り組みなどを知りたい。

設問：全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。

- ・気軽に参加しましたが、歴史や土木技術、樹木の話まで聞くことができ、本当に楽しく知ることができました。（ブラタモリはこっちに来れば良かったのに、と思いました）
- ・まつフォレというものを知らなくて失礼いたしました。また参加したいと思います。

松本市森林再生市民会議 第7回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和6年3月10日（日） 10：00～15：45
- ・天候：晴れ

2. 開催場所

- ・松本市県 3-1-1 あがたの森文化会館講堂ホール

3. テーマ

- ・木工体験（Aコース：ウッドワーク体験、Bコース：木工体験）

4. 参加者（敬称略）

- ・一般：27組 64名（午前の部 17組 39名、午後の部 10組 25名）
- ・講師：渡辺 寛氏（きこりと木工）

5. タイムテーブル

【午前の部】

時間	内容
8：00～8：30	事務局現地集合、事務局打合せ、会場・受付準備
8：30～9：30	講師・担当委員・関係者等集合、準備・打合せ
9：30～10：00	午前の部 受付開始
10：00～10：10	はじめの会（進行：香山委員） ・市からのあいさつ（小岩井課長） ・講師、スタッフの紹介 ・注意事項等
10：10～11：55	木工体験 ・木工指導、安全管理等（11時頃、Aコース・Bコース交代） ・体験終了後アンケート用紙回収
11：55～12：00	終わりの会

【午後の部】

時間	内容
12：30～13：00	午後の部 受付開始
13：00～13：10	はじめの会（進行：香山委員） ・市からのあいさつ（小岩井課長） ・講師、スタッフの紹介 ・注意事項等
13：10～14：55	木工体験 ・木工指導、安全管理等（14時頃、Aコース・Bコース交代） ・体験終了後アンケート用紙回収
14：55～15：00	終わりの会
15：00～15：45	午後の部終了、片付け
15：45	終了、現地解散

6. 開催の様子



木工体験 A（ウッドワーク）



木工体験 A（削り馬で削る）



木工体験 B（お道具箱 1）



木工体験 B（お道具箱 2）



木工体験 B（小枝の色鉛筆 1）



木工体験 B（小枝の色鉛筆 2）



木工体験 B（バードコール 1）



木工体験 B（バードコール 2）

■参加者からの感想

参加者 1

- ・小1の孫と参加しました。
- ・ホウの木の太いのを一人で切り、のこぎりの生木の皮むきの気持ち良さ・使い方を初めて知り、色鉛筆作りでは、ナイフを左親指で押すこと、初めはとても危なっかしかった手つきが、どんどん上手になっていきました。
- ・木のボックスへの釘打ちも初めてやり、どんどんどんうまくなっていきました。
- ・木工の楽しさ、道具の体験、本人とても満足そうでした。準備から片付け迄、本当にありがとうございました。

参加者 2

- ・ご担当の皆様、本日はとても楽しいイベント（会議）に参加させていただきありがとうございました。
- ・毎日の様に木々は目にしていますが、改めて自分の手で触れることや、まして自然の木を使って自分たちで「物づくり」ができる体験ができるなんて、正直“非日常”体験でした。
- ・今日聞かせて頂いたお話や体験で、いつも周りにある木々が身近に感じられるようになりました。そして大切にしていかなければいけないと実感しました。
- ・またこのような機会に参加できたと楽しみにしています。ご準備等到大変ご苦労されたと思います。どうもありがとうございました!!

参加者 3

- ・大量生産・大量消費の中心会社の中で流通上の規格が優先されているように思います。
- ・そして木・森から距離があるようになったと思います。
- ・今回のようなイベントで森・木に触れることで、森林・木の多様性が守られていくことを願っています。
- ・ありがとうございました。
- ・このようなイベントを行ってくださりありがとうございました。使用したことのない道具にふれて、とても貴重な体験ができました。

参加者 4

- ・一年生の娘と参加させてもらいました。
- ・長野県の木を使い工作させてもらい、これからの未来に長野の木が活躍してもらえたら良いですね。
- ・自然を大切にしていけることを学べて良かったです。

参加者 5

- ・とても楽しく、沢山の仕事をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・切ったばかりの木で工作するのはとても五感に訴えるものがあり、感動的でした。
- ・また、できる限り参加させていただきたいと思いました。

参加者 6

- ・いちばんたのしかったのが、はこづくりです。

参加者 7

- ・木が水分を含んでいるようで、森で生きていた木だということを感じました。
- ・木工体験では、子どもが夢中に切ったり、釘を打ったりしている姿を見て、もっと木にふれたい機会を作れたらと思いました。
- ・几帳面に木材を合わせる様子など、子どもの新たな一面を見ることが出来ました。
- ・このような機会を作って頂きありがとうございました。

参加者 8

- ・子どもが楽しくワークショップをすることが出来て、参加させて頂きありがとうございました。
- ・普段、木を使ったり、切ったりする機会がないので、とても良い経験になりました。
- ・大人はこれからの松本の木をどうするか考えるきっかけをもらいました。

参加者 9

- ・木工をする機会がないので、電動ドリルやのこぎりの使い方を知れて良かったです。子どもが大変喜んでいました。

参加者 10

- ・地元の木や普段使わない道具に触れ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

参加者 11

- ・親子共々普段体験できない事が盛り沢山体験できて楽しかったです。
- ・道具の使い方も教えて頂いて今後生かしていけたらと思います。
- ・今日は2時間の体験でしたが、今後長野の林業の現状の学習→森に入って体験等の企画もあれば参加したいと思いました。

参加者 12

- ・はじめにもあったように、別日で“生きている木”を目的に合わせて選んで切り出す作業も体験できるとなおいと思いました。スーパーでお肉が切り身になってパックで売られているのと同じで、切られた木だけでは、生きている姿から少し遠ざかった姿になっているように感じます。手入れがされて何年もかかってようやく成長した木が身近なアイテムにかわっていく、その工程が実感できる場があると嬉しいです。モノを使い捨てず、直しながら長く大切に使う心も同時に身につけて行くと思います。ぜひ身近な材料を使って暮らしたいです。あがたの森の伐採された枝は、クラフトフェアや作家さんなどアイデア・技術のある方々にも共有して活用できる方法はないでしょうか？モノとセンスをむすぶシステムが今後必要だと思います。

参加者 13

- ・シニアですが、現役の時はパソコン仕事ばかりで、初めての経験でした。孫にも教えることが出来る「仕方」を教えていただき非常に楽しかったです。今後ともこのような機会を作って頂けたらと思います。そして松本の森林を育てる一員になれたらと思います。
- ・今日はありがとうございました。

参加者 14

- ・木はいろいろなことができて、いいなと思いました。丸太を切ってけずり、馬でかわをけずりました。けずり馬というものをはじめて知って、使ってきたいにむけてやりやすかったです。

参加者 15

- ・とても楽しかったです。こどもに木を加工する楽しさや、ひきだしを作って木を大切にすることをきっかけになると思います。
- ・もっといろんな人に参加してもらえる、知ってもらえるイベントになるといいですね。

参加者 16

- ・こどもは行きたくないと言っていたが、来てみると夢中で行っていた。正確にやらないと出来ないという勉強になった。楽しかったです。
- ・のってけずる道具は初めて見ました。
- ・うちは薪ストーブなので、薪が手に入る仕組みや剪定枝をいらない人からいる人への仕組みを市が作ってくれるといいと思います。剪定枝が燃えるゴミになるのはもったいない。
- ・あちこちの山に木でつくった遊具があるが、手入れがされないものも有るようです。山に木の遊具の公園が整備されてあると、子どもも山に行きやすくなると思います。山があれてしまっで、山に入るのも危なくなっているのは残念です。

参加者 17

- ・初めての経験をさせていただきありがとうございました。のこぎりを子どもに使わせることは怖いと思いますが、やってみないとわからないですね。木を使うこと、木のおもちゃ作りなどワークショップでやっているの、これからもっと森林のことなど知りたいと思いました。子どもも楽しかったと言ってくれていました。

参加者 18

- ・たのしく作業をしていた。
- ・子どもたちがやったことのない、作業をできて良かった。
- ・これからもつづけてほしい。

参加者 19

- ・金づちやノコギリを使って、作品を完成させることが出来ました。スタッフの皆様に御指導頂き、楽しい物作りの時間となりました。やはり木はすばらしいと思います。
- ・林や森がもっと身近に感じられ、私達も林や森を大切にしながら、森林浴が出来る場や、機会が増えていったらいいなと思います。

参加者 20

- ・稲村さん？と一緒に手取り足取り教えてもらいながら箱が完成して良かったです。
- ・じっくり作る子には少し時間が足りないかなと思います。
- ・ありがとうございました。

参加者 21

- ・楽しかったです。
- ・特にバードコール作りは感動でした！
- ・下準備をしていただいたおかげで初めての作業も順調に進めることが出来ました。ありがとうございました。
- ・子ども連れではなかったのですが、参加させていただけ嬉しかったです。
- ・他市に住む孫連れでもよかったでしょうか？

参加者 22

- ・Bコース体験、バードコール作りではまっすぐ木を切るのに苦戦、ボルトうめもトンカチを垂直に打ち付けるのが難しい様でした。木登りをするのも今の子どもは少なく、道具を使う機会もない為、見るのとやるのでは全く違うという事を感じたと思います。木を削るときのおいや、音も心地よく感じた様です。
- ・カッターではなく、小刀を使うのは初めてで、また違う難しさを体験できた様です。
- ・玉手箱は、少し頭を使わなくてはならないので、こういう経験は子どもも遊びながら、立体物について学べました。
- ・遊びながら学ぶと、机の上だけでやる勉強と違って、大人も子どもも一番本当の学びとなることを実感し、とても良い一日となりました。
- ・本当にありがとうございました。

参加者 23

- ・Bコースの体験：バードコールは金づちやノコギリを使うのが大変だったけれど、良い音になって嬉しかったそうです。休みで来られなかった兄の分もいただきありがとうございました。木はすべすべで、切るのはかたくて、丈夫なんだと感じたようです。木の色鉛筆では、小刀が難しかったけれど教えてもらって上手にできたことや、実際に書いてみると自分で作った達成感があった様子でした。松本の森林をこれからどう市民に身近にしていけるのか、このよう機会を学校等でもできるとすてきだと感じました。
- ・Aコース：太い木の枝を切るところからスタートし、なかなか切れないと苦戦していました。木の枝を剥いていくと、白い部分が見え始めとてもきれいな木になりました。いつも見ている木とは違い、木工作品、家具のように感じていました。また木を触るとつめたく、重いのも感じていました。小学生のときから木に触れたり自分で作ることがあると、木に対する思いや気持ちが変わってくるのだらうなと感じました。赤ちゃんの頃に木の積み木を配る自治体がある様に、松本の木を使ったものを配ったり、イベントとしてこのように触れられる時がもっと増えるといいですね。
- ・ありがとうございました。

参加者 24

- ・大きな木を切るのが、とてもかたくてむずかしかったです。切った木を上手にけずれてうれしかったです。
- ・箱を作るときにクギをまっすぐ打つのがたいへんでしたが、できて良かったです。次は、大町に作りに行きたいです。ありがとうございました。

■アンケート自由記述

設問：どのような思い(動機など)をもって本イベントへ参加されましたか？

- ・フランス式階段工を見てみたかった。
- ・牛伏川階段工には昔から興味があり歴史を聞きたかった。22 日にも市のエコスクールで登ったが何度聞いても新鮮だった。

設問：あなたにとって、松本の森の魅力はどのようなところですか？

- ・市街地から近く身近な所。
- ・ちょっと移動しただけで緑あふれる中にはいれ、リフレッシュできる場所。

設問：そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。

- ・看板が設置してありますが、今回のような解説があるとより深く理解できると思うので、ガイドツアーがあると良いと思う（可能なら有料で）。博物館の音声ガイドアプリでも良いですが、現地でスマホが使えないので。
- ・私たちが知っているようで知らないちょっとした自然、昔ながらの場所を案内してくれるようなイベント。

設問：森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・林業に従事している人のお話や、他の県の取り組みなどを知りたい。

設問：全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。

- ・気軽に参加しましたが、歴史や土木技術、樹木の話まで聞くことができ、本当に楽しく知ることができました。（ブラタモリはこっちに来れば良かったのに、と思いました）
- ・まつフォレというものを知らなくて失礼いたしました。また参加したいと思います。

松本市森林再生市民会議 第8回イベント 開催報告

1. 開催状況

- ・日時：令和6年9月22日（日） 9：30～15：00
- ・天候：雨のち晴れ

2. 開催場所

- ・長野県林業総合センター 学習展示館ほか

3. テーマ

- ・森林体験

4. 参加者（敬称略）

- ・子ども未来委員会委員：6名（中学生：3名、高校生：2名、保護者：1名）
- ・講師：吉川 達也 氏（長野県松本地域振興局林務課）
鈴木 喜一郎 氏（寿さと山くらぶ会長）
高橋 鉄則 氏（長野県指導林業士）

5. タイムテーブル

時間	内容
8：00～9：00	事務局現地集合、事務局打合せ、会場・受付準備
9：00～9：30	受付開始
9：30～9：45	はじめの会 ・委員長あいさつ（三木委員長） ・市からのあいさつ（藤牧課長） ・講師、スタッフの紹介 ・注意事項等
9：45～11：00	森林ガイダンス ・森林・林業について【講師：吉川達也氏】 ・松本市森林長期ビジョンについて【説明：松本市森林環境課（降旗）】 ・森林に入る時の心得【講師：鈴木喜一郎氏】
11：00～12：00	チェーンソーによる模擬伐倒【講師：高橋鉄則氏】
12：00～12：30	（昼食）
12：30～13：15	木工教室【講師：寿さと山くらぶスタッフの皆様】
13：15～13：55	森の探検【講師：三木委員長、小口委員、小穴委員】
13：55～14：55	バームクーヘンづくり【講師：寿さと山くらぶスタッフの皆様】
14：55～15：00	おわりの会

6. 開催の様子



森林ガイダンス（森林・林業について）



森林ガイダンス（松本市森林長期ビジョンについて）



森林ガイダンス（森林に入る時の心得について）



チェーンソーによる模擬伐倒
（受け口を入れる）



チェーンソーによる模擬伐倒
（伐倒）



木工体験（製作の様子）



木工体験（ペンスタンドとキーホルダー）



森の探検（植物の説明）



森の探検（森林の管理方法の説明）



バームクウヘンづくり
（生地をかけては焼く作業を繰り返す）



バームクウヘンづくり
（年輪に模したバームクウヘンの完成）

■参加者からの感想

1. 森林ガイダンス

内容	大変よく理解できた	理解できた	普通	理解できなかった	全く理解できなかった
森林・林業について	2人	2人			
森林長期ビジョンについて	1人	2人	1人		
森林に入る時の心得	3人	1人			

- ・これからの森林について、イノベーションや木材の販売などの明るい未来と、人手不足などの暗い未来を共に知ること、これから50年、100年先の未来を考えた時に私達が森林に対してどうアプローチするのかを考えられるとても良い経験となりました。
- ・森を歩くことで知らない植物を知ることができた。
- ・知らない単語が多く出てきたけど、色々森林について分かったので良かったです。今後の松本市のことも色々分かったので、明るい未来のためにも自分にできることはやり続けたいです。
- ・つい最近では、インターネットなどの外に出ずにこもることが多くなったけど、今回のまつフォレ#11 イベントのように外に出て自然というもので楽しんでみてみれば、新たな発見があると思いました。
- ・すごい！楽しかったです！ありがとうございます！とてもやさしいです。全部のプログラムが楽しかったです！

2. バームクウヘンづくり

- ・子供達がとても喜んでいました。やはり子供にとって面白いことを経験すると愛着が湧いてきます。森林との直接的な関わりは少ないかもしれませんが、森林に愛着を持つためにも必要だと思いました。
- ・竹で作ると取れやすかった。自分で作ると達成感があつた。
- ・バームクウヘンなんて人生で一度も作ったことがなかったので、ちゃんと作れるかの不安と面白そうというワクワクがありました。竹で作るとは思っていなかったので、ユニークで面白かったです。
- ・店に売っているものの良いけど、時には手作りのバームクウヘンも大変だけどそれもまた良いと思いました。
- ・とても熱い、でも楽しかったです！おいしい！

3. 木工作

- ・なかなか工作を高校生では行わないので、懐かし良い経験になりました。
- ・キノコやうさぎを使ってペン立てを作りました。簡単に作れたのでやりやすかったです。電動ドリルも初めて使えたので良かったです。
- ・本当に小さい板の台にも、工夫をすれば少しインテリアなものになったり、ペン立てになったりするので、木工も面白いと思いました。
- ・面白いと楽しかったです！

4. その他

- ・私の小中学生時代には、このような体験はありませんでした。森林への理解を深めるためにも全ての小中学校でこのような機会を設けられたらと思いました。
- ・これからも森林の保全や環境を整えるために、未来委員会や学校でやっていけたらいいと思います。バームクウヘン美味しかったです。

フォーラム



■フォーラム開催概要

回	年度	開催日	場所	内容
第1回	令和 4年度	令和 5 年 3 月 18 日(土)	あがたの森 文化会館講堂ホール	第 1 部:森林の「物」としての活用 第 2 部:森林の「場」としての活用
第2回	令和 5年度	令和 6 年 2 月 4 日(日)	あがたの森 文化会館講堂ホール	第 1 部:これまでの活動と市民の皆さんか らの意見の紹介 第 2 部:森林と市民を近づける取組み
第3回	令和 6年度	令和 6 年 6 月 22 日(土)	浅間温泉 文化センター 多目的ホール	第 1 部:これまでの活動と森林長期ビジョ ンの骨子について 第 2 部:森林に関するイベント企画のプレ ゼンテーション

松本市森林再生市民会議 令和4年度フォーラム 開催報告

1. 開催日時

- ・日時：令和5年3月18日（土） 13：00～16：00（12：30受付開始）

2. 開催場所

- ・あがたの森文化会館 講堂ホール

3. 参加者

- ・一般：17名
- ・出演者：第1部 森の「物」としての活用
原 薫さん(株式会社 柳沢林業 代表取締役)
小池 幸司さん(薪ストーブ利用者)
第2部 森の「場」としての活用
鈴木 喜一郎さん(寿さと山くらぶ 事務局長)
佐藤 匠馬さん(信州大学学生、アルプス公園魅力向上検討会議委員)
- ・松本市森林再生市民会議 運営委員会委員
- ・事務局：松本市、環境アセスメントセンター

4. タイムテーブル

時間	内容
10：30～12：00	事務局集合、会場準備
12：00～12：15	フォーラム担当運営委員集合、打合せ
12：15～12：30	運営委員集合
12：30～13：00	参加者受付
13：00～13：15	オープニング ア 松本市 森林環境課長あいさつ イ 松本市森林再生市民会議の概要について
13：15～13：45	第1部：森林の「物」としての活用 ア トークセッション（原さん、小池さん）
13：45～14：15	イ グループワーク（6グループ）
14：15～14：25	ウ 全体への共有
14：25～14：40	（トイレ休憩）
14：40～15：10	第2部：森林の「場」としての活用 ア トークセッション（鈴木さん、佐藤さん）

時間	内容
15:10～15:40	イ グループワーク (6グループ)
15:40～15:50	ウ 全体への共有
15:50～16:00	クロージング



会場外観



会場内



グループワーク



クロージング



集合写真

5. 開催報告

■第1部 森林の「物」としての活用 トークセッション

話者	内容
菊地委員 (司会)	・私が経営している銭湯では、最近都市ガスの高騰で燃料代が上がっていて、もっと早い段階で燃料として地域の木材を活用していればと反省している。今日はお二人をゲストにお招きし、森林の「物」としての活用というテーマでお話を伺いたい。 ・原薫さんは株式会社柳沢林業の代表取締役で、この松本市森林再生市民会議との関係では、第1回イベントの開催場所である美鈴湖もりの国オートキャンプ場を運営・管理されている。林業会社を経営されている立場から「物」としての活用に関するお話を伺いたい。 ・小池幸司さんは薪ストーブを利用されており、まず小池さんに普段の薪ストーブの利用状況を中心にお話いただきたい。
小池さん	・松本には19年ほど前に引っ越してきて、梓川に薪ストーブのある家を建てた。最初は薪の調達にも苦労したが、色々な知り合いが増え、近所のお年寄りとも親密になる中で、そのお年寄りが所有されている山林で木を伐り、運んで割って積んで乾かして薪を作り、薪ストーブの燃料として利用している。 ・友人が家に来ると「薪ストーブいいね」という感想が多く、友人のうち3人は感化されて薪ストーブを自宅に導入している。実際に見てもらおうとその魅力を感じてもらえるし、薪ストーブの利用が進めば林業整備も進むのではと思っている。
菊地委員 (司会)	・なぜ薪ストーブがある家を建てようと思われたのか。
小池さん	・自然が好きで、結婚して子育てするなら都会よりも自然豊かなところが良いという理由からである。
菊地委員 (司会)	・普段から薪ストーブのある暮らしをしている中で、薪ストーブの良さは具体的にはどういったところか。
小池さん	・「あたたまる」という視点から挙げると大きくは3つあり、 1つ目は薪を作るのに木を伐って割って運ぶことで「体があたたまる」 2つ目は実際に「ストーブで火を起こしてあたたまる」 3つ目はストーブで暖かくなった場に家族が集って「心があたたまる」という良さがある。 ・薪を作る作業はとても大変ではあるが、薪を割る作業は体力づくりやストレス発散にもなる。
菊地委員 (司会)	・林業としての森の活用という視点から、普段はどういった活動をされていらっしゃるのか。
原さん	・私の会社は、元々は素材生産業といって育った木を収穫する、いわゆる「木こり」を専門としてきたが、燃料革命以降、伐り出した丸太の状態ではなかなか売れないため、様々な用途に使えるよう製材加工して消費者に提供しはじめているところである。
菊地委員 (司会)	・現在では木材からプラスチックなどに置き換わってしまったものを、再び木材に回帰させる試みと捉えてよいか。
原さん	・直接の答えにならないかもしれないが、ホームセンターに行けばそれなりに質

話者	内容
	の良い木材製品を手に入れることはできるものの、ホームセンターでは対応できないような相談を受けることが多い。ホームセンター以外だと本来は材木業者が相談に乗ることになると思うが、そういった業者は今では少なくなっていることに加えて、市民からは遠い存在になっている。「どこに相談したらよいかよく分からないから、とりあえず柳沢林業に相談してみよう」という事例が最近が多い。アドバイスすることが多いが、相談に応えられる商品を直接提供できれば良いと思っている。 ・今までは市場に出荷するだけだった木材を板にするだけでも顧客は増えるし、私達が行っている「ソマイチ」というイベントでは、楽器や時計を作っている方やDIYをする方が木を購入される。こういった活動はホームセンターでは提供出来ない、林業会社だからこそできるものだと思っている。
菊地委員 (司会)	・柳沢林業で運営されているキャンプ場では、樹種ごとに違った薪を提供されていたかと思うが、具体的にはどういったものか。
原さん	・樹種ごとに約30種類の薪を作っている。最近では燻製する際の材料として提供したこともある。
菊地委員 (司会)	・松本に引っ越してこられて、一番最初はどのような手段で薪を調達されたのか。
小池さん	・林業会社から丸太を購入していた。原木で8トンとかになる。トラックが原木(丸太)を運んでいる様子を見たことがある方もいらっしゃると思うが、だいたいトラック満杯で8トンのイメージ。庭の半分は原木で埋まってしまって、それをひたすら薪にしていた。 ・原木加工の作業は市街地では無理だったため、山際の土地に家を建てたが、偶然にも家を建てた場所の近所のお年寄りが山林を所有されており、その山林の木を薪材として利用させて頂けたのは幸運だった。
菊地委員 (司会)	・薪が不足しているという話をよく聞くが、調達に苦労されているということはないのか。薪ストーブ使用者と山林所有者をうまく繋げるような仕組みを構築するのは難しいのだろうか。
原さん	・薪ではナラ材が一番高価である。ナラばかりが山にある訳ではないので、ナラ材だけを準備しようとする値段を高くせざるを得ない。材が緻密で燃やしても長持ちするという利点があるので高いのだが、木はあらゆる種類が燃えるので、様々な木を薪材として利用してもらわないと山は良くならない。 ・これまでは灯油の値段と釣り合うよう実際よりも安い値段で提供してきた経緯があるが、今後はナラ材なら相応に高い値段で売らないと売る側としては厳しい。 ・安くしか売れない雑木の薪でも山で掛かる伐出コストは変わらない。燃料として売ろうとすると重さ換算になるので軽い材は割に合わないことになる。その点は工夫が必要である。 ・小池さんのように自ら山に入って薪を調達したいという利用者が増やしていないと、現状のミスマッチは解消されない。
菊地委員 (司会)	・小池さんがいつも伐る木はどういったものなのか。
小池さん	・主にスギが多く、アカマツやモミを伐ったこともある。薪ストーブでは広葉樹

話者	内容
	しか燃やしてはいけないといったこともよく言われるが、きちんと乾かしてしっかり燃焼させれば、針葉樹でも全く問題ないというのが実感である。 ・（スライド_下写真を示しながら）これは 80 年くらいの大木のモミだったが、誰もいない森林で巨木を倒すという体験は何物にも代えがたいと思っている。なので、業者に頼るだけでなく、興味のある方は是非自身で伐倒し、薪を調達する体験をしてほしい。
原さん	・ 今後バイオマスが燃料として注目されていくと思われるため、薪は高くなっていくと想像している。一方、自身で山に入って薪を調達する人も増えていくのではと思っている。 ・ 80 年生のモミを全て薪にしたのは少しもったいない。モミには材木として様々な用途があって、塔婆や、昔はキリよりも高級なタンス材として利用されていた。ただ、薪にしないで長い材木のまま出荷できるかといえばそれは無理なので、何かしらの工夫が必要になる。 ・ 木材の利用方法として、適材適所での利用を意識し、太い部分は薪用、直径が 10～20cm の部分はキノコの原木用、それより細い部分は炭焼き用というように、太さに応じて使い分ける、余すことなく利用するという使い方が良い。 ・ 大木も全てを薪材にするのではなく、「カスケード利用」といって、例えを上げればマグロでイメージすると大トロ、中トロ、赤身といったように、単一ではなく用途に合わせて多段階で利用するといった視点が大切である。
菊地委員 （司会）	・ 暮らしの中で実際に使う人がいて、使う人に届ける業者があり産業がある。両者が滑らかに繋がっていく接点をどういうふうに設けていくのか、コミュニケーションをどういうふうに設計できるのか。そのための仕組みが必要かもしれない。 ・ 仕組みを作った上でどう運用していくのか、ビジョンを策定するに際して具体的な実装の段階にまで辿り着けると、次のフェーズを迎えられるのではと思う。
原さん	・ 森の様々な恵みについて最後に少しお話したい。生活での衣・食・住で必要になるものは森の中でほぼ調達できる。森に入っても食べ物がなく、草が生い茂って入りにくい夏を除いては、一年を通して利用できる。 ・ 衣の部分では、例えばシナノキからは繊維が取れて「しな布」と呼ばれる織物が作られたり、食の部分では、春の山菜や秋のキノコ、冬のジビエといった恵みがある。他にも昔は薬草・薬木としての利用も盛んだった。



切り倒したモミ大木（スライド）



第 1 部トークセッション

■第1部 森林の「物」としての活用 グループワーク

①カラマツ グループ

- 得か損かという経済面だけにとらわれた考え方はよくない。
- “温める”だけではなく、木を“冷やす”ことにも使えればよいのでは。
- 熱源には色々あって、飯島町では約1割の方が薪を使っている。こうした方々が今後何を熱源として使うかにより、ゼロカーボンへの影響も出てくる。
- 普段使っている製品の木質化ができないか。例えばパソコンで使うマウスやキーボードなど。大学生とタイアップしてマーケティングをしてもらうなど協力ができればよい。
- 木製の物を取り入れたいと思っているが、例えばお皿にしても外国材の製品が多く、国産材の物は高価なことも多い。今のところ国産材の木製品は箸くらい。
- 地域の材を、その地域の中で使っていければ、運送にかかるエネルギーも少なくて望ましい。
- 森林のオーナー制度はどうか？上(木)と下(土地)の権利を分けて、薪を使いたい人、木材を確保したい人などが、それぞれの木の使い方オーナーになれないか。
- 子どもたち専用の里山があったらどうか。
- 釣りなどしながら山の中で聞く川の音が心地よい。
- 安曇野市には、標高が低くても景色がよい光城山がある。松本市にもそういう山があればよい。
→ 弘法山から中山霊園に繋がる遊歩道などはいくつかある。
- 山の恵み(キノコなど)を餌にして魚を育てて付加価値を付けてはどうか。
- 地元産の材を使ったものを買うだけではなく、自分で製作できるキットとして販売して、販売会を兼ねた体験会などやってはどうか。

②コナラ グループ

- パルプ生産はどうか？地産地消できないか。
- 枝などを破碎したチップの山のなかに勝手にカブトムシが育っているので、本格的に養殖しカブトムシ園にしたらどうか。観光としてもよいかも。
- チップを農業利用してはどうか。
- 人(他人)の山に入れない。特にキノコの時期だと入れない。森林税払っているのだから入ってもよいのではないか。
→ 山にはそれぞれ所有者がいるので、勝手に入っているという人もいるが、基本的にはよくない。
- 山を持っているが相続の継承者がいない。継いでくれる人がいない。そのため余計荒れて、境界もわからない。手入れが不足している。
- 何年か前の雨氷害の片付けが大変。薪として使えば、災害跡地も片付く。
- 木の名前を知ることで興味が湧き、木の特徴を知ることさらに有効利用に繋がる。
- クラフトフェアもあるし、木のことをもっと知ってもらいたい。
- 若い人は木のことに興味を持っていると思う。ネットでの情報発信が大事では。

- 夏は農業で、冬に山仕事をすれば、山だけで食べるのではなく、多少年収が少なくてもいけるのかな。
- 需要と供給をネットをつないだら、木材の利用が増えるのではないか。
- 農業で伐採した枝などを使えないか。オオクワガタを育てるのに使えるかも。
- 地元の木で炭づくり、食器づくりして、燻製、BBQ を楽しむ。
- ホームセンターで地域材を扱えるようにならないか。価格、量、質で課題は山積みだが。
- 木の特性、使い道を教えてもらいたい。知れば利用が広がる。
- 木の伐り方を知りたい。自分で伐ってみたい。県で講習会はやっているが危険も多い。
- 木を伐るのはよいが搬出利用するためには道が必要。狭い道だと重機は入れるがトラックは無理。
- アカマツ枯損木の何か画期的な利用法が見つかるかといふ。夢物語だが、そうすると松枯れの山も変わるかも。
- 林業の情報が少ないと思う。ネットでも林野庁のページ見てもない。簡単に知りたい。

③アカマツ グループ

- 60 年間林業をやってきた。林業を取り巻く、国、県、市の仕組みを含め現場の状況を含めて具体化していくことが大事である。山辺の財産区の利用方法について、色々と提案してきたが具体化されなかった経験がある。
- 松本市には色々な位置付けの森林がある。この場では、国有林、民有林関係なく色々な森林の利用について議論するということが良いのか。
- 松枯れの対応について興味がある。何も手当できないままアカマツが枯れてしまった経過について何か出来なかったのかと気になっていた。枯れる前にアカマツの利用をできなかったのか。
- 今となっては、どうしようもないことであるが、松枯れが進む前にアカマツを伐って利用できなかったのか。
- アカマツでマツタケを採取したいなどの希望を持っている人も多く、空中散布への健康被害の話もあり、なかなか皆の意見がまとまらなかったこともある。
- アカマツを枯らさないために、薬剤の空中散布や樹幹注入などがあるが、多くの費用もかかるし効果も限定的なところがある。樹幹注入したアカマツの林でマツタケが出てくるのかどうかも微妙なところがある。
- 立ち枯れしている多くのアカマツをどうしてよいのか。見た目も含め非常に不安感があるが、土地所有者の問題もあり、どのように対応していくのか方針が定まらない。
- アカマツは、自然下では、あまり長生きする木ではない。あまり土壌が発達していない荒れ地、ガレ場などに生育する植物であり、土壌が発達してくると、徐々に広葉樹等に天然更新していくことが多い。松枯れが発生しているアカマツ林は遷移の末期にあたると考えられる。
- アカマツの後、広葉樹になると、また別のキノコが生えてきて利用することもできる。

- 単純に木を伐るというが、伐った後の対応については、地形や樹種にあった適切な対応について決まりがある（天然更新や植林等）。森林経営計画などの森林を扱う決まりもあり、また国有林や県有林、民有林により所有者の考え方もある。
- アカマツの対応については、枯れる前に伐って利用して、樹種転換していくことも考えられるが、マツタケのために木を残したいと希望する人など様々である。
- 地域の要望をとらえた森林の利用や整備が進んでいくことが理想であるが、なかなかうまく進んでいる事例がない。うまくいっている場所としては赤沢休養林が挙げられる。
- 土砂崩れの場所に出てきた木がたくさんあって、それを使ってもらいたい。木が欲しい人と木をもらってほしい人のマッチングが大事ではないか。

④クヌギ グループ

- 現在、山には木が多く木材がたくさんとれる状況にあるが、一方で現在の林業では材の売上だけでは成り立たない状況もある。防災の視点もあり色々な補助金をもらいながら、ようやく成り立っている。
- 松枯れで立ち枯れたアカマツは乾燥しており、薪としては有用であるが、現状ではうまく活用できていない。搬出の問題もあり、現在ではチップの利用がほとんど。被害材の活用ができるとうい。
- 一方で、薪ストーブの薪の確保は非常に大変である。河川内の樹木を伐採するなどして薪にする機会もあるが、非常に倍率が高い。
- 山の所有者など薪を提供できる人もいるかもしれないので、これをマッチングする仕組みがあるとよい。たとえば、薪をとるために山の一部を開放する、オークションやメルカリのように web 上で売る仕組みもあるのではないか（モリカリ？）。

⑤ケヤキ グループ

- 薪ストーブを普及させるためには、伐採～加工～流通の過程がシンプルになることが鍵になるのでは。
- 燃料材として化石燃料から木材へ再転換する仕組みをつくれないうか。
- これからは山仕事の人材育成も重要になってくるのでは。いきなり山に入って作業するのは難しいので、子どもの頃から山に慣れ親しむことが大切。事例の一つとして、佐久穂町では小学 4 年生～中学 3 年生までの間、林業体験の授業が行われていたりする。
- 小さい頃から生活の一部に山があり、風呂での薪利用は当たり前だった。だが最近では山で作業する人がいなくなってきて山の維持が難しくなっている。
- 山に興味がある人に少しずつ周知していくことが大切では。周知する際もいきなり林業や炭焼きの専門的な話をするのではなく、親しみやすい登山やアウトドアといったところから徐々に間口を広げていくようなやり方が有効ではないだろうか。アウトドア企業と連携し林業する際のかっこいい作業

着を作ってみるといったこともいいかもしれない。身近に木を伐る体験ができるような場所もあればいいと思う。

- 人材が足りなくなっている中で、せっかく良いアイデアが出て周りに繋がり広がっていく機会が持てなかったり、困った時に誰に相談すればいいのか適当な窓口がないという状況になっている。そういう意味ではこの森林再生市民会議がその窓口の一つとして機能していくのかもしれない。商売の仕組みだけでは成り立たなくなっていて、これからは対話やアイデアのやり取りが重要だと思う。これまではお金のこと中心で活動してきたので、市民は離れていったと思っている。
- 山との関わりは人それぞれで、たくさんあるメニューの中からどうやって関わっていけば良いのかが見えると良いと思う。
- 何かきっかけがないと、多くの市民は山に行かない状況になっている。そのきっかけ作りは昔と違って意識的に作らなければ出来ないと思う。松本市のような大きな都市では市民活動だけでは難しく、行政の力も必要だと感じている。松本市では財産区など団体で所有している山林の面積も広いことから、取り組みやすい一面もあると思う。

⑥ヒノキ グループ

- 昔は山を持っている人は自分の所有する山から伐り出したヒノキで家を建てていた。建てた直後はヒノキのいい匂いがする。
- 市内～上高地の間の道沿いには、手入れが難しい山がある（上高地線沿線）。森林とも言えない雑木が生え、草刈りもできない、使えない木が生えており、放置されている。見た目も悪い。個人では管理できないが、倒木が線路を塞ぐなど安全上問題にもなっている。上高地に通じる観光道路でもあるので綺麗にした方がいいと思う。倒木問題が生じたため管理について考えるようになり各方面に問い合わせをしたが、JRも管理できないといわれ地主も手が出せない状態となっている。行政で何とかならないか。
- 森林を管理することで、風景を管理し観光資源として活用することができるのではないか。
- 土砂崩れがあった場所に堰堤を作る場合、その場所から伐り出した木は欲しいと言わなければ産廃になるそう。木を欲しい人はいるはずなので、そういう人と繋ぐネットワークがあるとよい。
- 昔、薪は自分の山から伐り出してきたものだが、今は薪を手に入れることが難しくなっている。
- 自伐型林業に興味がある。木を伐る事も大切だが、育てる視点も大切。
- 山のストーリーや山の恵みに興味が湧いた。山に入って話を聞けるきっかけを作るのも山を知ってもらう良い機会になるのではないか。
- 木曽町役場の建物は地元の木で作った建物。暖炉もあってくつろげる空間が作ってある。そういう場所が松本にもできないか。
- 木曽町で生産された木質チップを使ってボイラーを稼働させ、役場の冷暖房のエネルギーとして利用している。

- [illegible]

資料 54

■第2部 森林の「場」としての活用 トークセッション

話者	内容
大田委員 (司会)	・まず寿さと山くらぶ事務局長の鈴木さんから自己紹介をお願いしたい。
鈴木さん	・主に松本市の鉢伏山中腹で活動している寿さと山くらぶの鈴木です。出身は千葉県の船橋という漁師町で、平成元年に松本に来てそれ以降海の人から山の人にすっかり変わってしまった。普段は飲食店を経営しており、山に入ることが誰よりも好きな信州人だと思っている。
佐藤さん	・信州大学経済学部3年の佐藤です。学んでいる分野は経済で、森林とは直接関係ない分野だが、小さい頃から生き物が大好きで、今も夏場には白馬村でネイチャーガイドのアルバイトをしたりしている。普段は子ども達に山に入る楽しさを伝えられたら嬉しいと思っているので、今日はそういった視点でお話してきたら嬉しい。
大田委員 (司会)	・第2部で司会進行を務めさせていただく大田です。普段は理学療法士としてリハビリに関わる仕事をしており、登山がとても好きで毎週のように登っている。その中で自然についてさらに知りたくなり、この運営委員会でも活動させていただいている。 ・まず初めに、鈴木さんから森での活動についてご紹介いただきたい。
鈴木さん	・私が感じている信州の山のイメージと、こんな山だったら楽しいなという点をお話しさせていただきたい。 ・普段は飲食店で調理の仕事をしているが、松本市に引っ越してきた当初は仕事の息抜きとして山に入って昼寝してくるというのが習慣だった。「山って素敵だな、気持ちいいな」というのが最初の印象で、さらに地元の人に連れられて山菜やキノコ採りをしていると、この楽しさを受け取るばかりではいけないという思いが芽生えてきた。 ・何か自分自身で山に対する恩返しができないかというのが森林整備をするようになったきっかけで、整備をし始めると大人だけではなく子ども達も山に連れていきたいと思うようになった。そこで地元の小学校の校長先生に相談したところ、その年から6年生を対象に活動することになった。次の年には他の小学校の5年生が全員山に入るようになった。山に入ると色んなことを子ども達から聞かれる。その質問に答えられるように勉強しなければならないと思い、勉強して林業士やキノコの指導員の資格も取った。 ・50年以上昔の森は、山に入って柴や薪、山菜やキノコを採ってくるようなイメージかと思うが、今はどうかというと、キャンプを楽しんだりリラクゼーションを目的に山に入る人もいる。こういった目的で山に入るのは昔にはなかったことである。 ・子ども達にとっては、蝶や鳥を観察したり、のこぎりを持ってくれば木を伐ることもできる。それから、クマがいるかもしれないワクワク感とか、シカが鳴いている声が聞こえたりといったふうに、子どもたちにとって山はとても楽しい場所である。 ・子ども達を連れて山に入ると色んな子どもがいて、楽しんでもくれる子ども達がいる一方で、「山って虫がいるから嫌い」「歩かないといけないから疲れる」という感想を漏らす子ども達もいる。今は嫌いでも良いので、子ども達それぞれ

話者	内容
	れで色んなことを感じてもらって、20年経って振り返った時に、「山で習ったことは良かったな」と思ってもらえればそれで良いと思っている。子ども達それぞれが自分に合った楽しさを見付けていくのも山の良さである。
大田委員 (司会)	・お話を聞く中で、遊び方や楽しみ方は本当に人それぞれで、体験した子どもの頃だけでなく、大人になってからその良さを改めて実感できるというのも山の良さだと思った。 ・佐藤さんは山に対してどういった興味を持たれているのか。
佐藤さん	・ネイチャーガイドの体験から思うことで、参加してくれる子ども達は都会からが多いが、意外と皆虫が大好きで驚く。こんなに虫も好きなのに普段どうして山に入らないかという、大人も含め山に対する知識を持っていないという問題がある。そこで、山の楽しみ方を伝えることができたらいいなということを思っており、親子向けに生き物の写真を撮る教室を開いたりもしたこともある。
大田委員 (司会)	・山にどうやって入るかが当たり前でない人に対して、その入り口を作ってあげるのが鈴木さんの活動でもあると思うが、その入り口を作ろうと思ったのはどういうきっかけだったのか。
鈴木さん	・私は子どもの頃もっぱら海で遊んだが、同じように子どもの頃から山と慣れ親しむことが大切だと思っている。例えば山菜の採り方では「ここまでは採ってもいいけど、ここから先は次に来る人の分だから採ってはいけないよ」とか、祖父母などから教わることはとても大切である。私も子どもの頃は、自然との付き合い方について祖父母から教えてもらった。そういった自身の体験から、自分も山との付き合い方を子ども達に教えられる大人でありたいと思ったのがきっかけである。
大田委員 (司会)	・佐藤さんは、どうしてネイチャーガイドのアルバイトを始めようと思ったのか。
佐藤さん	・最初は偶然の部分もあって、白馬村に写真を撮りに行った際、利用したカフェのオーナーの方がネイチャーガイドの主催の方と知り合いで、そこで紹介してもらったというのがきっかけである。 ・父も自然が好きで林業関係の仕事をしているということもあり、小さい頃から山菜を採りに行ったり、ウルシに触るとかぶれるということを教わったりした。そういった体験のない子ども達が親に教わる機会がないから山に入れないという壁があるのは悲しいと思っている。 ・そういった気持ちがあったので、自分も教える側に回ってみたいと思ったのがきっかけである。
大田委員 (司会)	・お二人とも色々取り組まれていると思うが、やってみて大変だったことはないか。
佐藤さん	・相手が子どもなので行動の予想がつかないこともあって、咄嗟に対処するのが難しいと思う時がある。また、こちらが分からないことを質問された時に答えられない場合は焦りを感じる。 ・大変な部分も多いが、子ども達に質問されることで自分も勉強しようと思うので、自分も成長できるよい機会になっている。
鈴木さん	・子ども達に質問された時にどう答えるかはとても大切にしていることだし、大変なことだと思っている。自分が勉強しなければならないのは当然で、さらに

話者	内容
	どうやってうまく伝えていくのかという点も大切にしたいと思っている。 ・例えば、毒キノコのニガクリタケはどうして食べてはいけないのか、言葉だけで伝えるのはとても難しく、実際にかじってみると他のキノコにないような苦さがあって実体験として伝えることができる。「ちょっとかじってごらん、かじっても飲み込まずに吐き出せば大丈夫だから」と言ってかじってもらって、そこで一生忘れない苦さが口の中に広がる体験ができる。でも親御さんから言わせると「毒キノコ食べさせられたんだって」ということになるので難しい。 ・山でやってはいけないこと、例えば、やたらに火を焚いてはいけないとか、むやみに木を伐ってはいけないとか、山菜やキノコを採り過ぎてはいけないとか、山には所有者がいるので、入った時のマナーは守らなければいけないということをきちんと子ども達に伝えていかなければならないと思っており、それを自身に課している点は少し大変だと感じている。
大田委員 (司会)	・やってみたいけどどこまでは踏み込んでもいいのか、リスクが分からないとどうしてもやらなくなってしまうので、それを教えてくれる人がいるというのはいい環境だと思うし、それを広げていけるのはいいことではないだろうか。 ・佐藤さんから鈴木さんへ聞いてみたいことはあるか。
佐藤さん	・炭焼きの体験を子ども達とされたことはあるか。
鈴木さん	・本格的な炭焼きではないが、簡易型のドラム缶を使って竹やナラを炭焼きにしたことがある。炭焼きも木材を活用する方法の一つで、木材をこういった形で活用するのかといったことも大事な整備の一つである。 ・最近は色々な学校からバームクーヘン作りの要望があり対応することが多い。焼く工程や出来上がりが木の年輪をイメージさせるので、子ども達に木の勉強も兼ねてカラマツの輪切りになったもので年輪のでき方や冬と夏の違い等も説明しながら、「20年の木を1時間で作ってみよう」といった形でバームクーヘンを作ったりしている。
大田委員 (司会)	・木の成長を子ども達自身も感じられる取り組みはとても素晴らしい。自分自身でも森林をもっと活用してみたいという思いがあるが、お二人がさらにこういう活動をしてみたい、深めてみたいと思われることはあるか。
佐藤さん	・白馬の大自然の魅力はもちろんのことながら、身近な里山の魅力についても伝えていきたい。それから、自分の趣味を活かして生き物の写真を撮る面白さも伝えていければと思う。
鈴木さん	・山に入る人の目的や気持ちでその使い方が違ってくる。リラックスしたいと思って山の中でのんびりする人、登山を楽しむ人、キノコや山菜を採りに来る人、狩猟をする人、それを全部受け止めてくれるのが山である。松本の山はとても素敵ですぐ目の前に広がっているので、全ての人を受け止めてくれるような場になっていけばいいと思う。



第2部トークセッション

■第2部 森林の「場」としての活用 グループワーク

①カラマツ グループ

- 体験の場が大切だと感じている。特に子どもは普段やらないことを体験できると新しい一面が見えてきて、貴重な場になると思う。
- 最近の生活では山に関わるのが少なくなっているので、山の楽しみ方や付き合い方を伝えられると、山に入る人も増えていくのでは。
- スケートの小平選手が浅間温泉地区の大音寺山をトレーニングで利用していたそうだ。スポーツでのトレーニングの場としても使えるのではないか。
- 子どもが遊べる環境の整備：浅間温泉にある保育園の園児達の遊び場を現在整備しつつある。
- 遊歩道の復活：昔あった道を整備して使えるようにしては。一から作るより元あった道を整備するほうが楽である。
- 森林をレンタルするサービスとして「forenta(フォレンタ)」などの取り組みも始まっている。
- キャンプ、リラクゼーション、ヨガなどレクリエーションの場。
- 子どもの頃に森林体験をして、大人になって森林に関連する仕事に従事した人はどれくらいいるのか？
- 企業研修の場：トレーニング的要素を組み込みながら。
- 野外で算数：北欧での教育スタイル。机に向かって勉強するばかりでなく、外での活動と合わせると学力向上に繋がる実績あり。算数だけでなく他の教科でも有効。
- 子どもの頃から森の中での教育を習慣化する。安全管理面だけ確保すれば、少々騒いでも問題ないし親の負担も減る。内発的情動の発散の場にもなる(子どもだけでなく)。
- ピークハントではない山歩き、溪流ツアー、狩猟ツアー。
- 自然享受権：北欧での考え方。誰でも森に入れる権利がある。そのためには、根こそぎ採るのではなく両手に抱えられるくらいに留めるといったモラル。日本にも昔はあった。
- 森林セラピー、リハビリ、予防医学：バリアフリーではなく、森にはバリアがあることを逆手に取ってむしろ活用する。バリアがあることで慎重にもなるしバランス感覚が養われる。危険なことは悪いことではない。安全ばかりだと感覚が衰える。危険なことを察知する能力や感覚は大切。
- ものの成り立ち、プロセスを大切に。自分の手元に完成品として届くまでにどういった過程を経て来たのか(木材、食べ物など)。
- 昔から今に至る経緯や知恵の伝承。年長者への敬意。
- 命を頂いている実感を大切に。例えば、学校でのアイガモ農法や豚飼育の取り組み(最終的に食用にするとこまで含めて教育)。自分が他の生き物に生かされていることを実感した上で自分はどうか生きたいのか考えることが大切。他の生命に支えられて自分が生きていることを実感する。
- はじめから危険を排除しない。失敗したり恐怖を感じたりして学ぶことも多い。バーチャルではなくリアルな体験が大切。
- 松本という立地の良さを活かし、景観や眺望に配慮した森林整備を行っては。

②コナラ グループ

遊び、スポーツ、観光

- ツリークライミング、そのままの森林の姿で楽しむ木登り、山を傷めないマウンテンバイク、トレイルラン。
- 子どもたちは山を楽しそうに駆け回る、駆け下る。
- 人の集いの場、カフェなどの場。
- ビジョンには東山(美ヶ原)、西山(乗鞍、上高地)の観光地という視点は外せない。
- 観光地としての森林に行ってみたいという動機になる。

教育学習

- 森林整備の現場を環境学習の場として利用する。短期、長期で森林の状態が変わっていく様子を見る。普段は危険なので閉鎖しているが、日を決めて開放し知ってもらう。
- 城跡、山城、旧道、森林作業道を歩く。
- 昔の大人は山仕事で山に入り子どもも付いて行ったが、今は大人に知識がないと山に入れないし、そうすると子どもも山に行かない。
- 山保育、幼稚園、木育。
- 知識がないから山に入れないのではなく、分からないから入ってみて体験する、学ぶのが大事では。
- 自然観察会に行ってみて普段から目にしているのに、この年になっても知らないことがたくさんあって勉強になった。

ヒーリング・癒し

- 五感がいきいきと働く、匂い、風。
- 四季は当然だが、朝・昼・夜で感じ方が違う。

生産地

- 木材、建築用材、チップ、パルプ、薪。
- 山菜、99%が食べられないキノコ、ジビエ。

水・水源地

- 水をはぐくむ、魚を育てる、水源涵養、農業用水、水の音、木の中から水を吸い上げる(流れる)音が聞こえる。
- 大規模伐採や薬剤散布の流域や地下水への影響はどうか → 昔の規制が緩かった農業の農薬のほうの問題と思う。

その他

- 山に行くのに車を停めるのに苦労する。→ 止め山以外は入るだけで怒られることは少ない。
- 昔のような入会山のような形態があれば入りやすい。

③アカマツ グループ

- 森林所有者としては、維持管理で木の伐採などをしなければならないが、非常に負担が大きい。
- 個人で山を少し所有しているが、その管理や利用で悩んでいる。所有地内のアカマツが枯れてしまい、その時は無償で伐採してくれたのでありがたかったが、その後、ニセアカシアなどが生えてきてしまい、その管理を市などから指導を受けてしまっている。自分で伐ることもできず、維持管理のために費用が掛かってしまうことが悩みである。山を持ってもお金にならない。補助金を調べたがよく分からなかった。
- うまく山、森林の利用が出来ていない土地所有者としては、木が育つことが負担になっている状況がある。
- 水源涵養林、保安林など色々な位置付けになっている林がある。
- 山に入るには目的があり、何かあって山に入る。田舎の人は知っているかもしれないが、昔は屋号とは別に家印を持っていた。妻の実家の家印は、「入山二(入り山二)」というもので、山に入って何かをしていたことが推測される。田舎の何かしらの山や里の産物などを出す人(特に商売をしていた人)がこの家印を持っていた。今でも農家などでは使っている人がいるかもしれない。
- 山に入るにはガイドが重要になっている。昔は、地域の人が山を知っていた。
- 道がなければ入れない。林道が荒れて放置されている。
- 山は遊び場としてとてもいいところであるが道がない、公共交通機関も不便であることなど、簡単に山に入れないのが課題ではないか。
- 山にどうやって、どこから入っていいのか分からないという状況があり、ガイドは重要になっている。
- 誰の山か分からない。山、森林を利用したい時に、どこの誰に相談すればいいのか分からない。子どもの体験の場などとして近くで山のビオトープを作りたく、近くの山に入りたかったが、なかなか持ち主にたどり着くのが難しかった。
- 財産区など地区の共有の山では、地元の方と話をして山の利用を進めやすいところがあるかもしれない。
- 子どもの頃に山に入る体験は大事である。
- 明治より前は土地を登記する制度がなかった。山の土地所有者が明らかでなかった時代もあった。
- 山の所有の仕方・あり方が課題となっているのではないかと。山のオーナー制度は可能なのか。不可能ではないかもしれないが、山の所有者の合意が得られるのかがネックになるのかもしれない。
- 市が山の所有者をまとめて、管理の在り方を模索していくことが出来るかもしれない。
- 森林経営管理法という法律ができて、個人で森を管理するか、市に管理を任せるか、民有地の人工林を対象に決めることができる制度が出来ている。ただ、この制度に基づいて進めていくにあた

っては、現状の把握や所有者の意向確認、実際の進め方が課題になっている。今回のフォーラムなどの開催も市民の意向を確認する一つの取り組みではあるのだと思う。

- 山の所有者が声を出す場が大事である。このようなイベントが開催されていくことは大事であると思う。
- 山のことを伝えるツールとしてAR(拡張現実)などの技術も利用できないか。
- 山のことで、若い力、ベンチャー企業などが関わってくことで活性していくことができるのではないか。
- 山、森の管理では、土地の様子や利用目的でゾーニングして、使い方含めデザインしていくことが大事である。
- 山、森の土地利用を考える際には、木材の生産にはかなり長い時間をかけて計画していくことが大事になる。
- 今回の会場(旧制高校)の歴史的な木造建築物は、時代的に考えて松本地域の木材だけで出来ている。ただ、今ではこのような木材を地域から伐り出して利用する仕組みはなくなってしまっている。一方で、この建築物ができた時代は逆に地域の木材を使うしか方法がなかった。今こうして会議をしている机は木目調であるが木ではない。色々な問題や流れがあり、地域の木材が利用されていない現状がある。
- 新島々にあった歴史的な木造建築物も最近なくなってしまった。
- 公共建築物などで木材を利用するなどの動きを活性化していく必要があるのではないか。
- 今後の山、森の管理や利用に関しては、市民、山の所有者、林業関係者、行政が声を出し合っていくことが大事になる。
- 自然、生物の利用目線でも山の管理のことを考えることも大事ではないか。里山は人が利用することで作られてきた環境であり、またその環境に適応した生物がいたということがある。
- 人が生活するようになる前から、山には自然に森が広がっていたが、人が利用してから時間も長く、多様な森が出来てきたという経緯もある。

④クヌギ グループ

- 松枯れの伐倒駆除だけでは被害が収まらないので、面的にどんどん整備を進めたほうが良いのではないか。
- 所有者の意向にもよるが、林業事業体が森林経営計画のもと森林整備を進めている。
- 整備できる場所は、地形や採算性の問題からどこでもできるわけではない。
- 林業事業体や林業従事者の減少から、整備が進んでいかない現状がある。
- 輸入材から国産材に目を向けられてきているが、林業者の人手不足は否めない。

※一般参加者から森林整備に対する意見があり、それに対する現状や課題についての話し合いで終わってしまったため、「場」としてのアイデア出しにはならなかった。

⑤ケヤキ グループ

- 薪を採る場所の確保に苦労しているので、市民に開放されたオープンな薪採り場があればいい。
- 山林整備のボランティアの方や、野鳥など自然に詳しく観察会を開催している方などの協力を得て、せっかく近くにある山を教育面でもっと利用できないか。SGDsに繋がる教育もできるはず。
- 子どもの遊び場として利用できるとよい。
- 自然観察会では、咲いている花や鳥、蝶などについて説明することは多いが、木について話すことはほとんどなかった。“こういう木がある山の中には、こんな花が咲いて、こういう鳥や蝶が集まってくる”というように繋げて学べるとよい。(生態系の考え方?)
- 最近はキャンプブームだが、その先には「山でサバイバル」がブームになるかもしれない。

⑥ヒノキ グループ

森を知る機会

- 知識をしっかりと持っている人と一緒に入ることの大切さ。
- 以前は家族や地域が教えてくれた。社会と山は地続きで成り立っていたが、今は大人も知識がない。
- 楽しみ方を知っている人に正しい知識を教えてもらうことが山と親しめるコツ。ガイド的な人がいるとよい。
- 子どものころに山の知識を得ると、大人になってから森のことを大切に考えることができる。
- 機会の提供が必要。すべての小学生に体験をしてもらうなど、学校教育の場に取り入れる等、広く知識を伝えていけるといいと思う。
- 高校の“探求”の授業で「森林」を取り上げようとしたら、先生には「山なんてスパンの長い物を調べても結果がでないのでは」と言われ、逆に「国産材を利用しなくちゃいけない理由は何?」と質問されたくらいだった。結局、自分で企業を訪問して調べた。学校の先生も「森」を知らない。「教育」が必要。学校の中でも「森」の知識を共有できる場が欲しいと思った。
- 人と共有意識を持つと、繋がりが生まれる。
- 山との関わりが多種多様すぎる。山の恩恵を分かっていない人が多すぎる。再認識して共有することが必要。
- 山や森の入口が分からない現状があるので、コンシェルジュのような人が必要ではないか。教育、体力作り、飲食店など色んな関わり方を求めている人に情報を提供したりコラボしていける場を作ることでも必要ではないか。
- 里山を資源として活用できるのではないか。
- 山岳ではなく、野山や小川も身近な「森」の一つと捉え、敷居を低くして森と関われたらいい。移住者にはそもそも森の情報を得られる窓口がない。

- 学校に入ったら「森で遊ぼう」みたいなパンフレットを配るとか、入口を紹介してもらえたら。この部分は企業の取り組みではなく、入口はぜひ行政主導で取り組んでもらいたい。
- 「海の家」的な「森の家」があったらいい。そこにはライフセーバーならぬ「森林セーバー」がいる様な施設があったらいい。

ハードの整備

- 登山道がボロボロになっているのも、人が山に入らないのが原因の一つ。

時代認識

- 山との関わりは、もともとは山菜や魚とりなど日常にあったものだったが、今はキャンプやレクリエーションなど非日常を求める場になっている。日常(都市部)の中で生活は完結する社会に生きている。

継続性

- 松本市や市外の人にも広めていける仕組みを考え、知識の提供(ガイド)を仕事として成り立たせることも必要ではないか。お金になることが重要。市内外の企業や学校にも教育旅行と形などを作って提供していくこともできるのではないか。そういう産業が成り立てば森の価値が高まってくる。「場」に価値を見出し、「体験」に価値を生む。お金を生むというシステムもあったらいいと思う。
- 副業としても山と繋がれるといいなと思う。
- 生業ではなくても副業となるのもいい。
- 土日だけとか部分的にガイドする。そういう仕事のあり方も面白い。
- 資産として森を保有している例もある。持っている山をレクリエーションの場として提供する活動もよいのでは。小諸には日清食品が手掛ける安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターなどの例もある。

■参加者からの感想（アンケートでの自由記述）

設問：そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。

- ・山の楽しみ方
- ・木材のいろんな利活用方法
- ・ワークショップ形式で便利グッズ作り

設問：松本市に対してご要望（森林や林業）があれば、ご自由にお書きください。

- ・木材を多く利活用する生活の仕組みを作る。
- ・学校の教育プログラムに山遊び、林業体験を取り入れる。
- ・私有林から道に張り出した枝は、市で片付けてほしいと思います。

設問：森林や林業に対して、ご自由にお書きください。

- ・山に行きたくなるきっかけ作りが必要

設問：全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。

- ・林業、森林再生に限らず、他地域での市民活動、市民会議の成功事例を参考にしたい。
（例）札幌市民会議
- ・自宅近くにある私有林の管理を満足にできずいます。ひとつでも何か良い情報を聞くことができればいいかなと思い、参加しました。自分と同じ悩みを持つ方とお話してきたことは嬉しく思います。森林の専門家からお話を聞いたことで、少しだけ希望の光が見えたような気がしました。
- ・森林の関係人口を増やすことが当面の目標だと確信しました。
- ・薪ストーブ利用者の体験談は特殊条件の話題でした。薪ストーブ利用者の体験談は面白く伺いましたが、薪ストーブ利用者＞薪用木材の自家調達可能者＞自宅脇に貯木可能者＞薪制作ツール・経験所持者という本当にまれな人の話なので、今回のフォーラムの主旨とは少し離れた内容だったと感じました。松本城から半径3～5km以内のエリアでは不可能なことでしょう。近所に薪ストーブを利用している方がいますが、その方の隣の家の人はにおいが臭くてたまらないと評価していました。さて、感想/私の思いなどを記載します。

①視点の提示

→時間がなかで行われたため、フォーラム参加者に向けて事前に視点を提示してあらかじめ関心を持たせることや、当日のグループワークは視点別にグルーピングする方法を採用すればより活発にアイデア出しができたと思います。

→視点としては、以下のようなものが考えられます。経験的には視点が変わると新しいアイデアが出しやすい。時間軸 季節別 / 時間帯別＞＞春夏秋冬 / 朝昼夜＞＞当日のグループワ

ークでは冬の話は出ませんでした。軸を設定しておけば冬のアイディアも出たはず。野鳥観察会／秋の星空鑑賞会／冬のスノートレッキングやスノーシューウォーク／渡り鳥の旅立ち観察／春先の早朝に木が水を吸い上げる音を木肌に耳をつけて聴く体験会利用法軸 当日は次の軸を提案しました。教育・学習／ヒーリング／生産地／水源地／スポーツ／観光。他にもあるでしょうね。観光について当日出せなかった内容を記載します。松本市は国内有数の森林資源と景観を持ちますが、現在の観光は外から眺めるだけです。森林の中に入って体験するような観光はほとんど行われていないように見えます。木曽福島町は森林と歴史街道を組み合わせ、ヨーロッパ観光客の憧れの地になっていますが、松本市にも善光寺街道をはじめとする歴史街道があります。安曇野市には2時間ほどで上り下りできる光城山があります。ここは駐車場・登山道が完備されていて人気の山です。松本にも欲しいですね。使う人軸 主として年代別 幼児子供／中学・高校／独身者／家庭人／中高年／高齢者などの年代別にかかわり方が変わります。ある年代には頻繁に森林にかかわっていたのに、あるときから疎遠になるのはなぜでしょう。

②関係人口の拡大

→森林とのかかわり方の濃淡に応じて次の3つを想定しました。それぞれのくらいの割合なんでしょうね。

1. 森林と直接かかわる人（林業者／木材加工・販売者）⇒ 1% = 2,360名
2. 上記以外の利用者（年に1回以上森林に入る人）⇒ 47,200名
3. 上記2項目に該当しない人 ⇒ 186,433名

→上項3を減らして2や1を増やすことが長期ビジョンにつながると考えます。

→このフォーラムそのものがその役割を果たしているわけですが、フォーラムとイベントの参加者を増やしたり、イベントの回数を倍増させるなどすることが、関係人口の拡大に寄与すると思います。

→後半の内容で登壇された「寿さと山くらぶ」は年間50のイベントを開催しています。つまり毎週1つの開催です。市民会議のイベントもせめて毎月1つ開催が期待されます。運営委員会の技量を発揮する時です。

③森林利用の日常化への障壁の解消

→森林にアクセスしやすい環境づくり：山に入りたくても駐車場がない。どの山に入っても良いのか、だめなのかわからない。山菜やきのこを採取しても良いのかかわからない。つまり、どの山なら、何をやってよくて、どこに車を停める、と言うことが明示される状態を作る。

→森林利用ルール作り：寿さと山くらぶが実施しているような、森林に関する初心者向け教育を受けてから山に入る仕組みを作る。

④貨幣経済に直接結びつかない効用／活動の評価と拡大

→森林が直接生み出す価値（主として経済価値）以外の価値を重視する。

→におい、空気、風の音や肌触り、光（木漏れ陽、夜空の星）、土や木肌の手触り、水（音）、開花、紅葉、落葉、雪など、すべてに価値がある。

→ただ森にいただけで癒されるという価値を、皆に体験してもらいたい。

⑤森林オーナー制度

→りんごのオーナー制度があるように、森の木々のオーナー制度が欲しい。家具職人、薪用、地元の木で家を建てる人などを対象にして、木々のオーナーとなり管理費用を支払うことの対価としてその木の利用権を得る。

→所有と利用の分離が実現できるような法的整備が前提となる。

→木々の時間は 100 年単位だが、それを人間の時間でどうやって利用するか調整が必要。

→森林内の木々を個別に峻別できる仕組みは実用化されている。（信州大学農学部発でドローンを利用した森林分析のベンチャー企業がある）

松本市森林再生市民会議 令和５年度フォーラム 開催報告

1. 開催日時

- ・日時：令和６年２月４日（日） １３：００～１６：００（１２：３０受付開始）

2. 開催場所

- ・松本市県 3-1-1 あがたの森文化会館講堂ホール

3. 参加者

- ・一般：31 名 パネル展示含む：11 件（9 団体＋2 個人）
- ・出演者：第１部 これまでの活動と市民の皆さんからの意見の紹介
三木 敦朗（松本市森林再生市民会議 委員長）
第２部 森林と市民を近づける取り組み
平賀裕子（伊那市ミドリナ委員会 副委員長）
- ・松本市森林再生市民会議 運営委員会委員
- ・事務局：松本市、環境アセスメントセンター

4. タイムテーブル

時間	内容
10：30～12：15	事務局集合、会場準備
11：00～12：15	パネル展示者 パネル設置
12：15～12：30	運営委員、講師、パネル展示者 集合 打合せ
12：30～13：00	参加者受付
13：00～13：15	開会 １ 松本市 森林環境課長あいさつ ２ 松本市森林再生市民会議の概要について
13：10～13：25	第１部：これまでの活動と市民の皆さんからの意見の紹介 発表者：三木 敦朗（松本市森林再生市民会議 委員長）
13：25～14：10	第２部：森林と市民を近づける取り組み 講師：平賀 裕子（伊那市ミドリナ委員会 副委員長）
14：10～15：10	休憩・パネル展示者紹介（司会：小山委員）
15：10～15：50	第３部：参加者全員でワークショップ 進行：三木 敦朗（松本市森林再生市民会議 委員長）
15：50～16：00	閉会



会場の様子



講演



パネル展示



グループワーク

【パネル展示者】

展示者	展示内容
森田 新（木工作家ブランド沐 MOKU glass）	木材とガラスを使ったグラスの紹介
岸野 奏（信州大学 学生/松本市環境審議会 公募委員）	県産木材を活用 ～キエーロコンポスト～
金子 健一（Alps gohan ごはんとおみやげ）	森林と食事の関係の紹介
新井 英季（環境活動家/松本市環境審議会 公募委員）	フィンランドに学ぶ農業管理について
小穴 厚（NPO 法人 浅間温泉木の絆会）	大音寺山における里山整備
永原 芳秀（松本広域森林組合）、 小口 真澄（横山木材(有)）	林業施業の道具及び様々な樹種の木材展示
廣瀬 誠、市川希愛、平山栞菜、二木琥央 （松本県ヶ丘高校）	松くい虫が及ぼす被害
松本市森林環境課	松本市有林のカラマツの活用 薪ストーブやカラマツ材活用補助金紹介
榊柳沢林業	森林、木材の活用に向けた取り組み紹介
松筑木材協同組合	カラマツの流通促進に向けた流れについて
寿さと山くらぶ	山を元気に！！ 山で元気に！！

5. 開催報告

■第1部：これまでの活動と市民の皆さんからの意見の紹介

「まつフォレ」これまでの活動

イベント 計7回（今年度3回）

- ・浅間温泉（山火事からの回復）
- ・乗鞍高原（森林浴）
- ・牛伏川（災害防止）



「まつフォレ」これまでの活動

アンケート

- ・市民 ……実施済み
- ・林業関係者 } ……2月実施
- ・森林所有者 }

- まつフォレと銘打ってイベントを行っている。今年度は3回実施した。
- 森林に関するアンケートとして市民を対象に昨年末に実施し、林業関係者、森林所有者対象は2月実施予定である。

「まつフォレ」これまでの活動

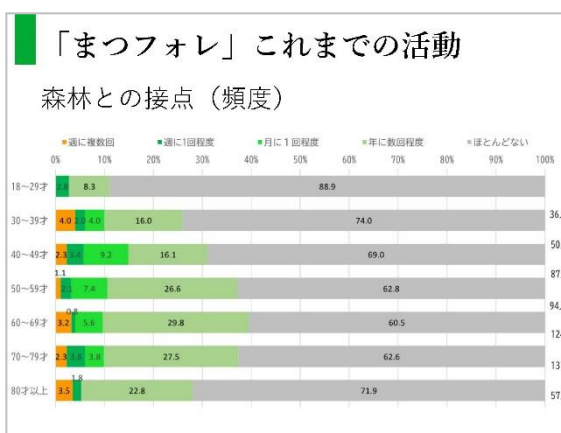
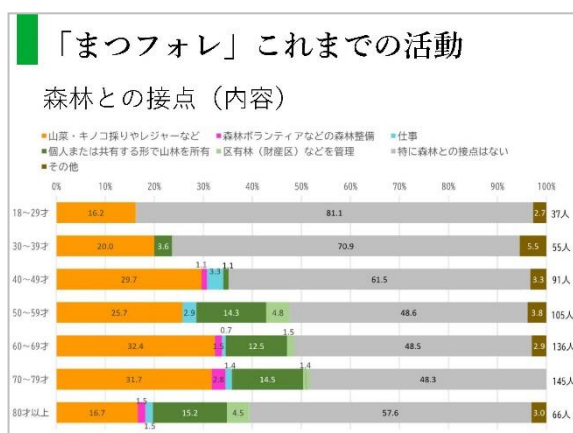
市民アンケート

- ・12月に実施
- ・松本市民2000人を無作為抽出
郵送かWEB回答
- ・回答数598（29.9%）

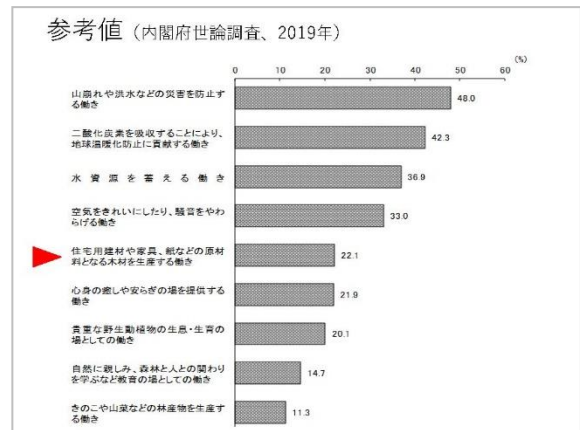
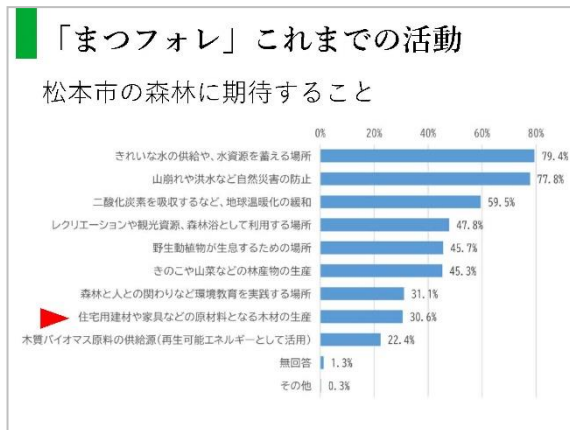


年齢区分	人口割合 (%)	回答割合 (%)
18-29才	14.0	8.0
30-39才	12.3	8.4
40-49才	16.9	14.5
50-59才	13.4	15.2
60-69才	14.4	20.9
70-79才	12.6	22.1
80才以上	12.6	9.5
無回答	-	2.8

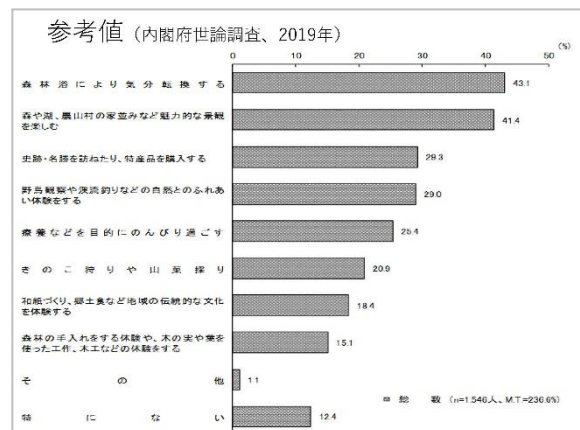
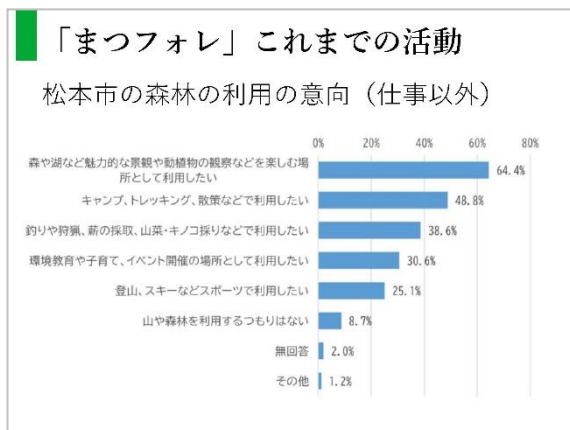
- 市民対象のアンケートは12月に2000名を対象に年齢別の人口割合に応じて、無作為抽出して実施し、29.9%の回答が得られた。



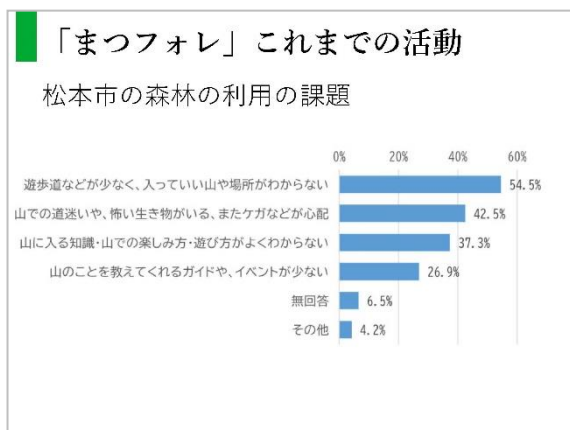
- 若い人の方が森林との接点が少ない傾向がみられる。
- 森を訪れる頻度をみても年齢が上がるほど、訪問回数は増え、年に数回訪れるという方が多いことが分かった。



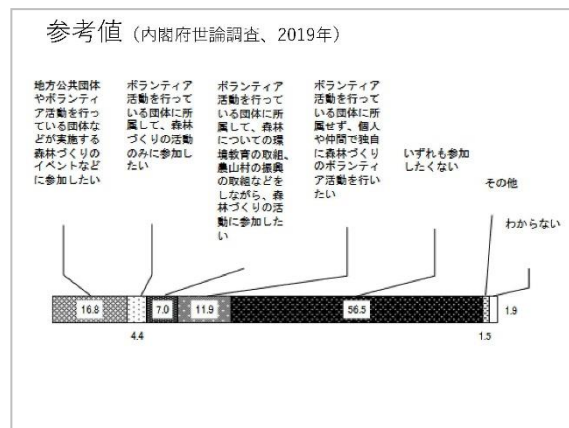
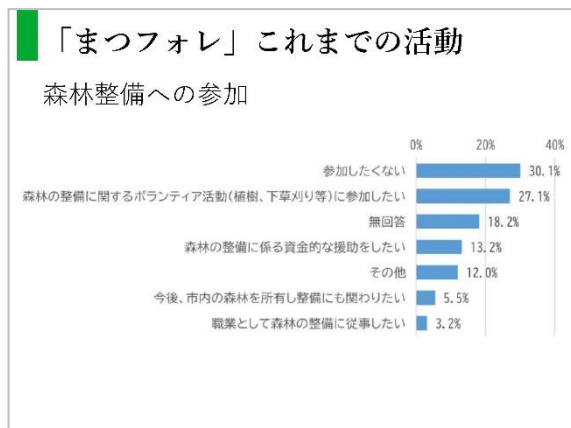
- 「きれいな水の供給や、水資源を蓄える場所」や「山崩れや洪水などの自然災害の防止」が 80% 近い回答があり、内閣府世論調査の結果とも同様な結果となっている。
- 「住宅用建材や家具などの原材料となる木材の生産」との回答については、参考とした内閣府世論調査値では 2 割強の回答に対し、松本市では 3 割の回答があった点も注目すべき点である。
※内閣府の調査方法は 3 つまでを選択するという方法であった。



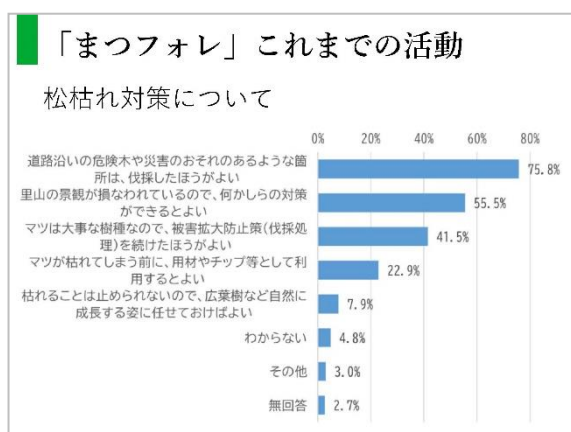
- 今後の森林利用の意向としては、観光利用への意向が高く、内閣府世論調査の結果とも同様の傾向であった。



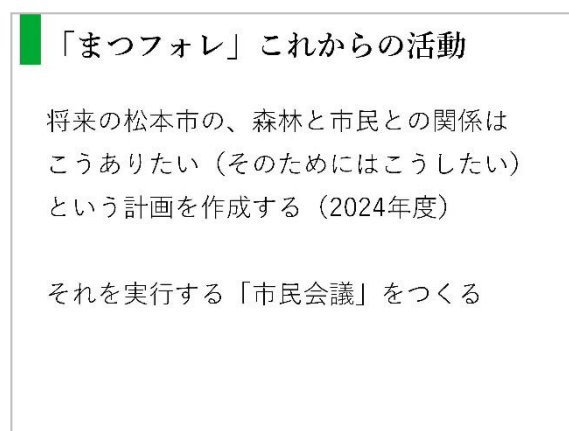
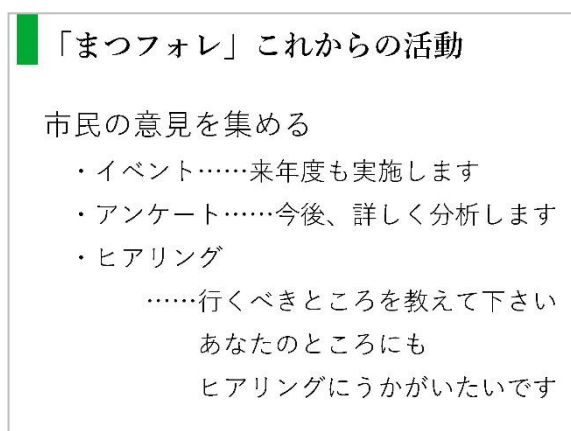
- 森林利用に対する課題としては、「遊歩道などが少なく、入っていい山や場所がわからない」という回答が 54% あり、入っていい山などを知らせる工夫も必要と考えられる。



- 森林整備への参加については「参加したくない」が30%となったが、内閣府世論調査では56.5%が参加したくないと回答している。この結果から、周囲を山に囲まれた松本市では、森林整備への関心が全国平均より高いということがわかる。



- 「道路沿いの危険木や災害のおそれのあるような箇所は、伐採したほうがよい」という意見が75.8%あり、日常生活に直結する回答も多く寄せられた。
- 自由回答で寄せられた意見も、マツ枯れについての意見が非常に多かった。



- 3月には木工体験のイベントを企画している。来年度は高校生・大学生など若い世代対象のイベントなども考えている。

- 事業者、所有者へのアンケートはこれから実施し、併せて回答を分析していく予定である。
- ヒアリングに関しては、こちらから話を伺いに行く予定である。話を聞いてもらいたい対象などがあれば情報提供をお願いしたい。
- 来年度は計画を立てる予定である。松本市民が松本市の森林を守るという考えのもと、計画を実行し進捗を見守るための「市民会議」を作りたいと考えている。

■第2部：森林と市民を近づける取り組み

伊那市ミドリナ委員会とは？

伊那市民へ
「伊那市50年の森林（もり）ビジョン」の
PR・応援をする



伊那市50年の森林ビジョンとは？

山(森林)が富と雇用を支える 50年後の伊那市

伊那市では2016年2月に、「伊那市50年の森林（もり）ビジョン」を策定しました。
これは、森林の機能を見直し、伊那市から森の循環をつくり出して、次の世代に引き継いでいく取り組みです。
伊那市の自然・森林を「資本」と捉え、これらを50年という時間軸で「社会資本」としての価値を高めていくために、「森林・林業、市民」すべてが一つとなった社会＝「社会林業(ソーシャル・フォレストリー)都市」を目指します。

ミドリナ委員会はこのビジョンを実現するために、「50年後市民全員が何らかの形で森と関わる未来」を目指しています。

- 伊那市の50年森林ビジョンは、森林の機能を見直し、森の循環を作り出す取り組みであり、森林を資本としてとらえ、市民による活用が活発化した社会づくりを目指している。

ミドリナ委員会のフレームワーク

伊那市50年の森林ビジョンを応援する団体として発足

■発足は2018年

- 伊那市の外郭団体(予算は伊那市や元気づくり支援金)
- 事務局は耕地林務課50年の森林ビジョン推進室
- 委員は伊那市内外40名の多様なメンバー
- 主に動いているのは執行部の10人くらい

コンセプトは 森・人・美



ミドリナ委員会のフレームワーク

伊那市50年の森林ビジョンを応援する団体として発足

多様すぎるメンバー

- 委員長のクリエイティビティーと芸術文化大使
- 実際に動いているのは執行部の10人くらい

<https://midorina.jp/about/member/>

人物デザイナー、デザイナー、建築家
作家、行政職員、信州大学、学生、木匠、
森の座、ラベンダー、有機野菜、やまとわ、
林業関係者があまりいない

Q.なぜ続いているのか？モチベーションは？



- ミドリナ委員会は、伊那市50年の森林ビジョンの実現に向けて、2018年に発足した伊那市の外郭団体になる。事務局は伊那市耕地林務課にある推進室となっており、40名ほどのメンバーがいる。実働は10人位である。
- 多様な人材が集まった団体で、デザイナーなども参加している。林業関係者が少ないことや女性が多いことが特徴である。



ミドリナ委員会のフレームワーク

伊那市50年の森林ビジョンを応援する団体として発足

イベント部	PR部	ビジネス マッチング部
1. 森JOY 2. ミドリナcafe 3. 森のマルシェ 4. たき火の日 5. 森で遊び隊 6. シンポジウム 7. 森と学び	1. 公式HP 2. FBページ 3. YouTube 4. LINE 5. インスタ	1. シカナン 2. かおりらぼ 3. 暮らしのキット 4. マキノハイ 5. 松ソルベ

コミュニティ構築

- ミドリナ委員会の組織は、執行部を中心にイベント部、PR 部、ビジネスマッチング部などからなっているが、最近ではあまりその枠組みにはとらわれずに動いている状況にある。
- 最近、ビジネスマッチングについては、フォレストカレッジが出来てからはそちらでほぼ担っている状況にある。



- 2021 年に、ミドリナ委員会として目指していく未来、方針、取り組みについて整理したミドリナ白書を作成した。
- 白書の中では、「森感度を育むこと」、「森の「快」と暮らす」という二つのキーワードを掲げるとともに、50 年後に「森が暮らしを支える」「森が地域をつなぐ」「森が仕事を育む」という伊那市の森林の目指す姿を示している。



- 1 森JOY (1回/年)
年に一度の祭典、大きく広く、森への入り口、昨年で昨6回目
リアル&オンライン
- 2 ミドリナカフェ (4回/年)
2018年から始めて現在30回目、小さく深く、関係作り
- 3 森のマルシェ (3回/年)
ミドリナカフェとして企画、単独事業へ 2023年末で8回終了
- 4 たき火の日 (12回/年)
2022年から月一で始めた企画。不登校の子どもの居場所づくり
- 5 森で遊び隊 (6回/年)
2023年度スタート。小4～大学生まで森で遊ぶ
- 6 森と学び (2024年度)

イベント

- イベントのチラシは毎年作っている。
- 行っているイベントとしては、大きく分けて 6 つあり、それぞれの位置づけや目的がある。



- 森 JOY は、「50 年後の君たちへ」というテーマで、普段、森との親しみ、ふれあいが少ない人向けの 1 年に 1 度のイベントである。
- これまでに 6 回実施した。たいき火や飲食の出店、音楽、トーク、遊びなどいろいろと趣向を凝らしている。1000～2000 人の参加がある。ただ参加者が多ければいいという話ではなく、500 人くらいの方がいいのかもという話が出ている。
- ステージ広場で音楽を披露したり、森のレストランとして飲食ブースを作ったり、いろいろと準備してきたが、森そのものを楽しむイベントにすべきではないかという方向に考えが変わってきている。
- 会場は伊那市の市民の森で開催している。以前は使われていなかった森だった。たいき火台が 20 か所くらい並び、参加者が焼きたいものを持ち寄る形になっている。最近ではみんなが楽しみ方を考えて参加してくれている。自分で椅子やたいき火台などをもって来たりする。



- ミドリナカフェは、2018 年から現在までに 30 回実施した。森感度※2 の人を対象として開催している。林業の現場を中学生と見に行ったり、バードウォッチングをしたり、様々な内容で実施している。参加者は少ないイベントもある。

※森感度：森を感じる力、森とともに生きる一員としてのまなざし

- 起業のきっかけにもなり、できた製品を森のマルシェで販売したりと活動が繋がっている。
- 森のマルシェについては、伊那市の森から生まれた様々な製品の販売などを行うイベント。地元のもみの木をクリスマスツリーにする活動は定着している。製材所で開催しているが、施設見学も含め盛況である。直接、林業関係者、林業士などにいろいろと相談できる場にもなっており、横のつながりも作ることでできる場となっている。



- 毎月、第一水曜日をたき火の日と決めて、市民の森でたき火を囲むイベントを行っている。誰でも参加できる場としており、不登校の子供たちの居場所づくりにもなっている。
- 参加している人たちの様子は様々で、たき火を囲んでの打ち合わせなどはおすすりである。
- 森で遊び隊については、小学校4年生から大学生が参加し、遊び、たき火、学び をテーマにしたイベントで、自分の力で森とかかわることをテーマとして実施している。夏に3回、冬に3回実施されている。



- 森と学びの再構築を目指し、森で遊び隊の発展的な取り組みとなる。フィンランド型の教育や伊那市に元々あった教育をもとに、森での学びコンテンツづくりを目指している。
- フィンランドでは、子供のころから森との関わり方などについて、遊びを通じて学んでいる文化がある。



- 広報発信の活動としては、Youtube チャンネルや LINE アカウント、インスタグラムなどを活用している。
- イベントは開催することが目的ではなく、イベントの先にあるのは、それらが日常になることを目指している。

(質疑応答)

Q：伊那市でもマツ枯れは起こっていますか？

A：伊那市でもマツ枯れ問題は起こっている。マツ枯れの問題なども含め、市民に向かって情報を発信し、森への理解・関心を持ってもらう活動が大事だと考えている。

Q：伊那市の平地林（市民の森）はどれくらいの広さがあるのか？

A：市民の森は、市が買い上げている土地もあるが、個人の土地や、林業関係者の土地も存在しており、東京ドーム2つ分の広さがある。全てが平らというわけではなく、市民が活用しているところ、林業をしているエリアなどもある。

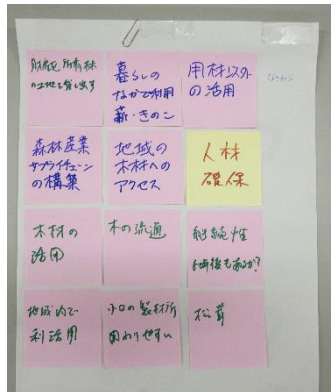
松本市での活動としては、今回の開催場所である「あがたの森」など公園も森とのふれあいの入り口になるのではないかと考えている。南箕輪村の大芝高原なども平地にあり、活用されている。

■第3部：ワークショップ

①生業グループ

ワークショップ（付箋内容）

- ・財産区所有林の土地を貸し出す
- ・暮らしの中で利用 薪・きのこ
- ・用材以外の活用/・木の流通
- ・森林産業サプライチェーンの構築
- ・地域の木材へのアクセス
- ・人材確保/・松茸/・木材の活用
- ・継続性→5年後も（仕事）あるか？
- ・地域内で利活用
- ・小口の製材所→関わりやすい

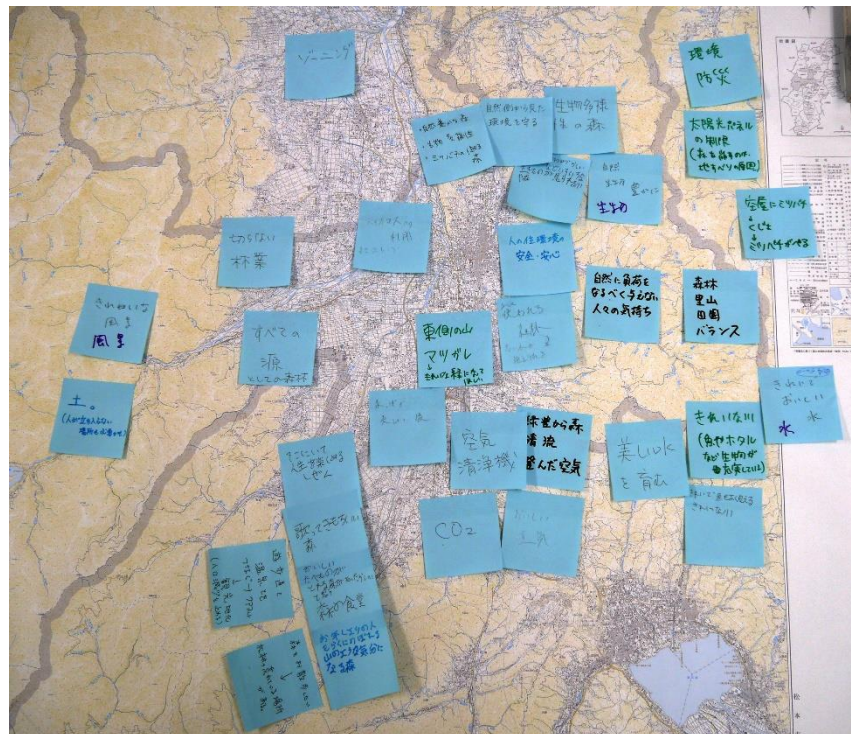


【まとめ発表】

- 生業というセッションだったため、50年後の松本の森林において、生計を立てる人達が存在するためにはどうしたら良いかということを話し合った。
- 今現在の日本では、どこでなんの木材が手に入るかが分かりづらく、その結果が木材の自給率や需要低下につながっているのではないかと考える。また、木材を使いたい人が使いたい木材をどこで手に入れるかが分からない、生産業者とのつながりを持つのが難しいなど、流通の面での課題がいくつか挙がった。
- その産業に従事する人がいなければ、ニーズが継承されない。産業としての継続性を担保するためにはその産業に携わる人材の確保が必要不可欠である。そのためには、山や森に関わっていることで生活ができる、お金を稼ぐことができる仕組みが構築されることが重要である。
- かつての里山では、木材が煮炊きのための燃料として用いられてきたが、生活様式の変化とともにそういった木材のニーズが失われてしまった。現在も薪ストーブ、焚き木等のニーズは存在するが、いかにして木材の新しいニーズを生み出し、需要を創出していくかということも重要である。

②環境グループ

ワークショップ（付箋内容）



・環境防災/・太陽光パネルの制限（森を崩すの×、地滑りの原因）/・空家家にミツバチ→駆除→ミツバチが減る/・森林、里山、田園、バランス/・きれいでおいしい水/・きれいな川（魚屋など生物が充実している）/・きれいで魚もよく見えるきれいな川/・美しい水を育む/・自然生物豊かに/・生物多様性の森/・自然に負荷をなるべく与えない人々の気持ち/・自然側から見た環境を守る/・かわいい動物やめずらしい動物など、いろいろな生き物がみられる川や森/・人の住環境の安全・安心/・正しく使われる森林→木が植ええられる/・緑豊かな森、清流、澄んだ空気/・おいしい空気/・きれいな風景/・自然豊かな森・生物多様性、ミツバチの住める森/・土（人が立ち入らない場所も必要かも）/・バイオマスへの利用/・東側の山マツガレ→きれいな緑になってほしい/・葉っぱが美しい緑/・空気清浄機/・CO2/・おいしい空気/・ゾーニング/・切らない林業/・すべての源としての森林/・そこにいて人生を楽しめるしぜん/・歌ってきもちいい森/・おいしいたべものがとれる森があったらいいと思う、森の食堂/・お年寄りの人もらくにのぼれる山のような気分になる森

・遊歩道と温泉とをつなぐ→クアアルト、観光地化（人口減少を止める）/・森をお散歩したい→松本市には忘れていている場所がある

【まとめ発表】

松本は自然豊かであるからこそ、松枯れが見えると悲しい気持ちになる。現在松枯れが最も悲惨な状況にある中で、自然による回復力によって10年後、20年後には今の新しく生えてきている木が成長し、徐々に緑が回復していくことが考えられる。こういった状況の中で、ゾーニングとして適切に木材を利用する場所と、自然の更新を待つ場所というものを分けて考えていく必要があると考える。環境が豊かになるという面でも、生物や植物の多様性や、人間と動植物との共生が重要である。人生を楽しむための自然、歌って気持ち良い森作りが大切であるということを理解して、子供からお年寄りまで森林づくりに関わられるようになってほしい。

③こどもグループ

ワークショップ（付箋内容）



・森を感じるイベントがほしい/・子どもたちの世界で楽しむ/・美鈴湖/・「子どもたちで使ってほしい」という山がある/・たき火やりたい/・アルプス公園/・柳沢林業/・食育/・山菜/・木の端材で遊ぶ/・葉っぱ集めごっこ/・自然の中で鬼ごっこ/・駐車場がほしい→あればイベントできるのになあ/・千鹿頭 弘法山 中山/・室山/・釣り/・木刀づくり/・炭焼/・川 大事/・条件 駐車場有 川があるといいな トイレ 水道 (温泉)/・インストラクター 指導者がほしい/・2-30人、ちっちゃい規模で毎日イベントがあればいい/・子供たちが気軽に入れる山があればいい/・自分でもってきた野菜で鍋 洞合公園/・こども/・各々がやりたいことをやってる/・幼少期にでかい山に登られる＝ハードルが高い/・Norikura Kogen Traial 子どもたちが森の中をトレイルハイキング

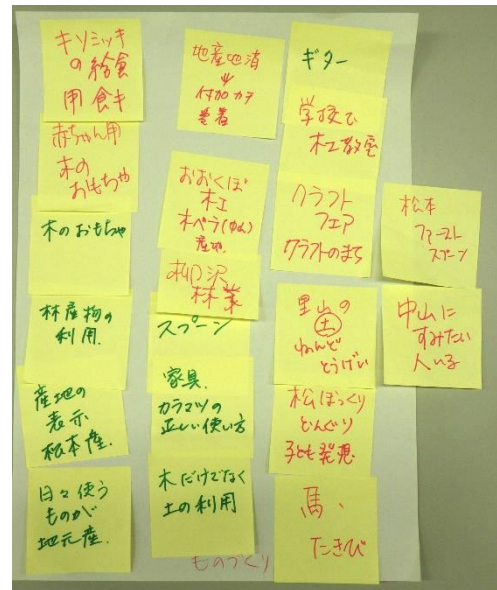
【まとめ発表】

- 弘法山やアルプス公園など、山自体はたくさんあるが、そこに子ども一人では行くことができない。そういった場所に子どもを連れていくためには、親が休みの日に連れていく必要があり、限定された状況でしか山に訪れることができず、日常的に足を運べるような山が存在しないのではないかな。
- 身近に山に足を運べるとすれば、山菜をとる、葉っぱや木の棒、自然の中で遊ぶなど、たくさんのことができる。子どもたちはひとたび山に入れば想像力を膨らませてなんでも楽しむことができる。
- 小規模でもよいので、持続できる範囲でイベントを定期開催するなど、子どもが山や自然に触れられるきっかけを作ることが大切である。
- 駐車場やお手洗いが整備されることで、より山に足を運びやすくなることができるのではないかな。

④ものづくりグループ

ワークショップ（付箋内容）

- ・クラフトフェア クラフトのまち
- ・地産地消→付加価値、愛着
- ・林産物の利用
- ・地産地消の表示 松本産
- ・日々使うものが地元産
- ・木曽漆器の給食用食器
- ・学校で木工教室
- ・柳沢林業
- ・おおくぼ木工 木べら（中山）産地
- ・スプーン
- ・松本 ファーストスプーン
- ・赤ちゃん用 木のおもちゃ
- ・木のおもちゃ
- ・ギター
- ・家具 カラマツの正しい使い方
- ・木だけではなく、土の利用
- ・里山の土 ねんど 陶芸
- ・松ぼっくり、どんぐり、こども発想
- ・馬、たき火
- ・中山に住みたい人いる

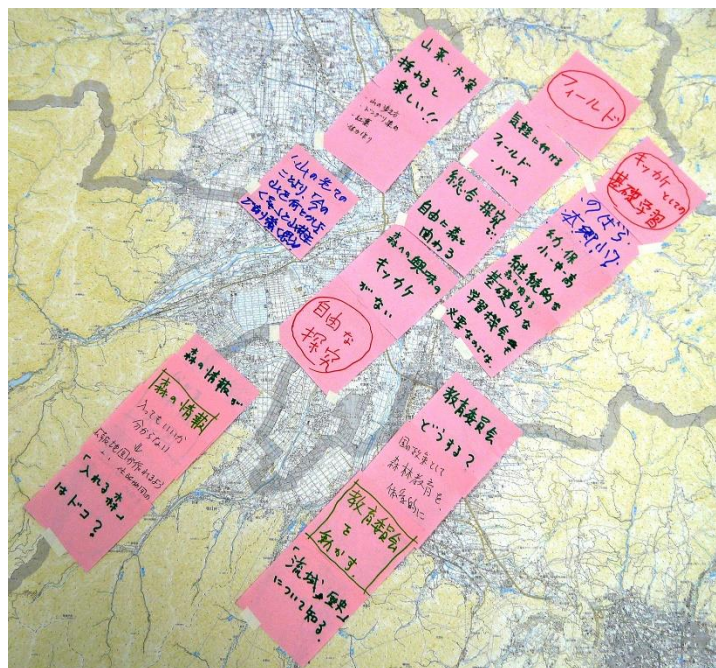


【まとめ発表】

- 森林の木材を活用して、広く人々の手に形として渡るものに着目して話を進めていった。
- 赤ちゃんが初めて使用するファーストスプーンなど、人生において深く思い入れのある物品を木工製品で制作し、産地を地区まで表示することで、生産地を含めて思い出深い品になるのではないかと。産地を細かく表記することで、実際に足を運ぶことができ、思い出を作ることができる考えた。
- クラフトフェアや木工団地など、松本は木工が盛んな場所であると思う。産地と人をつないでいくことで、クラフトの街として盛り上がっていくのではないかと考えた。
- 日々使用するものの中に、松本産の木を取り入れられるとよい。
- 木だけではなく、土や山菜など、森林を構成する様々な要素を活用したモノづくりが展開されていくとよい。

⑤教育グループ

ワークショップ（付箋内容）



- ・【キッカケとしての基礎学習】
- ・幼、保、小、中、高と、森に関する継続的、基礎的な学習機会も必要なのでは
- ・教育委員会どうする？/・国の政策として森林教育を体系的に
- ・教育委員会を動かす/・「流域・歴史」について知る
- ・【フィールド】
- ・気軽にいけるフィールド バス
- ・総合、探求（の授業）で自由に森と関わる
- ・森への興味のキッカケがない/・山菜・木の実採れると楽しい！！
- ・山の歩き方/・どんぐり集め/・紅葉/・体力づくり
- ・【自由な探求】
- ・森の情報が分かる地図
- ・入ってもいいか分からない→広報地図が作れるような山の地図をつくる
- ・「入れる森」はどこ？

【まとめ発表】

- 森林の情報発信が大切である。
- 小学生やその親でもわかるように、この森林や山には行ってよい、悪いということを示す地図を作成するべきであるという意見が挙がった。
- 何十年先のことを考えるのも大切だが、今の松本の森林や山はどうやったらいろいろな人に楽しんでもらうことができるのかを考えることも大切。森林や山の情報を包括的に発信していくことが重要である。
- 教育委員会と連携して、保育園から大学まで、森林や山に関する教育を継続して行えるようにする体制づくりを早急に行うべきである。

⑥くらしグループ

ワークショップ（付箋内容）



- ・公園/・公園の中の森林/・遊び場（大人も子どもも）
- ・森へのアクセスのしやすさ/・町と森林が連続している
- ・木の多い公園/・森を感じるために遠くまでいくのは面倒くさい
- ・森と暮らしの境界としての里山　くらしと森が分断されすぎない
- ・松本はグラデーションがないと感じる　中間の場所がほしい
- ・さりげなく感じる（押しつけではなく）/・景観のよい町/・街路樹をふやす（歩行者の日陰）
- ・町内に森林を誘導　空き地、空き家に植林/・空き家を森に植樹する/・野生動物のすみか
- ・いろんな生き物がすんでいる（キツネ、シカ見た）
- ・山菜をとって食べられる/・ジビエ、キノコ、山菜　食べ物を取り入れる
- ・街中の木で工作/・木質生活/・地元の木材でできた家具やカトラリーを使う
- ・脱ブラとしての木材を使った日用品、包装紙/・森林・山のすぐ側で暮らしてみたい
- ・木と森のフォーラム CAFE/・「森行き」コミュニティバス、電気自転車とか欲しい
- ・入会地　自治を育む場　共有/・（山、川、街が描かれたイラストの付箋紙）

【まとめ発表】

- まちなかの暮らしと森林には距離がある。生活都市と森林の間に、様々なグラデーションで自然と関わるができるようになるとういと思った。50年程度の長いスパンの中で、街並みに森林と関わるスペースを増やしていったほしいと思う。
- 公共交通機関の中に、森林をめぐるバスや、山の坂を楽に上ることができる電動アシストの自転車など、自然と関われるものを増やすと面白いのではないかな。
- 今晚のおかずをさっと取りに行くというかつて松本に存在した里山文化というものが、時代に適応した形で街づくりの中にあらわれてくるとよいと思う。

■パネル展示説明

①木工作家ブランド沐 MOKU glass（森田 新）：木材とガラスを使ったグラスの紹介



- 松本市の深志で、木とガラスを組み合わせたグラスを作っている。日本でも世界でも、この組み合わせでグラスを作っているのは MOKU glass だけ。現在は世界に向けて発信できるブランドを目指して活動している。
- 現在は信州産の木材も活用しており、信州ブランドを他の県の方や世界にアピールできるように活動している。
- 作品を制作している動画も展示しているので、興味のある人に見ていただければと思う。

②信州大学 岸野 奏（松本市環境審議会公募委員）：県産木材を活用 ～キエーロコンポスト～



- 生ごみを可燃ごみとして燃やすと、水分量が多く、燃やすのにコストがかかってしまう。しかし、コンポストに入れて処理をすることで、土の微生物が生ごみを分解してくれる。
- コンポストと聞くと多くの人がコンポストといえばおいがきつい、そもそも土地が必要であるといった考えを持っている。しかし、「キエーロ」というコンポストは、土が増えず、マンションのベランダにも設置することができ、匂いも気になりづらい。生ごみの処理に困っている人は、ぜひ自分の展示を見に来てほしい。

③Alps gohan ごはんとおみやげ 金子 健一：森林と食事の関係の紹介



- Alps gohan は7年前にできて、様々な縁で農家の方の野菜を中心にご飯を作らせていただいている。
- 森と自分のお店にどんな関係があるかと考えると、自分の周りには農家の方や木工家の方など、木や森に関わる人が多くいることに気が付いたので、展示としてまとめることにした。

④環境活動家 新井 芙季（松本市環境審議会公募委員）：様々な地域での森林に関わる取り組み



- 今回の展示では4年ほど前に、ヨーロッパを旅しながら農業について学んでいた際、フィンランドに訪れたときの森林管理の様子についてまとめた。
- 日本はフィンランド、スウェーデンに次いで、森林保有率が高い国であり、フィンランドと共通する部分があると思う。
- 今回の展示では、日本の森として特徴的な神社の森について、なぜ神社が森を持っているのか、神社の森はどう管理されているのかも併せてまとめた。

⑤NPO 法人 浅間温泉木の絆会（小穴 厚）：大音寺山における里山整備



- 木の絆会では、今から22年前に発生した山林大規模火災の跡地を元の森に戻すために活動している。
- 子育てをするお母さん、デイサービスに通うお年寄りの方など、全ての人から賛同されるような安心安全で楽しい森を作ること为目标に活動を進めている。

⑥松本広域森林組合（永原 芳秀）／横山木材(有)（小口 真澄）：林業施業の道具及び様々な樹種の木材展示



- 現場サイドからの出展のため、チェーンソーが当たったら刃が止まるチェーンソーボンや、高いところの木を切る際に使用するハーネスやロープなどの現物を多めに展示した。
- 写真は松本市の奈川地区にある森林で、カラマツの材木を出しているときのもの。
- 展示の中に、9種類の材木がおいてある。是非材木の種類を考えてみてほしい。

⑦松本県ヶ丘高校（廣瀬 誠、市川希愛、平山葉菜、二木琥央）：松くい虫が及ぼす被害



- 展示では松くい虫についての探求活動の成果をまとめた。
- 薬剤の空中散布など、松枯れの対策に関する自分たちの考察をまとめた。この場にいる皆さんは松枯れに対して様々な考えを持っていると思うので、ぜひ自分たちと意見を交換してほしい。

⑧松本市森林環境課：松本市有林のカラマツの活用



- 松本市では針葉樹と広葉樹の割合が半分くらいずつで、その中でもカラマツとアカマツが多くを占めている。
- 松枯れに対して様々な考えがあると思うが、松本市として取り組んでいることを展示している。
- 実施に松本市の奈川で切ったカラマツで作った椅子や消毒用アルコールの台も併せて展示している。ぜひ触ってもらって、カラマツの良さを知ってほしい。

⑨(株)柳沢林業：森林、木材の活用に向けた取り組み紹介（パネル展示のみ）



⑩松筑木材協同組合：カラマツの流通促進に向けた流れについて（パネル展示のみ）



⑪寿さと山くらぶ：山を元気に！！ 山で元気に！！（パネル展示のみ）

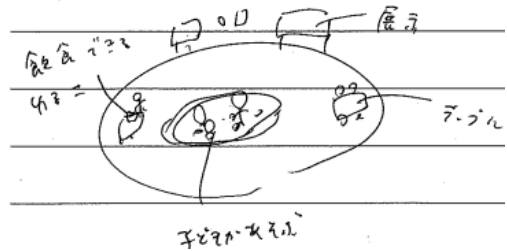


■参加者からの感想（アンケートでの自由記述）

No.	記述
1	森林の持つ様々な機能の理解を深めるための施策を具体的に提示していく必要があります。以下 思いついた点 1) 森林での教育推進 2) 森の幼稚園の推進 3) 松本に平地林を再生する 4) 森の花から蜜を生産する 5) 森の中に空中小屋を置き子供に泊まってもらう 6) 森林の CO2 吸収量を推計する 新たな森林造成により確捕した CO2 吸収量を炭素取引市場で販売する 7) 石油ストーブ、ボイラーをバイオマスに転換する 8) 松本市の道路の並木道がもの足りないので計画的に整備する 9) 公共施設の木造化を提案して進める 10) 松本市の古い家の古材を集めて活用する
2	2016 年 雨氷の時の木材が多量に山道をふさぎ山に入る事ができません。私有地 6 億の被害ということですが山を使う利用したいと思っても入って行くことができません。何とかして下さい。今のことですが、今手をつけなければ未来はないです。
3	思ったより年齢層が若くて驚いた。林業や森林にかかわる人の減少、高齢化は問題と聞きますが、やはり森林・環境はみんなで考えるべきテーマであると感じた。都市と森林は境界があるように感じるが森林への入り口にはもっとグラデーションがあってもいいという話は賛成だ。暮らしのなかには森林を組み込み取り戻すには対様な入り口があるとよいと思った。
4	伊那の事例を聞き、色々な角度から森林のあり方を伺うことで身近な問題、自分ごととしてとらえる事ができました。未来の松本で子ども×森林を考えると、様々なイベントにより自然に親しみ遊ぶことが広がればいいと思う。ただその時の問題は「誰がやるか？」企画や世話する大人は必要。でも全てボランティア頼みでは継続が難しくなる。その仕組みづくりが難しいなと思いました。
5	フィンランドの話を聞きましたが山の地図を作っていて売りに出している領域も分かるものだそうです。国土の保全も森林の育成計画のためにも基礎的なデータとして松本市としても地図作りを始めて欲しい。街中の住宅地図のような具体的なものです。 もう一つは国としての方針の明確化も市として要求することも考えてほしい。国土の 6～7 割が森林だという、その大切さ重要性をきちんと住民や国民が理解するような教育プログラムを国として示すように求めて下さい。 その結果として住民や国民一人一人の意識をもとに 50 年後の姿が描かれていくのではないのでしょうか。上から目線では無く一人一人の思いとして結実していくように願うという気持ちです。
6	林業者の視点が十分に入っていくのかが疑問に思いました。荒れる林道や広がる松枯れ被害に直面してきたのは地域の林業者かと思います。森林の公的な側面の議論は大変重

	要かと思いますが同時に地域の林業をどう振興させていくのか、国や県など上位の行政に一任せず向き合う姿勢が求められると思います。木作家や環境活動家などを通じた林業・森林の関心の高まり、林業を身近に感じてもらえる社会醸成が重要になってくると思います。この視点はビジョンでも活用していただければ幸いです。したがって今後のまつフォレとしては森林の所有者に対してどう活用してほしいか、できるのか、したいのかなどを聞く機会があると嬉しいです。今日はありがとうございました。
7	こども班として①伊那のイベントをパクリ ②場所はいくらでも有るが入って良い場所＝森林を明示③指導者・リーダー養成 森を利用する技術を持つ人 ④駐車場とトイレの整備は行政をお願いします。
8	令和7年度以降の市民会議のあり方 ・ビジョンを実現させるための実働部隊として①メンバーの構成（人材確保）②活動資金（予算確保）③行政との関係性（継続性） 「市民と森林の心理的距離を縮める」というミッションと「森林資源を域内循環させる流通システムの設計と実装（並びに、そのシステムに基づく地域づくり）」というミッションをどうやって橋渡しするか→森と人が共に生きる地域の実現と存続のためには関心を寄せてくれる市民の視野を広げる取り組みも、産業としての持続性を支えてくれる専門人材を育てる取り組みも、どちらも必要でどちらも大切。
9	実は運営委員募集のとき応募したこともあるのですが、その後 忙しくなって まつフォレさんに参加するのは、これが初めてです。運営委員に採用していただかなくて良かったと思います。 今は入山辺里山辺財産区委員となり、そちらの事を少しずつ覚えてありますが、ここでも感じているのは森林の所有者を動かすことの難しさです。山への関心を少しずつ高める事が出来ても、それはせいぜい地区外から移住してきた方や森林を所有していない方である事が多く肝心の所有者がその気にならないと山の事はなかなか動かない、というのが本音です。
10	森林に関する意見交換が出来て良い機会でした。素晴らしい機会でしたが探究発表の際に声をかけていただければ知る機会もなく参加出来なかったと思う。より幅広い方々と意見交換出来る場にするためにも告知をやってほしいです。 また、こういった企画に興味を持てないと参加しないと思うので幼い頃から森林などに興味を持ってもらえる様な環境作りも大切だと思った。

11	生活者として、移住者として、森林と暮らしをもっと身近に出来ないか自分自身で体現出来ないかずっと思い考えていました。キノコや山菜取りの為にわざわざ乗鞍岳の知人のところまで行っているのですが本当はもっと身近な場所でしたいけど「場所は？誰に紹介してもらえば？」ここに中々つながらず、もどかしさがあります。 私の様に何でもない市民が思っていることが形になれば良いと思います。 森コミュニティカフェの実現たのしみ！ キッズスペース併設をお願いします！
12	初めて参加させて頂き、松本の森や近隣の森事情をお伺いできて大変勉強になりました。思ったよりも森を遠く感じられていることを知り気軽に入れる森がどこにあるのか松本の森を知る方がいらしたら、もっと伺ってみたいと思いました。
13	森林に対して熱い思いを持っている方が多くいるのだなと思った。これから色々な方々と繋がって、まずは人と人との結びから繋がっていける機会となって良かった。
14	本日はありがとうございました。食材に地産地消がある様に木材にも松本産の地産地消の様なものが出来る仕組みが出来ると良いと思いました。木工作家さんと松本産の木をつなげるとより付加価値が付くと思いました。
15	高校生、信州大の方がパネル展示でいらっしゃったので若者が入って話し合いが出来たので良かった。これからは若者が来てくれる様な仕組みづくり、イベントを作っていきたい。
16	・若者と森の繋がりが少なく、そんな中でも森で様々なイベントが行われているなんて知らなかった→楽しそうだし参加してみたい ・近くにある森や林が思いつかないからアクセスのしやすさとか入りやすい森とかを意識して、街路樹を増やしたり木の有る住宅街を増やしたりしてみたい
17	松食い虫だけでなく、様々な森林の問題を解決するために色々な人が集まっていた良かった。 また最後のワークショップの付箋を使ったアイデア出しでは同じテーブルについた人の意見をたくさん聞けて良かった。話題についてある程度決まっているので活発に議論が進んだ。 パネル展示もあって展示者と近い距離で意見を交換できて良かった。
18	最後のワークショップで多様な意見が出る中でゾーニングによる選択枝の幅が増えることがとても納得出来ました。本会を通じて新たな学びがあった中、森林に対して多くの方が思いや取り組みを行っていることを知れ、自分の意欲と関心が強くなったと思います。
19	市産のカラマツを公共施設や住宅、地元の木工職人に使ってもらうしくみが必要ではな



	いか。 森の近くにチップパーを導入して、チップの供給を地元に行う。 山に入れる遊歩道や散策できる環境をつくる。 カラマツ材の製品を使った断熱性能の高いモデルハウスをつくる。（外壁、ドア、内壁） 木工、陶芸、料理（山菜・きのこ）づくりを子ども達（学校で）やるのはよいのでは。
--	---

【WEB アンケート】4 名が回答

1	年齢
	60 歳以上…2 名、50 代…1 名、30 代…1 名
2	住まい
	松本市…3 名、南箕輪村…1 名
3	本フォーラムに楽しく参加できましたか（レベル回答）
	5…2 名、4…2 名
4	本フォーラムで森林、林業、木材の魅力を感じられましたか？（レベル回答）
	5…1 名、4…3 名
5	特に印象に残った場面はどこですか？（複数可）
	・ 第 1 部 まつフォレのこれまでの取り組み…1 名
	・ 第 2 部 伊那市ミドリナ委員会の取り組み…2 名
	・ 第 3 部 ワークショップ…1 名
	・ パネル展示や他の参加者との意見交換…3 名
6	どのような思い(動機など)をもって本フォーラムへ参加されましたか？
	・ 松本の森を歩くことが好き。森に向かうときから、家に帰るまでの間で、森をもっと身近に感じたいし、私の周囲の者にも感じてほしい。 ・ 日常生活の中で森を感じることができればいいな。 ・ このような思いが実現できることを願って参加しました。 ・ 昨年末に移住してきましたが裏が森でとてもきれいであると同時にもっと手入れをすれば気軽にウォーキングなど出来るのでは？と思ったからです。 ・ 松本市の取り組みの現状や課題、今後の方向性を知りたかった。 ・ 身近にある里山が荒れている。子供の頃は遊び場として里山があった。森林整備の大切さを思い参加しました。
7	あなたにとって、松本の森に魅力を感じますか？
	はい…4 名
8	あなたにとって、松本の森の魅力はどのようなところですか？
	・ もっぱら、観る・感じる・楽しむ場所。材を切り出して利用することはない。 ・ アプローチが楽なところへはよく行く。自宅から短時間で到着可能で、アルプス公園などは駐車場やトイレが完備されていて、いつ行っても受け入れてもらえる。 ・ 紹介イベントがあれば行きたい。フランス式階段工のように美しく、機能的で、歴史が

ある構造物がある。			
・ すぐそばに市街地、住宅があり身近に感じられるところ。			
・ 上高地が最高			
・ 身近にある。			
9	魅力のある松本の森にするにはどうすれば良いと思いますか？		
回答なし			
10	今後も森や林業についてもっと学びたいと思いますか？		
5…3 名、4…1 名			
11	今後開催するイベント・フォーラムの内容に興味があるものをお答えください（複数可）。		
<table border="1"> <tr> <td> 木×学び 4 名 木×暮らし 3 名 木×健康 2 名 木×環境 2 名 木×芸術 2 名 </td> <td> 木×飲食、木×体験、木×教育、 木×芸術、木×動物、木×福祉、 木×税金 各 1 名 </td> </tr> </table>		木×学び 4 名 木×暮らし 3 名 木×健康 2 名 木×環境 2 名 木×芸術 2 名	木×飲食、木×体験、木×教育、 木×芸術、木×動物、木×福祉、 木×税金 各 1 名
木×学び 4 名 木×暮らし 3 名 木×健康 2 名 木×環境 2 名 木×芸術 2 名	木×飲食、木×体験、木×教育、 木×芸術、木×動物、木×福祉、 木×税金 各 1 名		
12	そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。		
・ イベントに関しては、伊那市ミドリナさんのものを模倣する・参考にしてアレンジするのが良い。 ・ 回数をこなすこと、対象者を広げること、小規模で開催すること、などを通じてノウハウを蓄積し、必要なものを揃えて行こう。 ・ 乗鞍高原で開催されているが、登山道造り・補修などのイベントが身近なところで開催されれば参加したい。			
・ 森の音楽会			
・ 森林探索			
13	将来（未来）の松本市の森林や林業に対して、ご自由にお書きください。		
・ 100 年 200 年という人生の長さを超えるスパンで考えなければならない。 ・ 伊那市のミドリナも 2066 年の目標年を自分の目で確認できる人は現在のメンバーでもごく少数のはず。となると、子供たちにこの思いを伝えて、感性や知恵・技術を伝承する仕組みを作らねばならない。 ・ 松本市の森林（環境）ビジョンを策定し、継続する仕組みを作りましょう。			
・ 松本には温泉もあるのでウォーキングと温泉をつなげた遊歩道を整備し観光資源とすることもできるのでは？あとはそれを健康都市としてアピールし松本の活性化につなげるなど。北アルプスはもう開発しつくされて逆に環境破壊されつつあるので環境を保護し自然と人間、暮らし、農業とつなげた持続可能な都市を目指すことが松本はできると思います。			
・ 市民参加の熱量が高いので、ゼヒ形にしていって欲しい。			
・ 松枯れ材が放置されているのは景観上も治山の上でもよろしくないと思います。			

14	森林や林業に対して、ご自由にお書きください。 ・森林や山地環境を維持する人と、それを利用する人の間にある大きな壁を壊す必要があると思いますよ。 ・利用者はいつまでも利用者ではなく、時に林道の整備や下草刈りなどにも参加することがあるべきだと考えます。 ・もっと地元産の木を使った住宅、雑貨などブランドにして林業を衰退させない取り組みが必要かと、。森と湖、環境にやさしいキャンプ場など松本市には可能性は無限大かと思います。 ・森林、木材を利活用して林業を採算の取れる産業になれば良い。
15	全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。 ・ミドリナさんの活動はとても参考になりました。 ・今回の開催がロードマップのどの辺なのかを確認していただきたかった。主催者はわかっているが、参加者はわからない。つまり、主催者は説明の必要性がないと判断しているし、参加者は数年続く活動と知らないので、説明がなくても不審に思わない。 ・皆さん、それぞれの思いがあり意見があり、またそれを組み上げていくという取り組みが素晴らしいと思います。政治は難しいことでなくこのような身近なことから関心をもって参加してもらえれば若い人たちの投票率もあがるかと、。自分達で森もまちも作っていくということが出来る気がしました。
16	今後、まつフォレのイベント情報などのお知らせを希望されますか？ 希望する…2名、希望しない…2名

松本市森林再生市民会議 令和6年度フォーラム 開催報告

1. 開催日時

- ・日時：令和6年6月22日（土） 13：00～16：00（12：30受付開始）

2. 開催場所

- ・浅間温泉文化センター 多目的ホール

3. 参加者

- ・一般：26名 イベント企画プレゼンテーション含む：6件
- ・出演者：第1部 これまでの活動と森林長期ビジョンの骨子について
三木 敦朗（松本市森林再生市民会議 委員長）
第2部 森林に関するイベント企画のプレゼンテーション
 - 佐藤 敬さん
 - 甲斐原 さなえさん
 - 子ども未来委員会のみなさん
 - 森林再生市民会議運営委員会 三木委員長
 - 松本グラベルライドのみなさん（展示のみ）
 - 高橋陽子さん（飛び入り参加）
- ・松本市森林再生市民会議 運営委員会委員
- ・事務局：松本市、環境アセスメントセンター

4. タイムテーブル

時間	内容
10：00～12：15	事務局集合、会場準備
12：15～12：30	イベント企画者集合、打合せ
12：30～13：00	参加者受付
13：00～13：10	開会 1 松本市森林再生市民会議運営委員会 三木委員長あいさつ 2 松本市 森林環境課長あいさつ
13：10～14：10	第1部：これまでの活動と森林長期ビジョン骨子について 発表者：三木委員長（松本市森林再生市民会議運営委員会）
14：10～14：25	休憩・意見交換

時間	内容
14:25～15:00	第2部：森林に関するイベント企画のプレゼンテーション 司会：小山委員（松本市森林再生市民会議運営委員会） ●竹林整備とメンマづくり(佐藤 敬さん) ●森林セラピストによる「森の香りを紡ぐ森林浴」定期的実施のススメ(甲斐原さなえさん) ●自然や里山の魅力を増やすために(子ども未来委員会のみなさん) ●松本市森林再生市民会議についてのアイデア(森林再生市民会議運営委員会 三木委員長)
15:00～15:40	プレゼンターと参加者とのフリートーク 進行：小山委員（松本市森林再生市民会議運営委員会）
15:40～15:50	第2部まとめ 進行：小山委員（松本市森林再生市民会議運営委員会）
15:50～16:00	フォーラムの総括 進行：三木委員長（松本市森林再生市民会議運営委員会）
16:00	閉会



会場の様子



第1部 発表



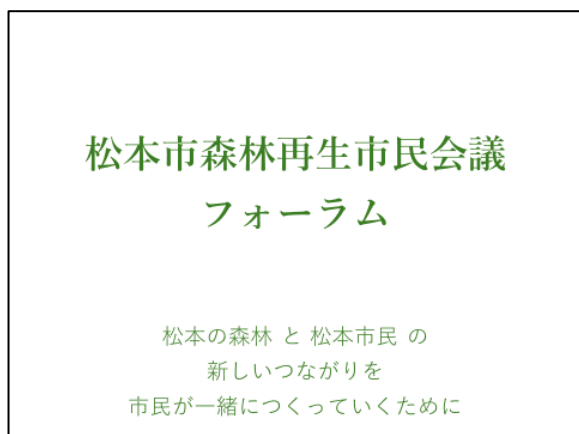
第2部 プレゼンテーション



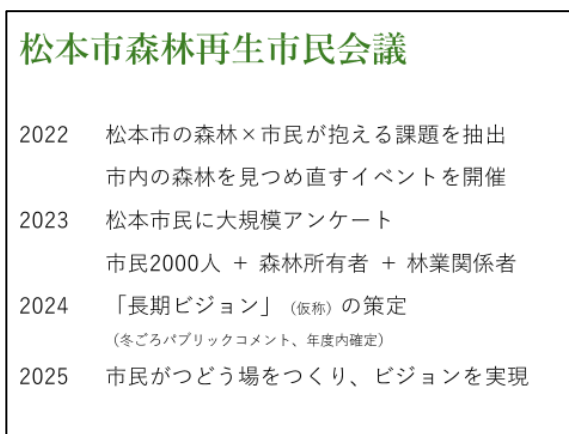
第2部 フリートーク

5. 開催報告

■第1部：これまでの活動と森林長期ビジョン骨子について



①



②

- ① 松本市で策定しようとしている長期ビジョンは、「松本の森林と松本市民の新しいつながりを市民が一緒につくっていく」ことを目指している。ビジョンを作ったから松本市の森林が素晴らしいものになるわけではなく、ビジョンを共通目標とし、市民の皆さんがそれに向かって一緒に取り組んでいくことを想定している。
- ② 市民会議は2022年に発足し、松本市の森林と市民が抱える課題を抽出し、これまで市内の森林を見つめ直すイベントを毎年3～4回程度実施してきた。2023年には大規模アンケートを実施し、市民の方々からまんべんなく意見が聞けるよう配慮した。今年の2024年には長期ビジョンの策定に向けて年度内を目処に作業中で、来年の2025年にはビジョンで示された将来像の実現に向けて、具体的に実行に移していくことになる。



③



④

- ③ この写真からは東山と西山に囲まれた松本市の様子がよく分かる。手前側には松枯れの山が写っており、課題を抱えているということも窺い知ることができる。
- ④ これまでのイベントやアンケート等といった取組を受けて、森林長期ビジョンでは主にこの5つのテーマで構成することを考えている。

ビジョンの推進により目指す姿

- ・市内に市民がふれあえる森が多くある
- ・森林とのふれあいにより市民の生活が豊かになる、心身の健康が健全になる
- ・森林の機能や価値についての学びの場があり、理解が高い市民が多い
- ・民有地を含め、市内の森林の整備が行き届いている
- ・市民の生活の中で、地域産材による家や家具などが使われている
- ・地域の木材を入手できる
- ・他地域の人々があこがれる街・環境になる
- ・上記のことを継続して考え、実行する体制がある。

⑤

①市民のくらしのなかに、森林とのふれあいを

- ・ふれあえる里山の森を増やす
- ・暮らしの場の身近な緑を増やす
- ・森とのふれあいが学べる機会の創出
- ・森林とふれあえる場所に関する情報発信・情報交流

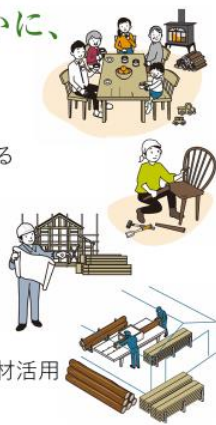


⑥

- ⑤ 松本市は周囲を森林に囲まれているものの、市民がその森林に触れ合う機会が少ないのが現状である。そのため、市街地と森林がシームレスにひと続きとなるよう、市街地に森林の出先になるような市民の触れ合える森を作ることができたらと考えている。また、市民の森林に対する関心や知識も醸成していくことで触れ合う機会がさらに増していくと思われる。
- ⑥ 松本市は、時代を遡ると多くの人々が森林を利用しながら生活してきた場所でもある。アンケート結果でも、「森林を利用するつもりはない」と答えた市民は9%と少なく、多くの市民が何らかの形で森林を利用してみたいと考えている一方で、森林との接点については60%近くの市民がないと答え、その理由として、「実際に入ってよい森林とそうでない森林が分からない」といった回答が多かった。このあたりに解決のためのヒントがあると考えている。

②市民のくらしのなかに、地域の木材を

- ・木材を利用したい人と森林所有者、施業者を結びつける
- ・家具、木工品を生み出す
「クラフトのまち」松本の確立
- ・建築用材としての地域産材の活用促進
- ・再生可能エネルギーとしての木材活用
- ・未利用森林資源の発掘



⑦

③来訪者を迎える景観、自然を守り育てる

- ・山岳観光に資する魅力ある景観、自然の保全
- ・市街地周辺の里山や市街地内の森林の保全と利用のための整備
- ・市内の森林空間に関する情報の発信



⑧

- ⑦ 松本には江戸時代から続く木工品や松本民芸家具、クラフトフェアといった木工を中心としたものづくりが継続して息づいている。市民のくらしの中に地域の木材を取り入れていくことが、松本市らしさにも繋がっていくのではないかとと思われる。
- ⑧ 松本市が観光都市という点は誰も異論がないと思われる。松本市への来訪者が松本市に対して魅力をたくさん感じていただけるような景観を作っていくことに加えて、松本市民にも愛着を感じていただけるような森林環境を守り育てていくことが大切であると思われる。

④市民のくらしを支える森を守る

- ・市民のくらしに危険を及ぼす災害の防止
- ・松枯れ対策の実施
- ・公益的機能（水源かん養、土砂災害防止、生物多様性保全など）が発揮される森林づくり
- ・民有林の適切な整備
- ・健全な森林を保全・維持するための鳥獣害対策の実施
- ・森林整備の体制強化



⑨

⑤森を知って、森を育てる

- ・触れて学んで考える（環境教育）の推進
- ・森を育てる体験の場の創出
- ・森の魅力を発信していくための人材育成とネットワークづくり
- ・環境教育に使用できる森林の確保と整備
- ・松本市の森林についてみんなで考える場の継続（まつフォレ）
- ・松本市森林再生市民会議の常設



⑩

⑨ 市民自ら取り組むというよりは、行政や林業従事者などが関わっていく部分が多いと思われる。アンケートからも、水源かん養や防災など森林の公益的機能に対して市民の関心が高いことが窺え、その機能を高めていくことが必要であると考えられる。

⑩ これからの活動には若い市民の力がどうしても必要になってくる。現在のお年寄りは森林と慣れ親しんだ経験も多いが、世代が若くなるにつれてそういった経験は減少していると思われる。時代の趨勢として仕方がないことではあるが、松本市の森林に関心を寄せる市民を増やしていくためには、若い世代が森林と関わる経験や機会を意識的に作っていかねばならない。若い世代の森林に対する関心が低いわけではなくむしろ高いため、森林との関わり方を誰かが伝えていかねばならない。



⑪



⑫

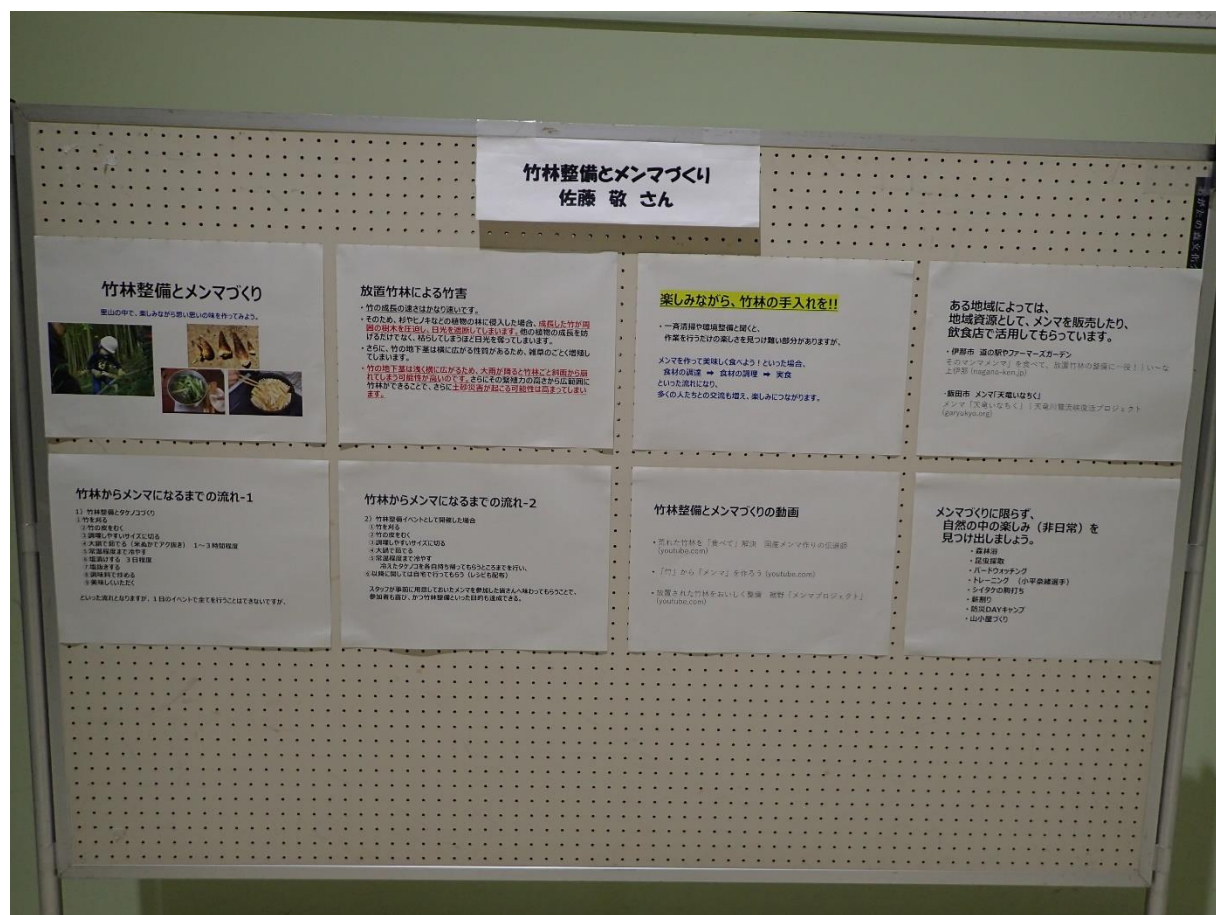
⑪ 松本市の森林の将来像をイメージした図になる。市内の生活に木があること、里山では森林の中で教育をしたりキャンプをしたりできる身近な森林があること、身近で木材が生産され市街地に供給されること、奥山では雄大な自然が保全され公益的機能を発揮する森林が整備されていること、こういったイメージの松本市になっていけば素晴らしいのではないかと考えている。

⑫ ビジョンを作って終わりではなく、ビジョンをたたき台として新しい松本市の森林を市民の創意工夫で作って行くことができればと思っている。

■第2部：森林に関するイベント企画のプレゼンテーション

①佐藤 敬 さん

竹林整備とメンマづくり



【発表内容】

- 樹木以外にも放置された竹林が昨今問題となっている。竹は根が浅いため土砂災害の危険性も高く、防災上の観点からも竹林の整備は重要である。
- 「一斉清掃」や「環境整備」と聞くと整備作業に楽しさを見出しにくいのが、メンマを作るために竹林を整備するという流れだと、抵抗を感じず楽しく作業できるのではないかと考えている。また、大人数で実施することにより楽しみも見つけやすい。すでに伊那市や飯田市では竹林整備で収穫した竹をメンマとして加工し、販売している。
- 竹を伐ってからメンマを作って完成するまでは1週間ほど掛かってしまうため、竹を伐って下処理し、その後の調理工程はレシピをお渡しし各自参加者のご家庭で行っていただくことを想定している。参加者は実際にメンマを味わいたいと思うので、イベント時にはあらかじめスタッフ側で作ったメンマを食べていただくのはどうかと考えている。
- メンマづくりに限らず、森林浴や昆虫採取、バードウォッチング、キャンプなどと組み合わせても面白いかもしれない。街中の市民が参加することにより竹林はじめ里山環境との距離感も縮まっていくのではないかと期待している。

【発表後の意見交換】

- 梅雨明け以降の時期になると竹(ハチク)が成長してしまい、メンマづくりに適した材料が調達できなくなるため、時期としては5～6月頃がよい。
- まとまった竹林がある場所は中山地区、四賀地区、梓川地区の3か所か。畑地と山林の境界部にあって、アプローチしやすい。ただし、ツキノワグマには十分注意した方がよい。
- 奈川地区にはネマガリタケの採れる場所もあるが、奥山の環境となりイベントで実施するには不向き。
- メンマづくりと一緒に竹林整備を実施することで、里山環境の保全にも寄与できる。放置された竹林の維持管理に困っている所有者は多いと想定され、所有者個人では対応が難しい。
- 竹材は木材より柔らかいため、子どもでも比較的容易に伐採等の作業が可能で、講師が指導することで保護者も安心して子どもにノコギリやカマを使わせることができる。
- メンマづくり以外にも竹を用いたものづくり体験等が可能で、竹とんぼや竹馬など玩具の製作とその体験や、バウムクーヘンづくり、竹炭づくりなどもできそう。他の山菜の採取(ゼンマイ、タラノキ、ウドなど)や調理法の説明(場合によってはその場で調理、実食)も併せてやるとイベントの幅が広がるかもしれない。
- イベント前での事前作業・準備の確認が重要か。安全に作業するため、事前に下藪刈りや歩道整備などプロによる下作業が発生する可能性が高い。
- 参加者の車をイベント地付近に駐車できない場合は、バス等での送迎が必要。
- イベント前には、所有者への意向確認が必ず必要。

意見交換で整理した自然体験イベントの企画内容

■開催時期

- ・5～6月頃(梅雨に入る前まで)

■開催場所 候補地

- ・中山地区、四賀地区、梓川地区

■効果

- ・メンマづくりと一緒に竹林整備を実施することで、里山環境の保全にも寄与できる。
→放置された竹林の維持管理に困っている所有者は多いと想定され、所有者個人では対応が難しい。
- ・竹材は木材より柔らかいため、子どもでも比較的容易に伐採等の作業が可能で、講師が指導することで保護者も安心して子どもにノコギリやカマを使わせることができる。

■展開

- ・メンマづくり以外のものづくりや調理体験
 - 竹とんぼや竹馬など玩具の製作と体験
 - バウムクーヘンや竹炭づくり
 - 他の山菜の採取(ゼンマイ、タラノキ、ウドなど)や調理法の説明(場合によってはその場で調理、実食)

■課題や注意点

- ・イベント前での事前作業・準備の確認。安全に作業するため、事前に下藪刈りや歩道整備などプロによる下作業が発生する可能性が高い。
- ・参加者の車をイベント地付近に駐車できない場合は、バス等での送迎が必要。
- ・所有者への事前の意向確認が必ず必要。

②甲斐原 さなえさん

森林セラピストによる「森の香りを紡ぐ森林浴」定期的実施のススメ



【発表内容】

- 森林浴は、心理的なリフレッシュ効果だけでなく、免疫力向上により美容・美肌(バリア効果)など身体にも良い効果がある。
- 森林が生み出す身体的な効果としては、ストレスホルモンの減少、副交感神経の活動が高まり、交感神経活動が抑制されるなどの効果がある。
- 森林セラピーが生み出す精神的な効果としては、ストレス状態の改善、活力などエネルギーの回復、自律神経系の改善などが挙げられる。
- 森林浴による免疫力の高まり効果は約1か月も継続する。定期的な森林浴を勧める。
- 五感の中でも最も「脳」に早く伝わる「嗅覚」を使って、香りを楽しみながら森林浴を行うことを勧めている。
- 全国にある65か所の森林セラピーのうち、長野県には10か所もあるが、中信地区にはない。

【発表後の意見交換】

- 日本は森林大国だが、森林浴などは未知の世界となっていて広がっていない。大自然を歩く事で、メンタルだけでなく免疫力もUPする。観光利用だけでなくメンタルヘルスの面からももう少し踏み

込んだ使い方を広めたい。個人だけでなく、組織・企業の研修などメンタルヘルス的な取り組みもよい。

- 森林に接する機会が全くない人を「森」に誘導するのはとても大変で、森に接するきっかけ作り、間口を広げる取り組みが重要である。
- 森林浴イベントをもっと身近な場所で実施してほしいという声をよく聞く。アルプス公園でやりたくて計画を申請したが、お金を取ってやるイベントはダメと言われた。アルプス公園には香浴・森林浴のコンセプトにぴったりのエリアもある。行政を巻き込んで事業化すると民間主体の企画でも実施できるのではないか。

→その活動が人件費も含めて国の譲与税の目的に合致しているかどうか。誰でも参加できるとか、会社ごとの福利厚生、研修の一つとして活用するとか、企画次第でできるのではないか。

- 製材所を閉じた跡地を所有しており、街の中に森林浴効果が得られるようなスペースを作れないかとも考えている。内田の松本カントリークラブの近く(アルプス市場の上)で、昔ボーイスカウトのキャンプ場にしていた所があり提供できかもしれない。トイレもあったが今使えるかは確認してみないとわからない。
- 岡田財産区などでも、市に提供できるという場所もある。現在も提供実績がある場所がある。
- 大野川地区では使用許可をもらっており、イベントの報酬をいくらかバックするという仕組みを作っていて、そのお金は森林整備に使うということになっている。乗鞍まで行かなくても近くの里山でそういう仕組みができればいい。
- アルプス平のなかでも森林浴できそうな場所はいくつもありそう。整備されたところでなくても、安全が確保できる場所ならどこでもできる。
- 松本市の山田地区などは里山整備利用地域活動推進事業の指定も県民税をつかって整備されている。地域の人が中心に歩道を作ったりしている。お城の跡などもありイベントにも使えるエリアかもしれない。
- 森林浴企画として御殿山は晩秋から春先までやることがある。冬もとてもよい。
- 上高地は、観光・レジャー・インバウンドという系図を考え直すきっかけにしたいという思いがあるが、それは市民向けとは違って来るかもしれない。
- 市内の森をゾーニングして教育やセラピーが体験できる場所を市として提供できるようになるとよいと考える。

③子ども未来委員会 のみなさん

自然や里山の魅力を増やすために



【発表内容】

- 松本子ども未来委員会では、市内の学校に通っている小学生から高校生が集まり、様々な地域の問題をテーマとして話し合いをしている。自然の保護グループで「自然や里山の魅力を増やすために」というテーマで話し合いをした内容を発表する。
- 持続可能な社会に向けた活動が話題になっている中で、里山は、生物多様性や子どもたちの自然への関わりを増やす場としてとても重要なところです。ところが、子供たちの自然への興味の低下と高齢化による管理者不在の問題、松枯れなどにより里山は荒廃が著しい状況です。
- このような状況を改善するため、子供たちの自然への興味を取り戻すために、自然に触れる機会を増やすことが重要と考えました。もう一つは里山を守る活動を盛り上げることです。
- 今回のイベントの企画としては、市民、子供たちが自然や里山に対して興味を持ってもらう活動を行うことです。キャンプ体験などを通じて自然への愛着や理解を深めること。またゲームのような形で昆虫の観察を楽しく行うことなどが出来ればと思います。

【発表後の意見交換】

- 子供たちの発表にあった里山の保全を行っている一人である。山火事や松枯れで荒廃してしまった山の管理を続けている。大きくなったら山に遊びに来て、整備を一緒に体験してもらいたい。

- 子供たちの発表にあった里山の保全を行っている一人である。山火事や松枯れで荒廃してしまった山の管理を続けている。大きくなったら山に遊びに来て、整備と一緒に体験してもらいたい。
- 子供たちの発表の中で里山の減少、消滅と言っていたのが印象的だった。山は勝手になくならないが、人が入る山が里山だとすれば、確かに里山は消滅してしまいそうなものかもしれない。きっと、みんなにとっての里山は、今はない、もしくはとても少ないのだと思うし、山が子供たちの遊び場になっていけるとよいのだと思う。
- 山に入る道を管理したり、森を整備するような人が地域にいないと、里山は利用できない。
- 今回は、キャンプ体験を通して山、森に入って利用する技を学びたい。

意見交換で整理した自然体験イベント(キャンプ形式)の企画内容

■開催場所

- ・どこかキャンプや森林・自然体験ができる場所

■開催時期

- ・夏休みから 9 月ごろ
子供たちが参加できる日程を調整

■参加者

- ・今回の発表者を中心として子ども未来委員会のメンバー

■キャンプでの体験内容

- ・キャンプは、泊まり、日帰り選択できるように
- ・ムシキング対決(昆虫の観察)、虫を食べる？
- ・魚釣り、釣った魚を食べる
- ・鳥の観察
- ・家づくり(竹や木で秘密基地を作りたい)
- ・カレーを作る。※シカ肉を食べてみたい。

■必要な準備

- ・体験の先生(虫や鳥がわかる人、家づくりでチェーンソーが使える人)
- ・場所の確保
- ・家づくりのための道具や材料

④松本市森林再生市民会議

松本市森林再生市民会議についてのアイデア



【発表内容】

- 大人も子どもも含めて市民が集い、「こんなことをしたい」「困っているので手伝って欲しい」といったようなことを話し合う場所を、市民の皆さんが集まりやすい場所に作れないか。その場で解決することは難しくても、そこから取組が前向きに展開していくような入口になる役割を担う場所を作れたらいいなと思っている。
- これまで運営委員会ではイベントやフォーラムを開催してきたが、どうしても年に数回に限られる。気軽にいつでも話を聞けたり相談したりできる場所がないとこの市民会議の活動は本格化していかないと思っている。
- 森林の中で市民はどういった取組ができるのか、一人では微力でも皆で取り組めばアイデアも広がり面白いことができるのではないかとと思っている。
- 森林環境譲与税として国から各市町村に森林の取組に関わる資金が配分されており、市民活動の支援にも使えるはずである。
- 親しみやすい入口としての森林を作るため、市民が親しめる里山環境を創出することは大切であると考えている。そういった場所は現在でも全くないわけではなく、市民に知られていないという面もあることから、市民が利用しやすい森林のマップを作成することが有効ではないかと思う。

- 各地域には地元の森林を守ってきた市民の方々もいて、そういった方々の想いや苦労を記録し、次世代に引き継いで聞く取組も大切だと考えている。
- 運営の仕組みとしては、未成年も含め市民の誰もが市民会議のメンバーになれば、その中から中心的な役割を担うコアメンバーが育成されていくことが期待される。その際、森林に変わる専門家は中心メンバーにならない方がよい。専門家は技術的な知見や、取り組むのであればその有効な方法をアドバイスするといったようなスタンスが適切ではないかと思っている。

【発表後の意見交換】

- プレゼンで話した「入口」を作らなければいけない。(三木)
- 森林だけの特定の目線になることは心配である。(男性 A)
- どういった森林にしたらよいのか？これまでは家づくりのための森林づくりだったが、林業が儲からなくなり、関心を失った。これまでは、木材が早く確保するためだけの森林づくりだったが、もう少し色々あって、子どもや大人が遊べるとか、薪を採れるといった住民ニーズがあるのではないか？まずは、入口として「こういうことをやりたい」という話合いの場を作れたらよい。(三木)
- 御殿山の下に住んでおり、トレーニングで毎朝登っている。(地元屋)
- その登山道は、わかりやすい入口があるのか？引っ越してきたばかりで、里山の入口がある場所がわからない。(女性 B)
- 大音寺山から**を経て入口がある。御殿山は登りやすいおすすめルートだ。(地本屋)
- 人気が出てくると、駐車場の問題が出てくる。伊那には大芝高原があるが、松本ではアルプス公園が基地になれば良いのでは？(藤木)
- 既に施設があるし、市内(街なかに近い)だし、他の場所ならばあがたの森か？段々とレベルが上がるように場所が示せると登りやすい。(三木)
- 色々調べるアプリはあるが、1人で歩くには、そこが整備された場所なのかわからず怖い。(女性 B)
- クマは朝や夕方しか出てこないの、私が歩く午前9時頃は出てこないと思う。(地元屋)
- こういう話ができる場所があったらいいと考えている。でも市役所の中ではないと思う。街なかの空き店舗などが良いかもしれない。市内には大きな空き店舗が2か所できるようだし…。市役所で確保できるか？(三木)
- 借上料など費用がかかる話なので、財政部署などに事業の必要性が理解される必要がある。お試してできれば始めやすいかもしれないが、事業効果を生むために必要な借上期間を含めて、しっかりした事業計画をまとめて説明する必要がある。(竹内)
- 街なかで場所を借りてもらって、うまく事業が進めば場所を拡げたり、複数設けることが検討できれば、なお良い。その場所に人がいることも大事で、「行ったけど誰もいなかった」ではいけない。曜日や時間帯を決めて実施してもよいかもしれない。(香山)
- INADANI(伊那谷)SEESでは、人を付けて実施している。(渡辺)

- 先に話した地元の山登りでは、地元でお店をやっている人がきっかけで、登りたい人が同じ時間に集まって登っており、「行けば誰かが登っている」というやり方をしている。参加申し込みなど、煩わしいことはしていない。(地元屋)
- 下り始めた頃に、登ってくる人もいる。
- 松本市内に自然教室をしている場所はあるか？キャンプをしながらとか。(女性 B)
- 市内の小学5年生は、入山辺三城の施設でキャンプをして美ヶ原登山をしていると聞く。ただし、登山中やキャンプで自然教室としての取組みをしているかまではわからない。(竹内)
- 登山目的にこだわらず、「ちょっと山に行きたい人」が使えるマップを作りたい。(藤木)
- 遊歩道マップはあるが、「ちょっと山に行くだけ」「山に行ったら何をやるかは特に決めてないけど、ちょっと行きたい」ような人が使えるマップがよい。(三木)
- 来年度では先の話になってしまうので、今年度中にやりたい。(香山)
- 企画会議をやったらよいのでは？ まつフォレイブントに向けたこれまでの会議ほどでなくてよいので、そのサブ企画のような位置付けで、マップづくりをしてはどうか？(三木)
- ニホンミツバチを飼っている。蜜源マップがほしい。(男性 A)
- 林班図や森林簿があるが、これらは木材生産を目的とした林業用の図面や台帳なので、新しい視点のマップは重要かもしれない。(香山)
- 入山辺の三城地区には、マエダジュンイチさんという著名な木工芸術家がいる。(地元屋)
- そうした情報もマップに載せたらよい。(渡辺)
- 松本産の材が、市内に出回れば理想的と思う。(男性 B)
- 松本市内には、街なかの平場に木工団地もある。(三木)

⑤松本グラベルライド のみなさん

松本グラベルライド～林道の新たな活用方法～



※展示のみ

⑤高橋陽子さん（飛び入り）

【意見交換】

- 浅間温泉にあじさいの里を作りたい。温泉街の森の裾野の部分はどうかと思っている。愛知県の形原温泉では、個人の山を所有者が地元へ寄付し、温泉街の賑わい創出対策としてあじさいの山として30年かけて作った事例がある。（高橋）
- 形原温泉の事例では寄付があったので実行できたものの、浅間温泉では、①個人の土地にあじさいを植栽できるのか、所有者の気持ちを動かさないと難しいかもしれない、②該当箇所が広すぎるのでもう少し候補地を絞った方が良く、といった課題がまず思いつく。池田町の大カエデの例では、実際に活動されている団体もあるようなので、なにか参考になる話が聞けるかもしれない。草刈りや駐車場整備などされているようである。例えば、あじさいの他に防災林としてイチヨウと一緒に植栽すれば、春夏はあじさい、秋冬はイチヨウと楽しめるかもしれない。（小山）

■参加者からの感想

No.	記述
1	私は、松本市に越して来て1ヶ月程です。山が近くにあるので、山は見えているが身近なところに街路樹などは少ない気がします。緑のありがたさを感じていない気がします。楽しく参加させていただきました。
2	三木委員長の発表資料をいただけるとよかったです。また、市内向けの視点を多く感じましたが、もう少し広域で連携できたり、市外の人も参加できるような視点があると良さそうだと感じました。
3	松枯れをはじめ、気候の温暖化、災害による倒木・土砂崩れなどの今日的課題は、今後現在以上に頻発することが予想されます。現状を維持する活動と今後のための長期ビジョンとのスムーズな連携が実現することを望んでいます。
4	森林整備はお金が掛かるので、やりたくても手をつけられないのが実状だと思う。里山と奥山は別に考えたほうが…
5	松本市の広報で見かけるイベント・ワークショップは親子参加（小学生と保護者）が多い気がする。部活や習い事で参加が少ないのかもしれないが、親が興味なかったりすると連れて行かないので、松本市に住んでいながら上高地や美ヶ原に行ったことのない人も多い。中学生や高校生などを対象にしたバスツアーなどがあれば良いと思う。 ハイキングや焼きイモ大会など、山に行く機会がなければ興味も持たないし、今の子供は色んな体験をしないままになってしまう。中高生が参加しやすいように、駅前、Mウィング、信毎ガーデンなどで集まってワークショップとか？山集合となると送迎が必要となり、結局親子参加となってしまう、興味の無い親は参加させない。
6	長期ビジョンの課題の中で、「木材と市民が離れている」とありました。これは松本地域の木材が丸太のまま外に出てしまい（地域内に製材加工工場が少ない）、地域で加工することがないためだと思います。具体的にどうするか、行政（森林環境譲与税利用か）と民間、市民が協力しないと出来ないこと。 セラピーや森林浴を県民税事業の里山整備と結びつけられないかと思いました。
7	子供達を集めた（市民）交流キャンプ等を考えていただきたい。
8	第2部からの参加だったので、「やりたいこと」等のポジティブな意見が多かったように感じた。もっと負の面についても意見交換や、科学的見解を聞きたかった。
9	ビジョン案の委員長説明の中で次年度以降のまつフォレ継続が名言されたことが本日のフォーラムにおける大きな成果だったと感じています。あとは、その活動を支える財源をどう確保するかだと思うので、次年度予算、その翌年以降の予算、工夫しながら組み立てていただき、財源を動かしていただけたらと思います。 （追記）子ども未来委員会のみなさんの昨年度の提言が具現化される道筋が、この場で示されたことには感動を覚えました。年度をまたいで、所管部局をまたいで、子どもの権利が守られ行使された瞬間に立ち会えて嬉しかったです。
10	来年の竹林整備＋メンマづくり＋αのイベントが楽しみです。
11	森林に限らずですが、あるテーマについて関心を持つ人を増やすために何か取り組み・イベントを行う時、“参加する側：お客として参加 企画する側：お客として扱う”となっているものが多いと感じます。一緒に作りあげるメンバーとして、その中で役割分担があるといったように進められるとよいのですが… お客差意識からなるべく離れるように考えることは大切だと考えています。

12	・「市民の暮らしを支える、森を守る」→森林だけの問題でなく、農業や全ての環境と関わりがあると思います。森や山の環境のことだけを考えれば良いということにはならないと思います。 ・「森を知って…森を育てる」→どのような森を育てるのか？どのような森を知っているのか？をよく考えなければならない。森林を人間の欲で育ててはいけないと思います。 ・「自然を守り…育てる」→どのような自然を守れば良いか？人間中心の自然ではなく動植物全てが棲みやすい環境を整えることが、結果生物多様性の循環が出来、人間の暮らしも豊かになると思います。 〔個人的に活動している事〕 日本在来種である日本ミツバチの圃場を増やす活動をしています。全国的に減少しています。シーズンを通した蜜源植物が少ないことを心配しています。豊かな「蜜源の森」も目指していきたいと思っています。
13	・予算について 話題に上らない段階は終わり。予算を含めて検討するステージに入っていると考える。 ・2024 年末のパブコメ段階では全て決まってしまうので、それまでの間にビジョンの詳細を見る機会がほしい。 ・このフォーラムそのものが、重要なイベントだと考える。初回からの参加者の延べ数をいかに増やすかが重要な KPI となる。参加したことがある個人には、参画呼びかけをして、参加者の維持を拡大しましょう。
14	〔提案〕 浅間温泉をあじさいの里へ 愛知県の形原温泉は、一度寂れかけたのですが、地元民のボランティアによりあじさいの里に、今や大人気の観光地。 ・あじさいはさし木で増やす。 ・苗木を市民等にも買ってもらう（記念樹）。 ・ふる里納税の返礼品、クラウドファンディング。 ・管理は形原温泉の場合ボランティア 今やあじさいは人気の花。全国あちこちに名所ができています。そこで差別化が必要、あじさいの花の中に“かえる”をあちこちに配置、かえる探しの散歩など楽しいのでは？（縄手通りのかえるで有名） 防災林として、いちょうの植樹 ・体育館前のいちょうの大木のぎんなんを Get!ぎんなんから苗木造りは子供達…。
15	今日はありがとうございました。松本市の今後の市民の暮らしについて、具体的に知ることができ大変勉強になりました。「暮らし」という観点ではなく、森林の活用という部分では、松本市においては発展途上かなと思います。公共物件への木造率向上や、市民に近い環境の木造化という部分では、都市部の方が意識が高いように感じます。まだまだ活用されていない資源が松本市にはたくさんあります。行政が中心となって、そういった物件を展開してもらいたいと思います。

【WEB アンケート】

1	年齢
	60 歳以上…1 名、50 代…1 名
2	住まい
	松本市…2 名
3	本フォーラムに楽しく参加できましたか（レベル回答）
	5…2 名
4	本フォーラムで森林、林業、木材の魅力を感じられましたか？（レベル回答）
	5…1 名、2…1 名
5	特に印象に残った場面はどこですか？（複数可）
	・ 第 1 部 森林長期ビジョンの骨子について…2 名
	・ 第 2 部 森林に関するイベント企画のプレゼンテーション…1 名
	・ プレゼンターとのフリートーク…2 名
6	どのような思い(動機など)をもって本フォーラムへ参加されましたか？
	・ 森林、里山と市民の皆さんとの距離を近づける目的で、森林、里山での遊びや食のイベントを実行したい。
7	あなたにとって、松本の森に魅力を感じますか？
	はい…2 名
8	あなたにとって、松本の森の魅力はどのようなところですか？
	・ 美ヶ原、上高地、乗鞍という日本国内屈指の著名山岳を有し、その麓に広がる森はどちらも松本の宝です。量はあるのだから、質を高める＝価値を高めることを狙いたい。経済的な価値を高めることも重要だが、市民が親しめて、気軽に使えるインフラの様な存在としたい。それは計測不能な価値かもしれないけど、松本の魅力として欠かせない価値になる。
	・ 身近な遊び場であり、リフレッシュ出来る場所。
9	魅力のある松本の森にするにはどうすれば良いと思いますか？
	回答なし
10	今後も森や林業についてもっと学びたいと思いますか？（レベル回答）
	5…2 名
11	今後開催するイベント・フォーラムの内容に興味があるものをお答えください（複数可）。
	・ 木×税金…2 名 ・ 木×芸術…1 名 ・ 木×飲食…1 名 ・ 木×雑貨…1 名 ・ 木×教育…1 名 ・ 木×健康…1 名 ・ 木×学び…1 名 ・ 木×体験…1 名 ・ 木×動物…1 名 ・ 木×暮らし…1 名 ・ 木×環境…1 名 ・ 木×福祉…1 名

12	そのほか、こんなイベントがあったら参加したい！というご意見があれば、ご自由にお書きください。 1. 防災 DAY キャンプ 2. 鍼灸浴を兼ねたヨガやストレッチ 3. 自然エネルギー体験 4. フードフォレスト 5. 山を所有するには、山を活用するには、山を維持するにはといった山に関するセミナー
13	将来（未来）の松本市の森林や林業に対して、ご自由にお書きください。 ・ 山の中、山際に公園やキャンプ場、体育館、会議スペースなど、ダレで気軽に楽しめるばを作って欲しい。
14	森林や林業に対して、ご自由にお書きください。 ・ 森林や林業の楽しさなどの続報をどんどん発信してほしい。危険、たいへんといった IMAGE が強い雨と感じています。
15	全体を通して感想があれば、ご自由にお書きください。 ・ まつもとフォレストを職業のひとつとして、法人化し、新卒や中途採用者を雇用するまで発展することはあるのでしょうか。山守人を育てる。
16	今後、まつフォレのイベント情報などのお知らせを希望されますか？ 希望する…2 名

アンケート



■アンケート実施結果(一般市民)

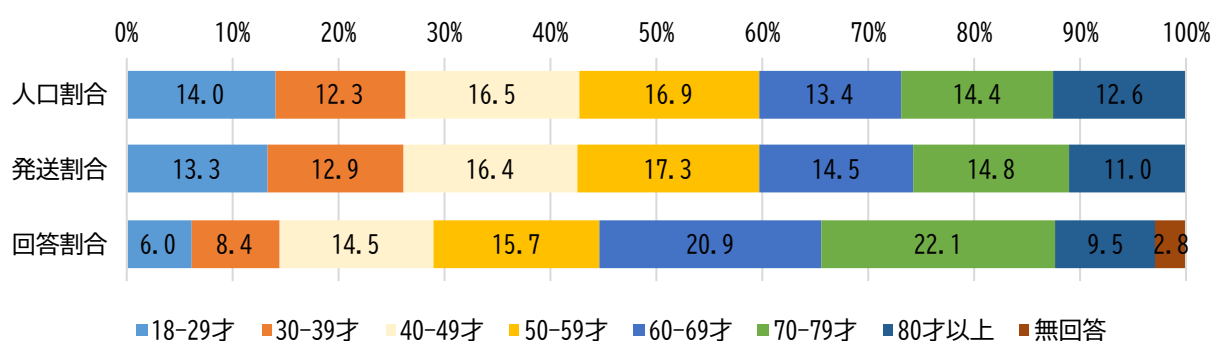
1. 調査方法：松本市の年齢別人口比に準じて、松本市民 2,000 人を無作為抽出し、アンケート調査を実施しました。
2. 調査期間：令和 5 年 11 月 30 日（木）～ 12 月 17 日（日）
3. 回答状況：返送数 438, WEB 回答数 159 合計 598 通 回答率 29.9%

◇回答者の属性

問 1：あなたの年齢、お住まい等について教えてください。

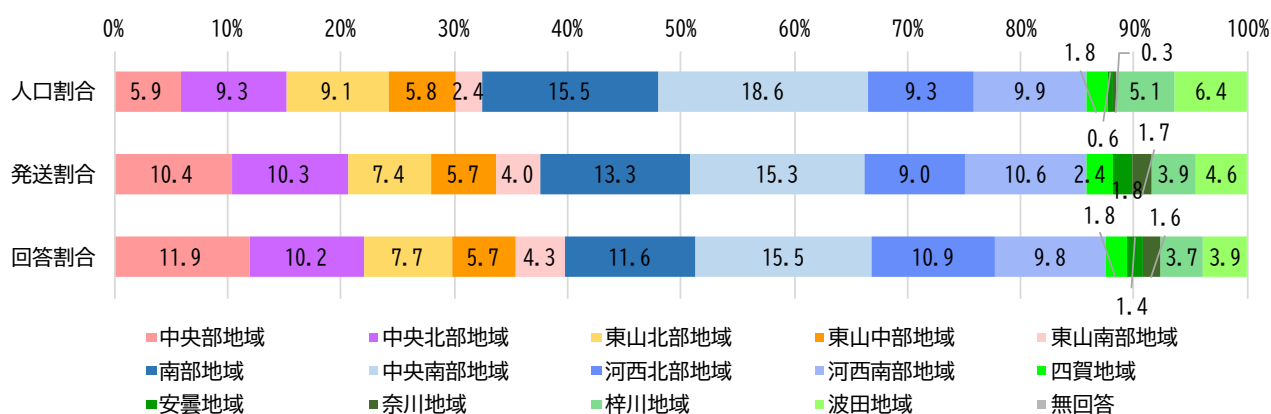
【年齢】

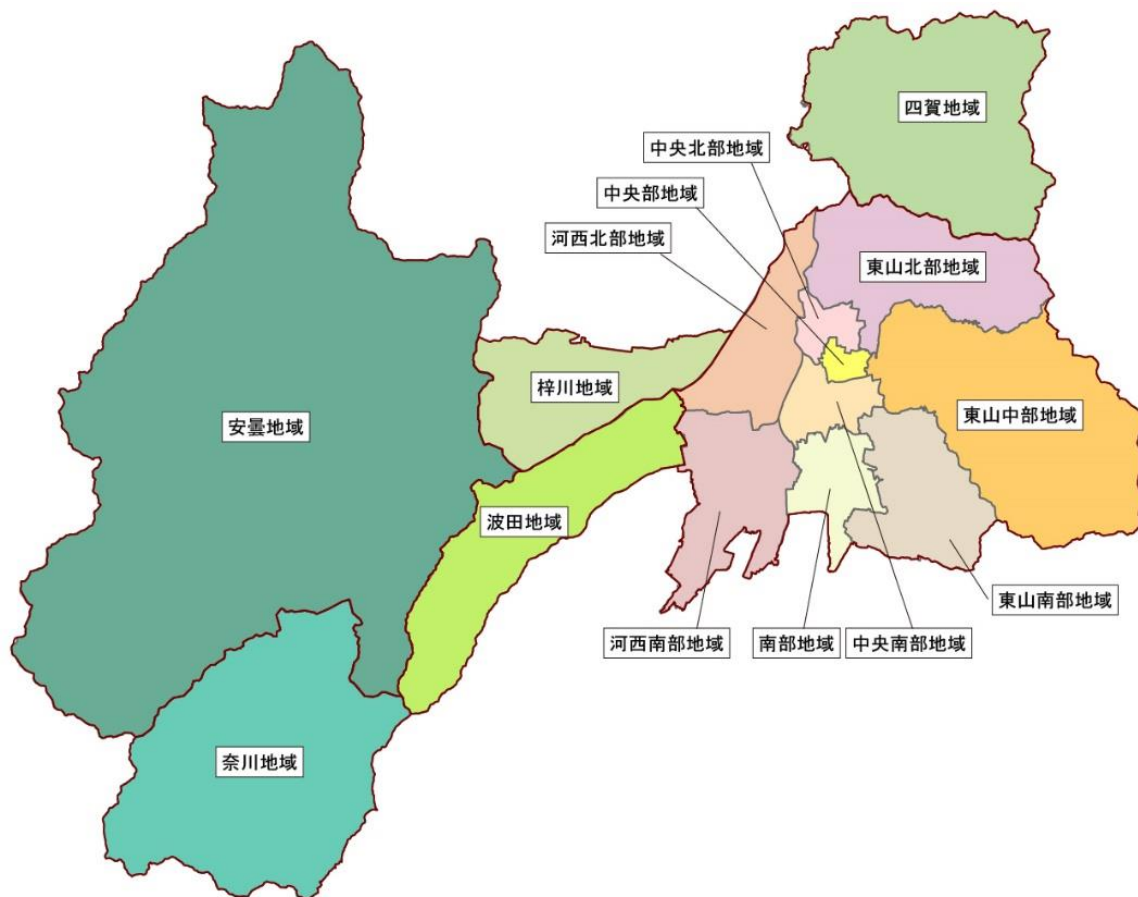
60 代、70 代の回答が 20% ずつあり人口割合に比べて高い回答率となりましたが、20 代以下、30 代では低い回答率となりました。



【居住地区】

中央部地域の回答が人口割合に比べて高い回答割合となりました。

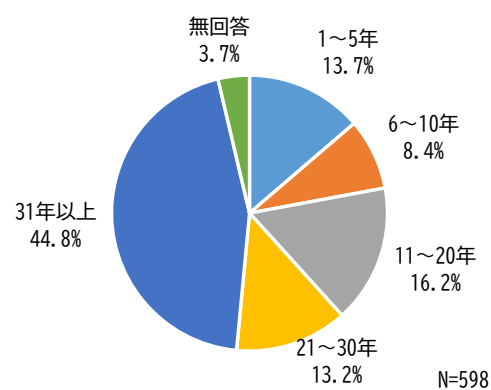




地域区分	地区名	地域区分	地区名
1 中央部地域	中央・東部・第一・第二・第三	8 河西北部地域	島内・島立・新村
2 中央北部地域	白板・城北・安原・城東	9 河西南部地域	和田・神林・笹賀・今井
3 東山北部地域	岡田・本郷	10 四賀地域	四賀
4 東山中部地域	里山辺・入山辺	11 安曇地域	安曇
5 東山南部地域	中山・内田	12 奈川地域	奈川
6 南部地域	芳川・寿・寿台・松原	13 梓川地域	梓川
7 中央南部地域	田川・鎌田・松南・庄内	14 波田地域	波田

【居住年数】

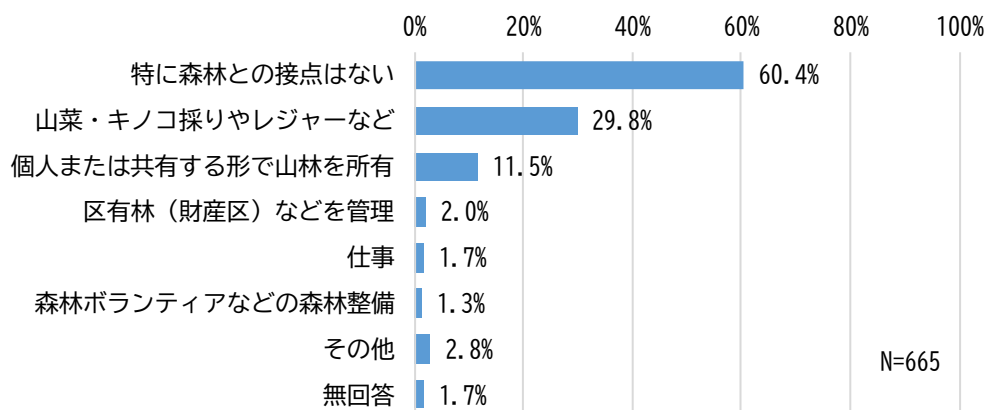
回答者を居住年数別に区分すると、45%の方が
31年以上松本市に居住された方でした。



◇現在のあなたと森林との関わりについて

問2：現在のあなたと森林の接点について教えてください。（複数回答可）

60%の回答者が森林との接点がないという回答で、30%の方はレジャーとして関わり、10%の方が森林を所有しているという回答でした。

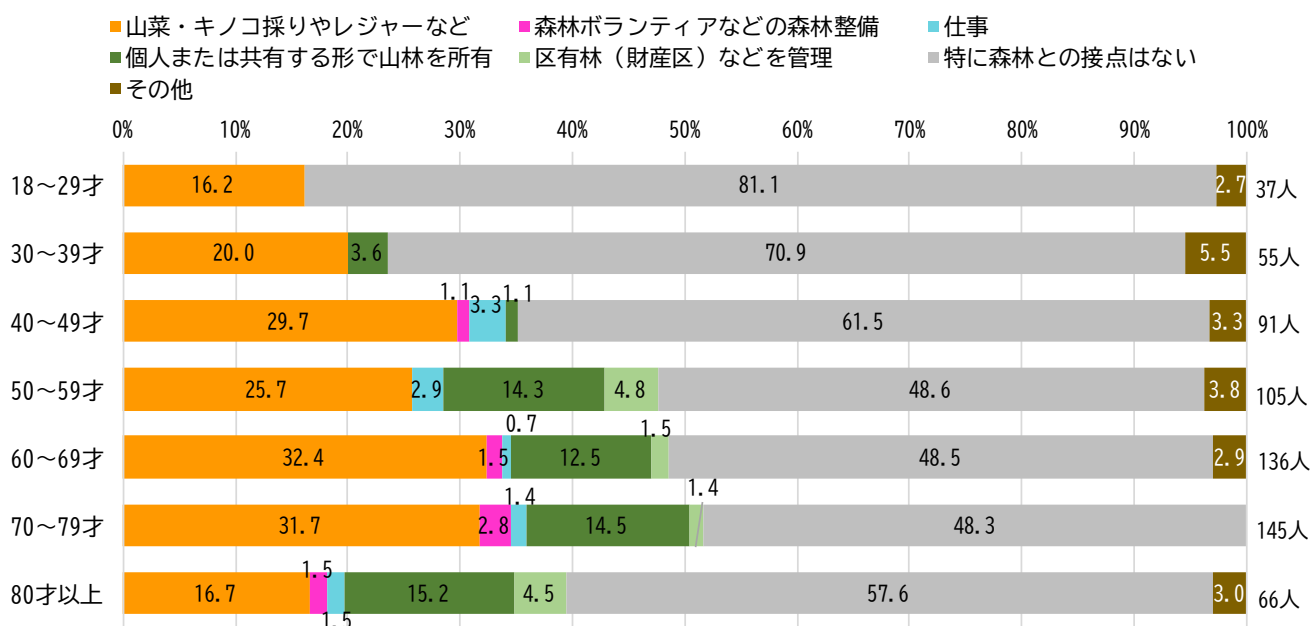


[その他]

- ・滝を見に行く/登山/散歩・散策/イベント参加（植林活動）
- ・薪の調達/フィールド調査、教育活動
- ・道路管理/山城整備
- ・配偶者が山岳関係の仕事/配偶者・親族が山を所有/配偶者が松本市以外に山を所有
- ・松本市に心が豊かになる森林はない。市内の街路樹は切られ見た目のことばかり。豊かな川の中の木も伐採してしまう。近代化して何をしたいのですか！

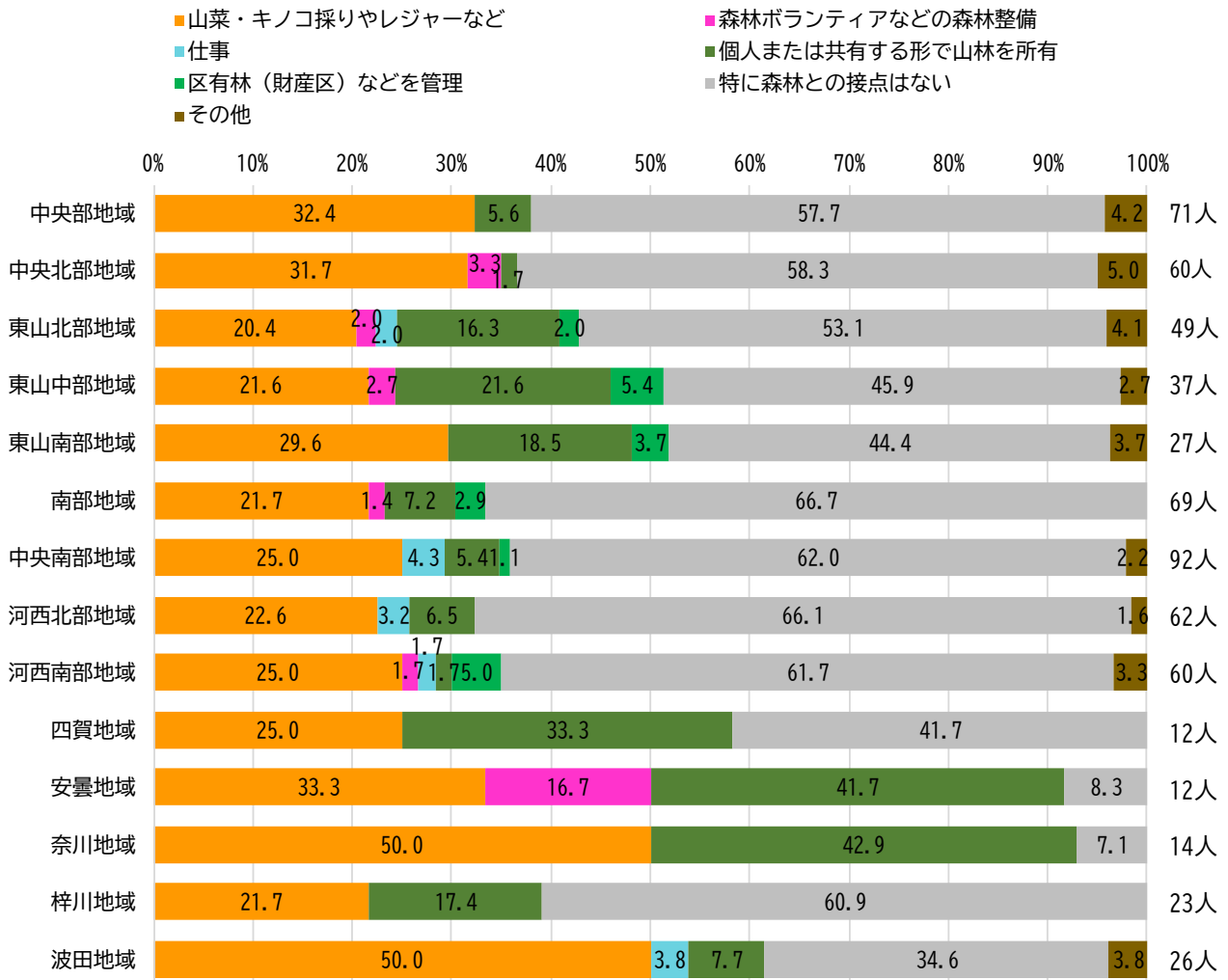
【年齢別】

年代別で見ると、どの年代も20～30%の方がレジャーなどで森林との接点があるという回答でした。また、50代以上では15%前後の市民が山を所有しているという回答でした。



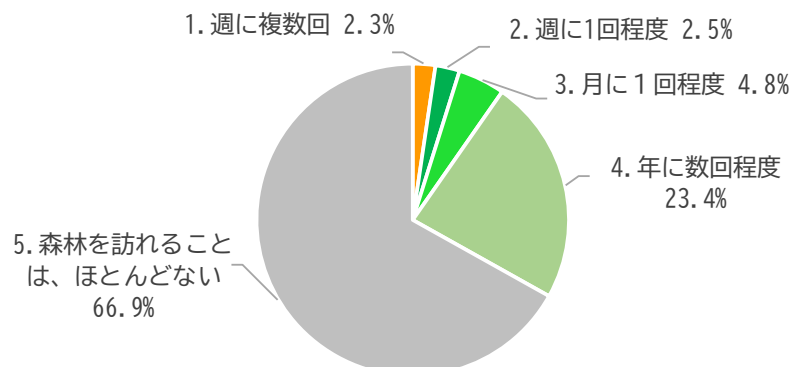
【居住地別】

居住地別で見ると、安曇、奈川地域では40%が森林を所有しており、50%がレジャーや森林整備で森林と関わっているとの回答でした。さらに奈川については16.7%がボランティアとして森林整備に携わっているとの回答でした。南部、中央南部地域、河西北部・南部地域などアンケート回答が低かった地域では、森林との接点も低い回答となりました。



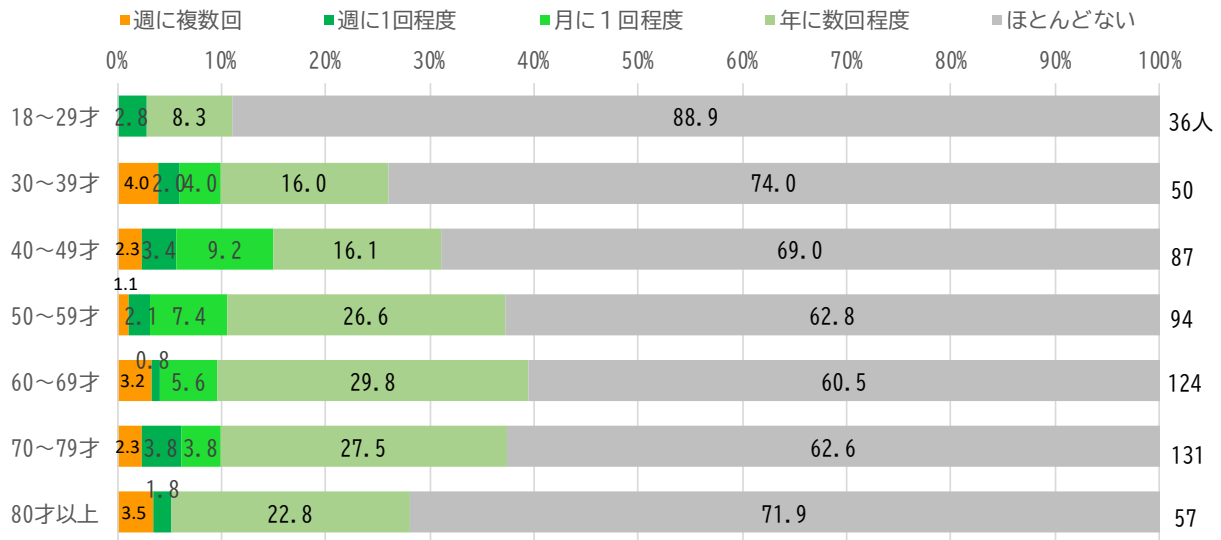
問3：あなたは、近年、どの程度の頻度で市内の森林を訪れていますか。

67%の方がほとんど森林を訪れないとの回答でしたが、「月に1回～週に複数回」森林を訪れる市民は回答者全体の1割程度ありました。



<年齢別>

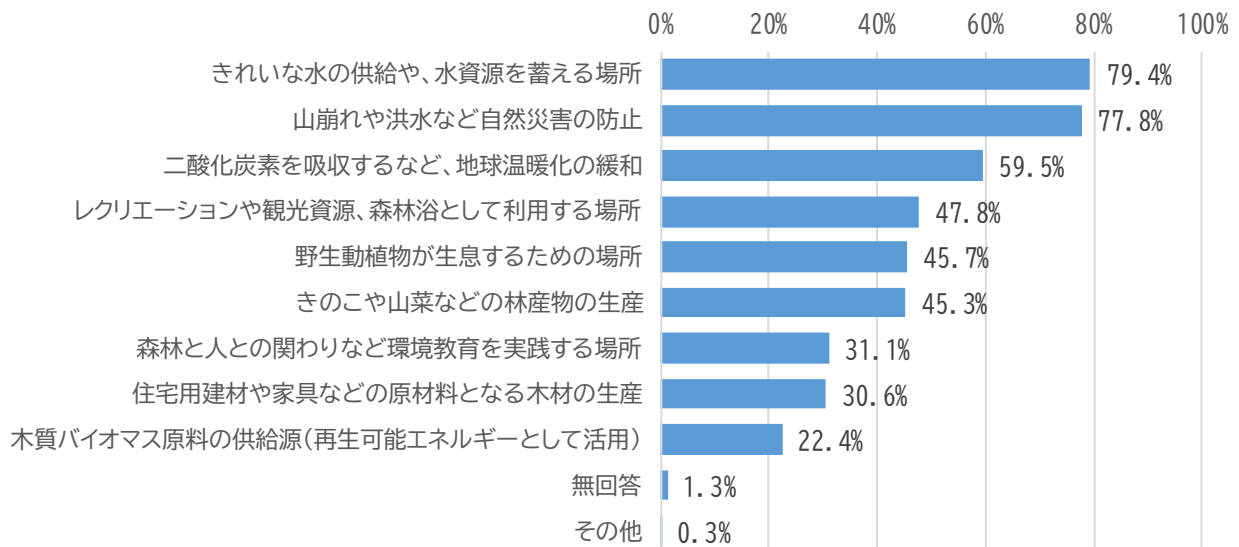
20 代以下では 9 割弱が森林を訪れないとの回答で、その他の年代では 30～40%が森林を訪れているとの回答でした。



◇松本市の森林に期待する役割や、今後の活用についての考え

問 4：松本市の森林について、どのような役割を期待しますか？（複数回答可）

水資源を蓄える場所や自然災害の防止の役割を期待する回答が約 80%に上り、次いで 60%の方が地球温暖化の緩和と回答されており、特に生活環境を維持するための役割を期待している回答となりました。また、約半数の方がレクリエーションやきのこ・山菜取りなど観光資源としての役割を期待されました。

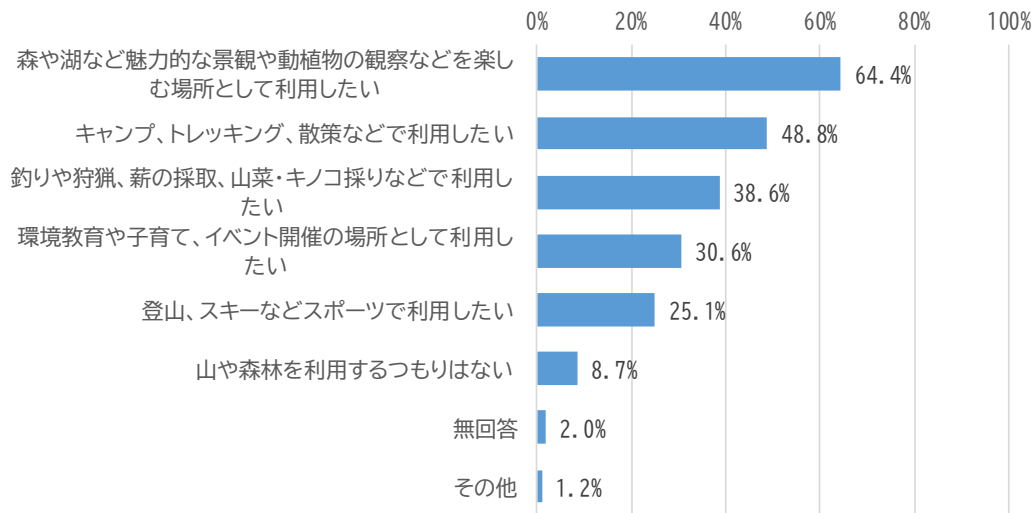


[その他]

- ・観光資源/景観のすばらしさ！
- ・キノコや山菜などを自由に採れる市有林が欲しい。
- ・薪ストーブやパレットストーブの燃料としての活用。松枯れの廃材の利活用。
- ・まず整備が必要。今の状態では期待など考えられない。

問5：松本市の森林の利用(仕事以外)について、あなたの考えを教えてください。(複数回答可)

「森や湖など魅力的な景観や動植物の観察などを楽しむ場所として利用したい」の回答が64.4%で一番多い結果となり、「その他」の回答として、手を加えない自然を楽しみたいという回答も多く上がりました。



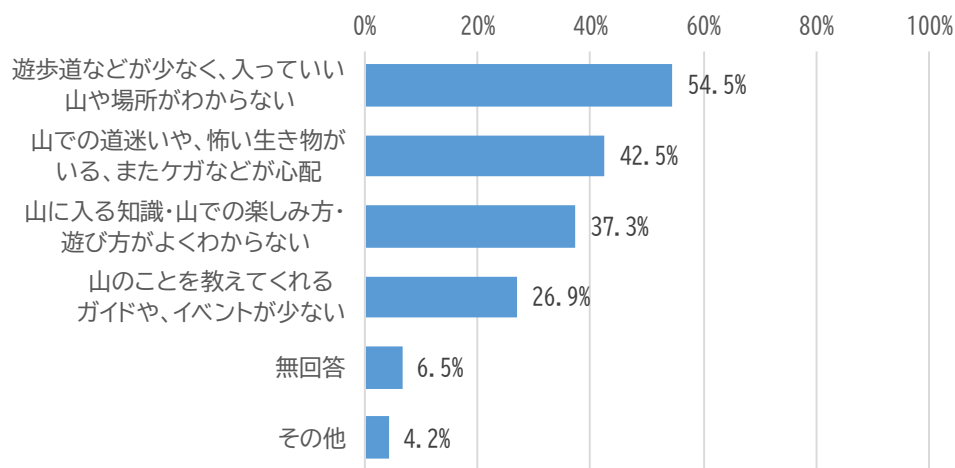
[その他]

- ・トレイル、森林浴、山菜取り
- ・住居としての利用
- ・町の中にも木の多い所を作って散歩したりベンチに腰をかけたりできるようにする
- ・車イスでも利用できる場所を作ってほしい！！
- ・できるだけ人工物を作らず自然のままの状態を活用できるようにしてほしい
- ・選択肢にあるような積極的な目的ではなく、もっと自然なさりげない形で自分の精神生活の中に取り入れていきたい。
- ・良好な環境を保全するための場所として利用し、観光開発やレジャー目的での安易な利用はすべきでないとする。昨今の観光地の状況を見ると、オーバーツーリズム状態になっても、誰もブレーキをかけることができず放置状態となっており、押し寄せる自家用車等の排気ガス、観光客が放置するゴミ等の廃棄物の増大など、自然環境の荒廃を招いているのは明らか。観光に関わる事業者は、基本的に自社の収益しか考えておらず、「良好な環境」は収益のための事業活動に利用するだけで、環境保全を優先することはおろか、共存することも考えていない。
- ・勝手に人の土地でいろいろする人は減らして欲しい

問6：森林を利用するにあたり、あなたが課題と覚えることがあれば教えてください。(複数回答可)

「遊歩道などが少なく、入っていい山や場所がわからない」の回答が54.5%と1番多く、「その他」の回答でも、「入ってみたいが駐車場や整備が不足している」などの声がありました。

山は危険と感じている方や、楽しみ方が分からないとの回答も37%あげられました。



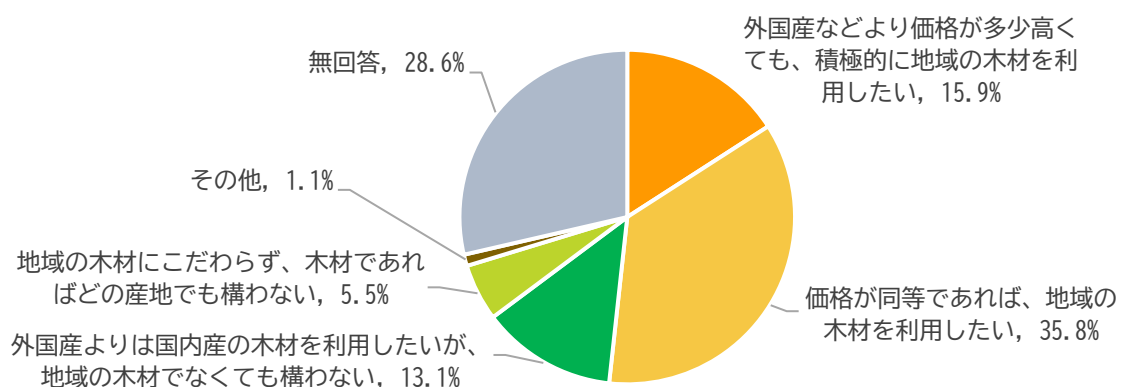
[その他]

- ・マイカー以外のアクセス方法がない。公共バスなどがもっとあれば利用しやすいと思う。
- ・高齢者が気軽に参加出来るイベントない。
- ・設備の不足（トイレ・障がい者用トイレ・手洗い等水道設備）
- ・遊歩道の標示がはっきりしない。遊歩道自体老朽化がひどい。整備や安全対策が不十分な所がある。
- ・荒廃地の増加。山の管理・整備の不足。担い手不足。
- ・魅力的な施設等、目的になるようなものがあればいいと思う。
- ・森林破壊が進行している赤松寄生虫対策が何もない
- ・森林を守る仕事をする人が少ない。
- ・自然の環境の現状維持。
- ・不法投棄などゴミによる景観の破壊、又環境の破壊。
- ・観光等に利用すれば、モラルの低い利用者が増加することは明らかで、結果的に環境の荒廃を招くことになる。
- ・森林を利用するとすればそこに暮らす動植物や自然環境を壊さずに利用できるかが課題。
- ・野生動物による人への危害。
- ・遊歩道すぐ横にワナ（動物用の）があり危険と感じた。ワナ使用の人達にも教育してほしい。

◇地域の木材の利用について

問7：地域の木材を利用する場合、あなたの考えを教えてください。

価格が高くても地域材を利用したいとの回答は15.9%で、35.8%の人が他地域材と同等の価格であれば地域材を選択するという回答でした。一方で、18.6%の方は地域材へのこだわりがないという回答でした。

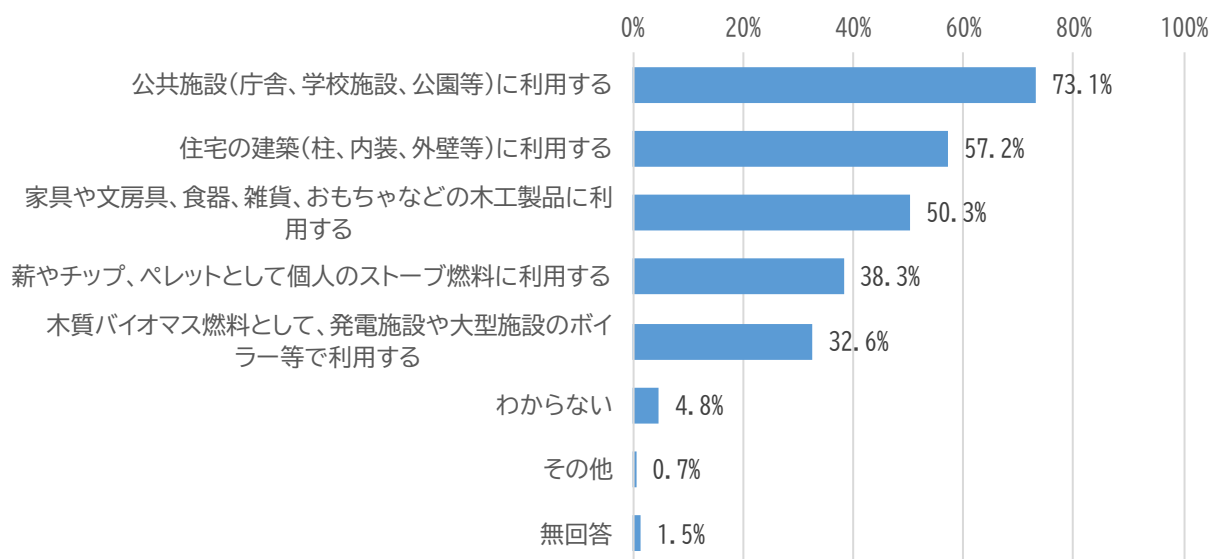


[その他]

- ・魅力ある木材であることが大切だと思う。
- ・自分の家や学校、市の施設は率先して地域の木材を使っていくべきだと思う。
- ・しいたけの出る木を植えて販売してほしい。
- ・今住んでいる家の木材が長野あずみの産です。
- ・地域の木材が産出されていない。
- ・価格が同等であれば利用したいが、そのために健康被害のある杉等ばかり植えるのは反対。
- ・外国産で構わない。
- ・あまり深く考えたことがなかった。
- ・利用することはほとんどない。

問8：地域の木材をどのように利用するのがよいと思いますか？（複数回答可）

地域材の利用方法としては、「公共施設（庁舎、学校施設、公園等）に利用する」が73.1%と一番多い回答で、次いで住宅建材57.2%、木工製品が50.3%の回答でした。

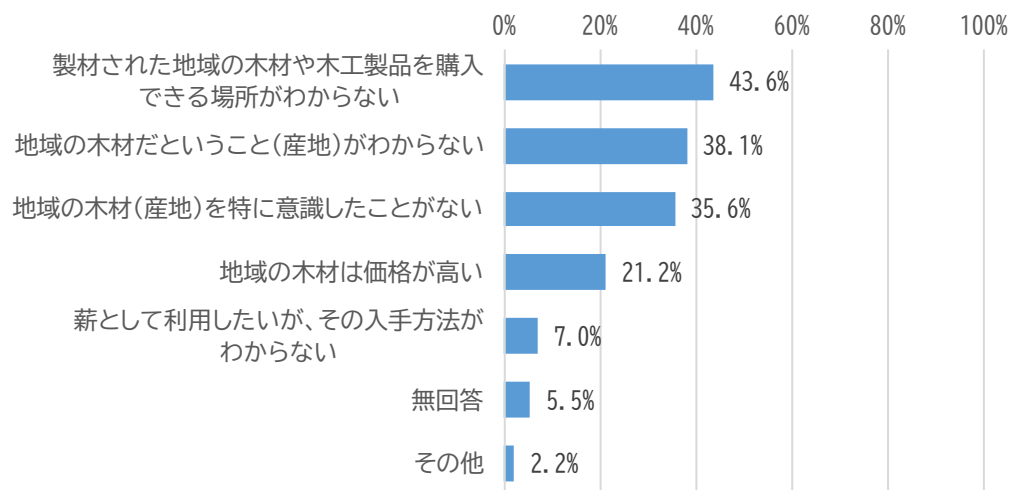


[その他]

- ・伐採した木材をチップにし宅地や歩道に敷き詰める。
- ・需要のある製品を開発推進する。
- ・利用よりまずは整備。
- ・カラマツ以外に利用できる良い木がないのでは。
- ・個人のストーブ燃料に利用することは、二酸化炭素の排出増大につながるのでは、ふさわしくないと考える。
- ・地域で地域の木材を利用するにも木を切ってそれを柱にしたりいろいろやる人が大勢いるのでしょうか？木を切って山から出せる人がいますか？
- ・個人のストーブ燃料に利用することは、二酸化炭素の排出増大につながるのでは、ふさわしくないと考える。
- ・燃やす事は出来るだけ避けたい
- ・問いが大雑把すぎて簡単に答えられない

問 9：地域の木材を利用する場合、課題と感じていることがあれば教えてください。（複数回答可）

43.6%の方が「製材された地域の木材や木工製品を購入できる場所がわからない」と回答され、「木材の産地が分からない」「地域材を意識したことがない」という回答は 35～38%ありました。



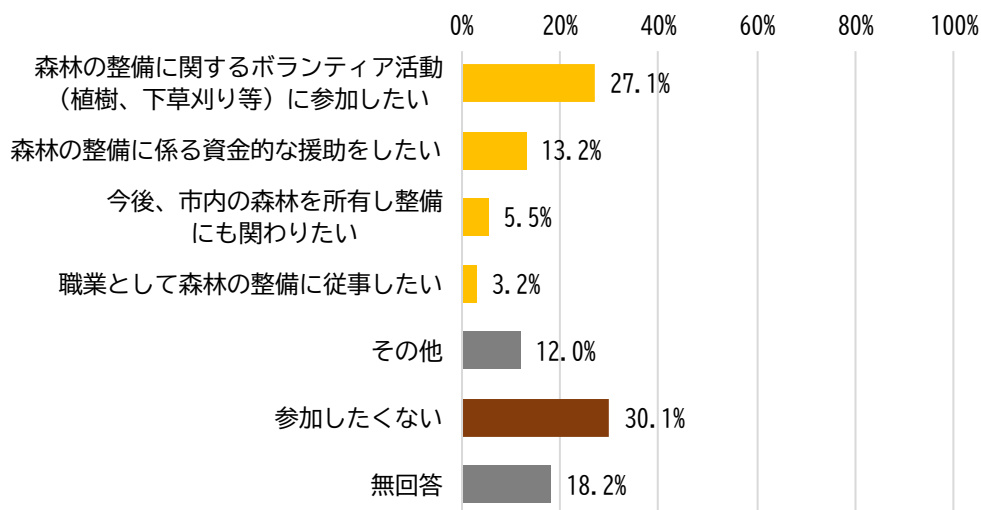
[その他]

- ・自身の目的は無いが（建築）あればそうしたい
- ・利用機会がない。課題を考えたことはない。
- ・既製品を買うので木材との関連はない
- ・家屋改修は建築屋さんまかせです
- ・地域の木材の生産はまだまだ足りていないと感じる
- ・ホームセンターで扱って欲しい。
- ・直接交渉が難しい
- ・木材を扱う業者の減少
- ・林業の振興策については、地方自治体独自で完結できることではなく、環境保全や国産材の利用促進など、国策にも通ずるものがあるので、今後も積極的に国に働きかけることが大事であると考えている。
- ・プレハブを進めている国の政策を替えないと無理。私はずっと建築に携わって来たから
- ・私の家にも山があり林もありますが今は荒れ放題です。売るには木を育てて（下枝を切り下草を切るなどしなくてはなりません）
- ・CO2 の出ない利用の仕方を考えた方がよいと思う
- ・カラマツの木の特性が家具などの木工製品に向いていない
- ・森林資源の限界を突破しない様に。

◇松本市の森林の整備について

問 10：森林の整備への参加について、あなたの考えを教えてください。（複数回答可）

30.1%の方が「参加したくない」という回答の一方で、「ボランティアで参加したい」方は27.1%、資金的な参加を希望する方が13.2%で、職業も含め積極的に関わりたい方が8.7%という回答でした。



[その他]

（関心あり）

- ・必要に応じて参加できそうなものがあれば参加してもよい。
- ・ワークショップ的に森林について理解を深めたり、自分の暮らしに関わっていると感じられる企画があれば参加したい。
- ・機会があれば、公開フォーラム等が開催された際に参加したい。
- ・的確な目的がわかればボランティアもできます。森林の所有も考えたい。
- ・時間的、体力的にも気軽にできれば参加したい（ボランティア活動等）。
- ・ボランティアも大事だが多少の報酬やそれに準ずるようなプラスαがあると参加したいと思う。
- ・選択肢で「資金的な援助」という言葉に、「募金」とは異なる多額な金額をイメージしました。多額となると、難しいです。森林整備への直接参加でなくても、間接的な何らかの行動が、森林整備に貢献することにつながるといったようなこともあれば、参加しやすいと思います。
- ・参加できないが応援はしたい。
- ・環境教育、子育てイベントなどを通して「間接的に」でよいので関わりたいと思う（イベント参加料が整備費になるなど）。
- ・整備の知識と体力がないが植樹のおもしろいイベントがあっても良い。

（参加は困難）

- ・植樹や下草刈りに参加したい気持ちはあるが現実には仕事や孫の世話があり又体調にも不安があり参加できない状況にあります。
- ・ボランティアの参加活動の仕方が分からない。
- ・キノコ狩りに以前参加しました。維持が大変だと思った。本郷の財産区も議員の方々は高齢化しており担い手が少ないでもありがたいと思いました。
- ・整備についての考えがわからない。
- ・若かりし頃、青年団でたびたび下草刈りに行きました。
- ・時間的、経済的余裕がない。/仕事が忙しくて参加できない。/現実的に関われない（年齢、

目的が無い) 知らないわからない/参加はしたいが体力的・年齢的に無理。

- ・年齢的にも活動には無理なので皆さんのボランティア活動に期待したいです。
- ・高齢者としては利用(散歩等)させてもらうのみ。
- ・ボランティア活動の素人ができる仕事ではない。

(その他の参加方法)

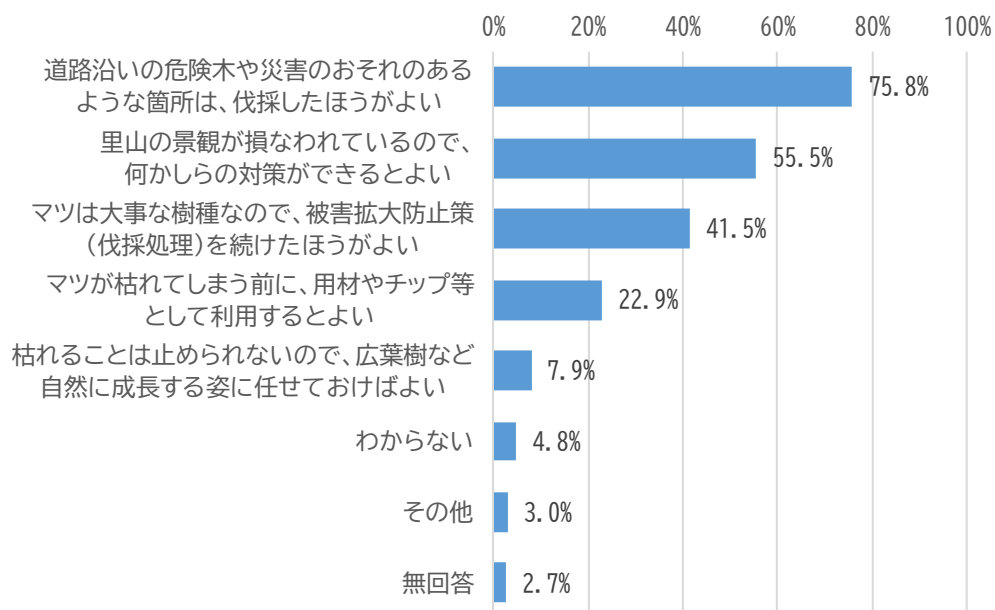
- ・財産区へ年1回会費を納めています。
- ・税金を納めているのでそれ以上のことは意識してなかった。
- ・森林は留山になっているイメージがあり関わり方がわからない。
- ・人任せにボランティア任せではなく市役所として事業をすればどうですか。
- ・市内の町会等、企業でも森林ボランティアを積極的に推進しては？
- ・林業の方々への公的な補助等で林業の強化。
- ・市県等の費用で用材の産出できる山の整備が必要。
- ・国が政策として整備を牽引する。
- ・一般市民にボランティア等で関わることを求めるのではなく林業に関わる人たちが仕事としてきちんと成立しようとするべきだ。

(その他)

- ・森林のやさしい話をお聞きしたい。
- ・若い人達 子供もっと山に関わってほしい。
- ・子供の頃学校で植林があった今でもあれば良いと思う。
- ・美しい森林を見守りたい。山を大切にしたい。
- ・松の木1本毎の消毒は人手がかかり無理 空中散布消毒を認めない限りカミ幼虫(松のせん虫)は増える一方で、いずれ松はなくなる。
- ・花粉症のため、近づきにくい。
- ・整備したくても、やっていただける業者がわからない。
- ・自身の土地でさえどうしたら良いかわからない参加方法も不明。
- ・森林について深く考えた事が無かったです。

問11: 松枯れした森林について、市で方針を定め対策を進めていますが、あなたの考えについて教えてください。(複数回答可)

「道路沿いの危険木や災害のおそれのあるような箇所は、伐採したほうがよい」という回答が75.8%ありました。景観面から対策を求める回答も55%と多く出されました。



[その他]

(樹種変換)

- ・マツの代わりに落葉樹を植えることなどで森林を再生できないのかクマ対策にもなると思うが。
- ・別の木を植えればどうか。マツ杉等、戦後の政策で植えて植生を変えたのであればマツ杉じゃなくても良いのではないか。もう急いで木を育てなくても良いのだから他の木に変えてもよいのでは。
- ・松枯れした森林には、新たな松の苗木と松と共存できる樹種の苗木を混ぜて植えてはどうでしょうか。雑木林になるようにすることで単一樹種の病気の蔓延速度抑制や、枯れによるがけ崩れ等の災害抑制になると思います。
- ・積極的に害虫駆除を実施し、必要であれば速やかに伐採を行うべきと考える。その後の植樹については、植生等の問題もあるので、第一義的には植物学者の意見に従い、その他関係する専門家の意見にも耳を傾けるなどし、学術的な見地から慎重に進めるべきと考える。
- ・「松が枯れることは止められないので（それに対して何らかの対策をとることはせずに自然のなりゆきにまかせて）、そして、松が枯れたあとに自然に任せておけば、広葉樹などが自然に成長するはずなので、特に何もする必要はない」という解釈でよろしいでしょうか。松枯れの木は撤去しないと森全体が不健全になるというのであれば、そういった取り組みはする必要があることでしょう。そのあと、自然のなりゆきに任せておけば本来のそこにあった森林の姿、広葉樹林になるというのであれば、それがいいのでしょうか。

(伐採)

- ・伐採処理をして被害拡大防止になるのなら伐採も必要だと思う。
- ・伐採後の利活用に期待したい。
- ・松枯れし伐採したことにより土砂崩れが起きやすくなっている所以对策を考えてほしい。伐採した後の山はどうするのか考えてほしい。

(薬剤散布)

- ・薬品でなんとか止められるならば伐採でなく生かしたい。
- ・お宮や個人の希望者の松はドローン等で消毒してほしい。
- ・殺虫剤の空中散布。
- ・松枯れ防止前が効果あるものならどんどん使用して欲しい。
- ・農薬散布だけは絶対にやめて下さい。

(その他)

- ・森林組合が中心となって県の森林税の利用により倒木の処理をすすめる。
- ・松枯れが止められないのであれば別の方法で森林の再生を急ぐ。
- ・松枯れは絶対止める強い意志で取り組んでほしい。
- ・松はきのこの中でも良い物が出来るので守りたい。
- ・マツ枯れの範囲が広すぎて対策は難しそうだなあと感じる。もちろん里山はキレイな方がいいが、この際みばえのことはどうしようもない気もする。
- ・対策を進めているのか全くみえてこない。

問 12 自由記述

【テーマ1】森林とのふれあいについて

【テーマ1】 森林とのふれ あいについて	子ども（家庭）の自己責任で子どもが規制のない自由な遊びができる山里があればいい
	森林内の公園を充実して欲しい。近隣ではあづみの公園のように！！アルプス公園が有るが内容がいまひとつでイベント開催もほとんどないのでつまらない。
	公園のアスレチック等で鉄製のものより味があって木製遊具はステキだと思うが管理が大変なのでは・・・。と思う（腐朽劣化など）実際に遊ばれる時もトゲが刺さるのでは・・・。と心配な事がある。
	松本は、通年で楽しめる森林（里山）に恵まれます！特に東山山系は、遊び場として、とてつもない潜在能力を持っていますが、気軽に遊んでいる市民がほとんどいません。行政の仕事ではないかもしれませんが、北アルプスなどの保護される森林と、東山山系のような里山として暮らしに利用される森林との違いについて、市民が知る機会があるといい気がします。
	奈川地区に住んでいて思うのが、今私たちが何か森のことを覚えないと、誰も何もわからなくなってしまうので、何かしないとなあとは思いますが。子育てしながらだと何も出来ず、アイデアもなくすみません。 山奥じゃなくても、里にも森スポット出来たらいいなと思います。立派な木々が生えてる歩いて楽しい森林？公園があったらいい。里で、畑以外で自然を感じる場所がほとんどない。川沿いも定期的に伐採されてつまらない。
	リスや野鳥が自然に暮らし、身近に感じられ癒され散歩できる自然公園があると嬉しいです。具体的には茅野市の運動公園や、新潟県の加茂山りす園を参考にしたいかがでしょうか？
	今後森林の管理は高齢化により年々難しくなっているのが現状だと思いますが各山間部に市民の森として活用するのも一つでは？
	子供が遊べる公園があまりないので、増えたらいいなと思います。また、森林ガイドなど、市民の中でやりたい人もいるので、募集するのもいいと思います。
	田溝池周辺を活かして欲しいです。岡田地区周辺はアルプス公園以外大小の公園が全くないので。 ①無料で ②池を白鳥のボートを出したり釣り堀にして釣って食べるなどできるように活用。 ③池の周りを1周できるようにして、ジョギング・お散歩自転車で走れるようにする。 ④庄内公園より多い遊具を設置。⑤駐車場からすぐに遊具を設置。⑥水遊びが出来るような場所を作る。など。よろしくお願いいたします。
	東京、新潟と住んでみて松本は車・自転車を気にしないで林に囲まれた遊歩道がないのでビックリしました
	城山からアルプス公園までの遊歩道があれば年老いても散歩したい
	遊歩道やハイキングコースを増やして欲しい。
	松本市の森林といっても美鈴湖周辺、美ヶ原高原、四賀地区、奈川地区、波田梓川地区、安曇地区では目ざす方向が違うように思います。それぞれの地域に応じて考えていくことが必要だと思います。
	山林を保有していても、どこからどこまでかはっきりしないので手入れが出来ない所有者リストを入れた山林住所・所有者がわかる地図があるといいのだが。また共同所有の山林についても地図があるとありがたい。最近特に木が倒れているのが目立つので何とかしたいと思うが。

【テーマ1】 森林とのふれあについて	私の若い頃は止め山以外、自由に山に入り山菜キノコを採ったり今はどこに入る事もダメに感じています。今はクマが出る事が多く怖くて入れない事もあると思いますが。
	無知で申し訳ありませんが、立ち入ってもよい森林を整備して明確に示していただけたら、子どもと一緒に学びや遊びの場として利用させていただきたいです。
	立ち入りできる森林を増やして欲しい。きのこをとりにいくが、近くの山はほとんど止められている。
	入っていい場所ダメな場所がわからない。もっと森林に親しみたい。
	利用できる森林、所有出来る森林、危険区域、侵入禁止エリアなど、色々な情報が記載された森林マップなどが簡単に入手出来ればありがたい
	森林と親しみたい市民は多数いると思いますが 私有林、公有林の区別がわからないので尻込みしてしまう。市民が入ってよい森林を分かりやすく表示して欲しい。もう少し山に入りやすくなって 常に人の目や 人の手が入っていれば森林も 今のように荒廃しないと思います。
	難易度・危険度別のマップ等があるとありがたいです。 安全：子供と一緒にでも山菜/キノコ採りが楽しめる 要注意：大人が本格的に採取 危険あり：ガイドが同行、あるいは講習を受けた後でないといけない。危機管理は自己責任。
	木の伐採・植林等も一定のルールの中、本職以外の人でもできるようにしてほしいです。よろしくお願いします。
	公園以外で森林に接する機会はほぼないです。 山菜やキノコの知識もないので興味はあるものの採りに行くことはありません。時々森林に接する遊歩道など歩いていても、採取禁止の看板は見かけますが、採取していいという案内は見かけないため、基本禁止と思ってしまっています。若い世代に山菜やキノコの知識が受け継がれないので、せっかく山の幸が豊富なのにもったいないです。（県内飲食店が提供している山菜ご飯、そば等の具が地物でないのことが多いのも、がっかりします。） また、採取体験やそれを生かした食は観光資源にもなるので整備する価値はあるのではないのでしょうか。
	釣りの趣味を通じて薄川流域や奈川の山林を訪れる機会があります。殊に薄川流域の東山地区については山林の荒廃が進んでいることを感じます。松枯れや鹿の食害など様々な要因があり一筋縄ではゆかないのかもしれませんが誰もが気軽に訪れることのできる「明るい」「開かれた」森林になってゆくことを願っています。

毎日、緑の山を眺めて生活していますが緑に囲まれているのは幸せなことです。森林やアルプスの山々があるので四季折々に自然を楽しめています。近年の松枯れ状況は悲しいです。又、住宅地に緑が少なくなっています。新しく建てる家は殆ど庭木を植えないですね。色々事情はあるのですが人と木々との付き合いは長い歴史があり豊かな生活の一端にしたいです。

【テーマ2】地域の木材やその利用について

【テーマ2】 地域の木材やその利用について	伐採した材木は、ただ燃料として使用して CO2 の搬出をするだけでなくチップとして加工し、そこから紙の製造の材料にしたり、木から酒を作る技術も開発されているとのこと。燃料としての使用以外の活用もご検討願います。
	松本市は森林面積が多い市でもあると思うので林業関係に就く人材の確保に力を入れてもらいたい。林業関係の仕事を円滑に進め松枯れ対策をしてもらいたい。

【テーマ2】 地域の木材や その利用につ いて	“長期ビジョン” のことですが松本市としてのすべての森林が商品価値を高めて税金のみでなく市の大きな収入になる様、取り組んでいただきたいと思います。松本市の総面積の約80%が森林、民有林が半分としても他県には無い財産です。よろしくお願い致します。
	木材も地産地消できれば良いと思います。市内の住宅リフォームなどに使う場合は安くするなど。
	自宅はもう百年以上たっていたので新築をと話し合い住宅展示場を何件か回りました。やっぱり木がいいとなり伊那に本社がある所をお願いして3年たちますが毎日森林の中にいる様でとてもおちつきます。薪ストーブも家全体があたためられて助かっています。関係者の皆様は問題点をもっと発信して下さい。
	現在木材が多く使用された家に住んでいるが、水回りは水分を吸ってカビが生えたり、毛羽立ってきたりハイターが使えないのでどうしたら良いのかわからないです。見た目はとても良いですが長い目でみると敬遠されてしまうのかなと思います。住宅の手入れ等の情報を発信してもらえると助かります。
	(株)ディバイザーのギターのように赤松をうまく利用した製品が出回ると松枯れ被害の負のイメージが軽減される気がする。使える木材をうまく利用してくれる企業に安値で提供出来ないだろうかと思いました。
	間伐剤は住宅用、公共建物、まき材等、利用できる様にする。
	松葉茶が全国的にブームになっているようです。ただし無農薬でなければダメなようです。(松に注射を打ったのはダメ) 古来より松葉は利用されていたようですが松葉を収穫して販売している業者もあるので上手くつながれば良いですね。

【テーマ2】 地域の木材や その利用につ いて ＜薪利用＞	是非、森林の整備を進めて、森を活かして下さい。伐採したものを、薪として使わせていただけると、とてもとても有難いです。
	まきなどはタダでほしい
	我家は今、薪ストーブを20年位使っています。とても暖かくでも薪を用意するのがとても大変です。
	今エコキュートの家だらけです。我家の周りも新しく出来た家は皆エコキュートです。これがすべて薪ストーブだったら薪がもう少し安くなるかとエコキュートはエコとはいっても元は電気を発生する時にCO2を沢山出します。この人達が薪ストーブだったら地球温暖化もほんの少しでも変わると思います。これからの若い人達に山をもっと大切に利用し育ててほしいと思います。
	薪ストーブが普及して松本市でも方針がある様だから、とにかく臭い。なぜ他人の家が温まるために出している匂いに周りが我慢しなければいけないのか、持病がある人もいます。煙が命取りになる人もいます事をわかって欲しいです。補助を出す前に、我慢しながら生活している住民がいる事をわかって欲しい。
	薪ストーブを取り入れているので、森林整備に合わせて間伐材の利用についても進めていただきたいと思います。

【テーマ3】 観光資源としての森林について

【テーマ3】 観光資源とし ての森林につ いて	森林利用とは少し違うが城山公園からアルプス公園～芥子坊主公園を繋ぐ北アルプス展望遊歩道を作ったと思います。途中、茶屋、そば屋、土産物店等を置きゆったりゆっくり楽しく歩けたらと思います。北アルプスを望むすばらしい道になると思います。
	内田少年の森の整備をして利用しやすい場所にしたほうが良いのでは、草ぼうぼうの状態です。自然を利用しつつアスレチック等で楽しめる空間。

【テーマ3】 観光資源としての森林について	所さんの番組で里山でカブトムシ（ミツバチの飼育等）を呼ぶだとか里山の中でソバを（シイタケ等）育てたりして、それを食したり又はタラの芽を活用して山菜取りの番組を作ったり！松本市の森林の良い所をPRしたりできないでしょうか？又はキャンプ場をPRしたりできないでしょうか？
	松本市には森林が多い事が大事な資源であり水源、災害防止または自然環境にも良く観光先にも大きな役割を持っていると思われます。市民で盛り上げていってもらえたら嬉しく思います。
	低山であれば気楽に入れる箇所を増やすべき
	植林活動を観光資源にして海外からの旅行者にもっとアピールしてほしい。多分、松本市に住んでいる人は海外の人よりも松本市の森林に興味を持っていないと考えています。
	イメージとして森林について雑多なイメージしかわからない。アルプス公園はよいところだが小さな子どもをつれて行くには休憩スペースもなく、すぐに帰ることになる。運営は大変かと思うが以前あったチロルの森的なところがあれば小さな子どもも行きやすい（食事処は必要）雨の日でも楽しめる森林施設があればうれしい雨の日はイオンモールしか行くところがないので。
	東京から移住して3年目、山や森の姿を見る度に病人の私がいやされる空間だ。マツ枯れの山林に杉ではなく落葉樹を幅広く植えて森を再生してほしい。クマ対策にもなるのではないか。マツは出来るだけ保存して欲しいが・・・。高齢者・病人・障がい者が森林浴を楽しめる場を作ってほしい。そのためにはトイレが必須だが、その点はいかがか。環境問題から考えると森の保存は大切なこと。開発ありきで進めないでほしい。
	オートキャンプ場やオフロードバイクコースの整備等の観光開発は行うべきではない。森林を教育目的等で活用する場合でも、アクセス等の利便性を優先するのではなく、むしろ不便を楽しむ場所として利用することに存在意義があると考えます。森林に多人数の集客は必要ない。
	松本市で豊かで楽しい場所だと思えるところはアルプス公園です。ファミリーゾーンよりも北口から入れるルートが自然とふれあえる感じを楽しめます。上高地のように国の文化財として守られる自然。そこまでしないと自然を守っていけない松本市の力のなさ。松本市には国宝松本城もある町なのに観光目当てなのか自然を大切にせず、木を伐採して道路を整備、建物も新しくするも、城下町の良さが1つも出ていない。美しい自然の中に松本独自の文化を出していかなければならないのに、どこにでもある物・事と同じことをしても衰退していくだけです。松本市というならば松本の中心部が華やかであってほしい。森林環境課のみなさまどうぞ自然を守ってほしいです。蛍をみることもできない田、畑、川。農薬制限。蝶が舞う豊かな森林を整えてほしいです。
	毎年の松枯れの拡大に心を痛め未来を案じておりました。どうしたらくい止められるだろうと思うし地盤のゆるみからの災害につながるのでは・・・と心配にも。森林の手入れも必要でそういった職業に従事する働き手も必要ならば期間限定でも、それに見合う対価で募集されたら人は集まるのか人手不足と聞きました。ボランティアではなかなか・・・すみません知識もないものですからつらつらと・・・。松枯れで空いた土地をグランピングなどのレジャー施設にするなど松本はレジャー施設が少ないので大型アスレチックと一緒に活用するなど。
	市政が大局的な事に向いておらず観光都市を全く考えていない市に期待していない。国宝の横に建つあり得ない醜い庁舎がすべてを物語っている。
	波田地区（に限らず）一歩足を踏み入れてみると人手の入らない大自然が忽然と表れます。谷を流れる水は飲めるイワナが生息しているサンショウウオも沢ガニもいる。山菜キノコも豊富 etc 皮肉にも人が入らない手入れをしない森林の賜物！！そうは言っても、このままではダメでしょうネ。

【テーマ3】 観光資源としての森林について	松本市はコンパクトな街で住み易いと思います。この美しい山なみをずっと維持できたら良いと・・・。
	豊かな自然、美しい自然、景観を後世に残してほしい。
	木々の中で暮らす人生が大事で空気、水を供給する山があるので自然の姿をその侭にして昔のようになれば（河原の水など）自然のままの姿が欲しいです。
	妙高市の国立公園内にも家を持っています。近くにビジターセンターがあることもあり遊歩道が整備されていて林の中を散歩しやすくなっています。また家の周りの林も所有者がわからなくても気軽にに入ってアケビや山菜などを採っています。松本は山がすぐそこにあっても見るだけで接点を持てずにいます。フィンランドの「自然享受権」まではいかなくても、もう少し気軽に森林を楽しむことが出来れば（熊問題はさておき）森林が身近になり我が事となり大切になってくると思います。
	個人的には松本市も田舎の部類だと思っているのですが、地球温暖化の影響なのかはわかりませんが、森林の絶対的な存在という役割が、松本市でも減少してきているように感じています。何らかの対策を市が中心となって積極的に進めて頂けることを期待しております。
	市街地までクマが増えないようにしてほしい。水質も良くホタルや魚までいて素晴らしいです。これからも森林環境の管理をよろしくお願いします！たくさんの笑顔と思い出が作られます。
	動植物の生態系を破壊することなく、守ってほしいと思います。

【テーマ4】森林整備などについて＜マツ枯れ＞

【テーマ4】 森林整備などについて ＜マツ枯れ＞	松枯れが拡大していく状況を見るたびにどうにかならないものかと常日頃から思っていた。今回資料を見て枯れることは止められないと知り、枯れる前の伐採や木材の利用もありだし、時間がかかっても別の樹木を植樹するなどして、対策の継続とともに、豊かな山の維持する方法を決めてほしい。同時に災害の防止は大切だと思う。今回のアンケートで初めて気づくこともあったので、市民でも知らない人がいると思う。知る機会も必要だと思う。
	松枯れは深刻な問題です。景観がそこなわれるし自然災害も心配です。うまい解決策を見つける道はないか？（他地域でうまくいっている場所はないか？地元大学との連携はできないか？）
	周辺の山々が松枯れが目に入りどうにかならないものかいつも思っていました。山は手入れしないでいるとジャングルのようにまた松枯れのように広がってしまい手に負えなくなってしまう。行政が中心になり市民の応援を頼みながら山の管理をお願いしたいと思います。
	松枯れは深刻な問題だと思う。紅葉の時期 周囲の山々をながめる時あっちもこっちも松枯れの方が目立ち悲しい気分になる。岳都松本、西のアルプスの嶺々の景観も大事だが東の山々はすぐそこにある大切な存在。美ヶ原も手前がマツ枯れした里～山の向こうでは勿体ないと思う。何とか早めに対応して欲しい。
	松枯れの状況について回覧板等でたくさん情報を流した方がいいと思います。10年近くまえ森林所有者に向けて松枯れした地域の伐採についての説明会がありましたが所有者以外の人々は様子がわからないと思います。
	かなり松枯れが拡大し山の面相が変わってしまい残念です。間に合うとは思えませんが何とか対策を進めるべきだと思います。
	松枯れ対策について、松枯れ面積は年々拡大しているので早急な対策が必要。
	黄色くなった山が気になっています。専門家の講習会や市民に良く知ってもらいたいようにしてもらいたいです。

【テーマ４】 森林整備など について <マツ枯れ>	枯れたマツは早く片付けて枚ストーブの利用者に提供すれば良いと思う。
	松枯れが以前より進んでいると思うので何か効果的な対策をしていただきたい。松本の山々の風景がとても好きなのでお願いします。
	松枯れの山々を早く対策を講じ緑の山々にしてほしい。松枯れの山の持ち主への資金的援助をして一刻も早くもとの景観にしてほしい。松枯れの恐れのある山林へ早期の対策を講じてほしい。
	森林の広域松枯れが茶色に広がっていく様子を見た。なかなか様子が変わらない。早く他の種類の木を植えて緑の森林にもどってほしいものです。松枯れがチップ等に使えれば伐採して利用できればと思います。
	松枯れに対する市の無策には落胆しております。もはや手遅れですが早いうちに手を打っておけばこのような事態にはならなかったものと推測します。日々、浅間～美ヶ原方面の山を眺める度、心が痛みます。
	松枯れ被害拡大防止は本当に真剣に考えて頂きたい。薄川上流にあった松枯は本当に残念。素晴らしい景観のひとつだっただけに枯れてしまったのは悔やまれます。薄川の桜も松本城の桜も心配です。未来の為に今の私達が出来る事はなんでしょう？森林・材木等の知識がなくとも美しい景観が失われるとなれば理解を深めようとする市民は大勢居ると思います。実態を知ってもらうこと。未来に危機感を持ってもらうことは小学生でも学べることだと思います。「緑」に関心を持っていく姿勢を市全体で盛り上げていける様、悔いてやみません。松本に住んでいる、信州に住んでいることは誇りと言っても過言ではないので・・・。
	周辺の山々の松枯れが目に入りどうにかならぬものかいつも思っていました。山は手入れしないでいるとジャングルのようにまた松枯れのように広がってしまい手に負えなくなってしまう。行政が中心になり市民の応援を頼みながら山の管理をお願いしたいと思います。
	松枯れは深刻な問題です。景観がそこなわれるし自然災害も心配です。うまい解決策を見つかる道はないか？（他地域でうまくいっている場所はないか？地元大学との連携はできないか？）
	四賀地区は松枯れによって大きな影響を受けていると思う。特に自然災害による交通規制やキノコや山菜の採取など。また松を伐採した後の山はどうするのか？雨などが流れやすくなったため土砂が崩れやすい。また動物のすみかもなくしているのではないかな？
	枯れてしまった木は用材やチップ等に出来ないのですか？
	松枯れした所からは松は育たないですか。小さく出た木でも枯れている木がある。松の木を守る方法はないのでしょうか。
	私の居住する場所は森林に囲まれた松本でありながら、ほとんど山や森林のない地域です。でもこのごろ出掛けの際にあちこちで松枯れの姿を見かけショックでした。松が自然に枯れるとは思ってもいませんでした。人が生きるすべて自然（森林・山）とは切っても切れないものです。人類の生存にもかかわるものなのでしょう。住民の力を借りながら自然を大切に保存できるように松本市でも力をつくして下さい。
	自宅の松枯れについては、すばやく対処していただき有難く思っています。ただやはり近隣の山林、ご近所の松枯れがすすんでおり自宅の残りの松の事も気になります。森林（山々）の景観を損なわず木の使い道も考えつつ良い方法があればと願っております。
	松枯れが大変多く目につき人的には災害又松本市としての景観が悪く、青々とした山並みが黄色く枯れ、山が泣いている様に見えます。伐採、植林、優先順位を考慮の上、早急に取り組んでいただきたいです。
	松枯れ、あんなに酷い状況、どうして放置しておいたのか。薬剤を打ってる塩尻との差が大きすぎる。何故塩尻の様に Action がとれないのか。言い訳ばかりでポリシーないと感じる。

【テーマ４】 森林整備など について ＜マツ枯れ＞	自宅の近くや出先で松枯れを見ることが多くなりました。枯れた松を処理する前に反対者が多くいると思いますが害虫の駆除が必要だと感じます。1本の松が使用できるまでには何十年もかかります。「松を植えた時の期待、うまく育て欲しいとの期待、手入れする時のその松への期待」等々を考えるとせっかくの1本ですから枯らさずに育てほしいです。害虫対策が必要だと感じる今日この頃です。
	松枯れ山林等は積極的に太い松は伐採し若木を大切にすればきのこ等の出も良い様に思います。若木は松枯れ病にならない様にと思いますがいかがですか。
	松枯れ山は山火事になりそうで怖いです。一度出火したら大惨事の大火事になりそうで怖いです。とにかく松枯れ山を見る度に「ああ山火事になりそうだ・・・！」とおそろしく思っています。
	松枯れは、ほんとうに残念なことです。特に緑の濃い季節は悲しくなります。整備不足で松枯れがすすんでいると聞いていますが中学生以上の若者達の手を借りることはできないでしょうか。技術をもっている方々が現役のうちに知識や技術を相続できるチャンスをつくれるといいと思いますが。
	あまり関わってこなかったの、よくわからないのですが松枯れしている山などをみると色々対策が必要だと思います。林業に関わってお仕事をされている方々はとても大変なのだろうと思います。豊かな自然を残していけるように、なにか身近なところから協力できたらよいなと思っています。
	山に囲まれているにもかかわらず樹木に対する知識は無いし興味関心もあまりなかった松枯れで山の様子が変わっていることに対しては不安（今後どうなるか）を持っていたが・・・。キノコや山菜が採れなくなってきており放置しては山が死んでしまうということは感じていました。水の源も山なので大切にしなければと思うのですが・・・。
	身近に里山があり又観光地としての山林がある幸いと感じますがあまりの松枯れ被害を見ると悲しく思います。なぜこれ程広がっているのか？県は森林税を住民税に上乗せしているのに何をしているのか？松本市も県に働きかけても。又民有地であっても防ぐ手は無かったのか。課題はあるのでは！と思います。
	なぜ松本周辺の松がここ数年で枯れてしまったのか？市民に伝えて今後の対策をしないとどうなるのか伝えるべきである
	枯れ果てた茶色い山々や、伐採され一部分だけ剥き出しの山はせっかく松本の良い景色を残念なものにしているので、何のために伐採をしているのか市民にも伝えた方が良いでしょう。
	確かにマツ枯れでハゲ山になっている山々がたくさん。植林して元に戻るのには数十年。維持も簡単ではないでも恵みの山、大事にしたいという気持ちはあるが個人でできることは？あまりない？できるのかと思う。
	東の山かりがねサッカー場の辺りから浅間・四賀に行く道等、松枯れがひどく危ないと感じ我家から見える松枯れの山はとても嫌で危険だと思っています。ゲリラのような雨、台風、雨等で山崩れが起きないようにブナ林、花が咲く山、紅葉になる山、美しい山になると良いなあと思います。もし家を建てるなら代々住める様な家にしたいと思います。
	なぜ松枯れ被害が広がってしまったのか原因と分析と対策をたて公開し市民の学びのきっかけを作ってください
	久々に行った千鹿頭山の松枯れが進んでいてびっくりしました。景観も良くないので早めの対処をお願いしたいです。緑豊かな松本のイメージを守って欲しいです。
	近くの郊外でも松枯れした木をたくさん見かけます。茶色に化した山を見ると悲しくなります。市内の公園など松の木が植えている所がまだたくさんあります。これ以上松枯れない対策をして欲しいと思います。山林の松くい虫対策として薬の散布も仕方ないと思います

【テーマ４】 森林整備など について ＜マツ枯れ＞	山に登ると松枯れの山があり残念だった。（里山には良く登るが）杉などの花粉は困るが自然林については長期的な視点からも大事に育ててほしい
	松枯れにより木がなくなった山が災害により危険が高くなっていないか心配。 山を所有していても故人で木を切り出すことはできない現状にある。 先人が苦労して植えた木を生かせるよう、研究者や市民行政で知恵をだし考えてほしい。 山に手を入れクマ等の野生動物の危険にあうことがないよう対策が必要。
	松枯れ等によって発生する倒木の処理を地主等、所有者に適切に行っていただきたい。
	松枯れで景観が損なわれて災害の心配もある。 業者による伐採やボランティアによる植林等の対策が必要である。
	市街地景観に関わる問題として、松枯れ対策を徹底的に行って欲しい。観光都市として、取り組みが甘いのではないか。松の木無しの当地は考えられない。
	松本市 360° 素晴らしい景色の山々が広がり癒されるが、いざ近づくとはやはり松枯れが酷く見るに耐えない山が増え続けている。木の根元から枯れているので大雨や長雨の山崩れが心配。最近枯れ木の伐採にも力をいれていただき、あちこちで見る様になりました。ありがとうございます。地元住民の反対もあると思いますが山の景色、山崩れ、未来を守るために難しい課題だと思いますが何とか松枯れ病を抑え込みたいですね。
	現在は大きな災害も無く枯れた松を放置しているが、対策を急がないと思っている以上の大災害が起きると思います。枯れた直後はいいが、もはや根が腐り大地を支える力が無いと思います。
	松枯れに心を痛めています。景観が良くないということもありますが、感染拡大を防ぐ目的で松枯れ材は利活用が難しいとも聞きます。何らかの形で利用できるような方策を検討頂けるととても嬉しいです。 県内には樹種転換を積極的に行っている地域もあると聞きますが、私はアカマツの作り出す景観や、地域に根ざした自然な植生が保たれることが望ましいように思います。ぜひ、アカマツの老木を伐採したらアカマツを植えるというのはやはり難しいのでしょうか。松枯れに対抗性のあるアカマツなどの研究がすすむと嬉しいです。

【テーマ４】森を守る＜マツ枯れ対策：薬剤散布＞

【テーマ４】 森を守る ＜マツ枯れ 対策：薬剤 散布＞	松枯れ対策として、薬剤散布をするべきだと思う。
	そもそも消毒をやめれば、このような状態になることを想像しなかったのか。
	空中散布に賛成反対も含め話し合いが必要であり、反対の方も対策を出すべきと考える（例えば鳥取県の取組みのような）
	危険な動物でも保護しなくてはいけないのか？里山での農薬等の被害への対策を考えて下さい。
	自宅から望む中山は枯れた松で茶色に染まっていて切ない思いです。人体への影響が危惧されますが防除対策（薬剤散布等）を徹底し緑を取り戻してほしいと思います。
	数年前になります安曇野市明科七貴付近を走行中、山林の松が枯れ、緑が無くなり一面が茶色になっていることに気が付きました。既に松くい虫の存在を知っておりまして松本市内もこのようなことにならなければならないと思っておりました。しかし近くの山林は松くい虫による被害が確認しておりませんが、山が茶色になり松枯れが発生し、みぐさくなってしまうと感じております。何卒、対策していただけないでしょうか。松枯れが松くい虫によるものであれば消毒等の防除が出来ませんか。食生活で口にしている野菜等、有機・無農薬を除き消毒は必須とお聞きしております。見た目が悪いと言うだけではありません。樹木が無くなる、または枯れると治水や倒木さらに土砂崩れと大災害の原因になりかねません。現在の森林問題を研修会等で教えていただき知識を深め今後の森林づくりに役立てたらと思っています。

【テーマ4】 森を守る ＜マツ枯れ 対策：薬剤 散布＞	素人の考えですが次の3点をご検討願います。 松虫の駆除について伐採するだけではなく防虫剤の散布についてもお検討願います。防虫剤については残留濃度の問題もあると思いますが、ただ伐採だけでは追いつかないと思いますので防虫剤の研究もして欲しいです。
	殺虫剤の使用などに関連して、一部極端な主張をする人もいますが、科学的なデータを基盤とした冷静な議論を期待します。
	ヘリによる散布を中止してから木は枯れ放題。ハゲた山は本当にかわいそう。 くいとめる、発生させない、長い年月頑張ってきたのに一部の意見であの始末。 森林は生きています。具合が悪いなら手を差し伸べてあげましょう。行政には大変かもしれないかもしれませんが、共に生きるご努力いただきたいです。
	ある程度の消毒はしなければいけないのではないか？
	マツクイムシの為に農薬の散布をしないせいで多くの松が枯れてしまっていると聞きます。環境保全の為、是非散布をお願いします。
	松くい虫の消毒についてはいろいろ反対の方がいますが木を守る手段として必要だと思います。松枯れした山をみますともっと初歩的に消毒を実行できたらと残念です。被害が大きくならないように願うばかりです。
	松くい虫に対しての農薬散布については反省ですが・・・松が枯れて茶色の山になっているのを見るとやはり心配になります。難しい問題だと思いますが枯れた松の伐採や、その後の植樹等・・・地道な活動が必要なんだと思います。
	松枯れについて枯れてしまった木を切り続けるのでは、その後新しく植えたとしても大きくなるのに数年かかり大雨の時に災害の危険があるので本当は松食い虫に入られる前に防虫剤を散布するのが一番です！！反対されているのは知っていますが、野菜や果物、米だって農薬を使っています。そんなに水質に問題があるとは思えません。広葉樹に植え替えるのもいいですが“まつたけ”を採る楽しみも次世代に残してあげたいなと思います。
	山辺の方面の松が茶色で枯れているんだなあと見てわかる。森林の事は良く分からないのですがテレビ等で松くい虫の駆除の消毒の散布についてやっているのをみたことがあります。何とか緑の山にもどって欲しいが時間と労力がかかると思いますし消毒散布もいろいろと大変なんだと認識はしている。
	松本で松を守るために農薬を散布しようとの取組みを一部の人達に反対され裁判まで起こされ、そこで挫折してしまった事があり本当に残念でした。私はその時、松枯れの山を見るのは山がかわいそうと思いましたがそんな考え方をする人がほとんどなかったです。今冬になり落葉樹の葉が落ち松の緑が無くなった山を見てわびしさを感じるのは私だけでしょうか。心が冬になってしまいます。本当に対策を考えて実行していただきたい。

【テーマ4】森を守る＜マツ枯れ対策：樹種変換・伐採＞

【テーマ4】森を守る ＜マツ枯れ 対策：樹種 変換・伐採 ＞	針葉樹も大事ですが広葉樹を植え直した方が良いと思います。成長するのには時間がかかるとありますが日本の気候に適した樹木を植えた方が景観的にも美しいのではないのでしょうか。ものすごく個人的ですが薪は広葉樹の方が火持ちも良いので・・・。とは言っても何十年も先にならないと薪はとれないと思いますが・・・
	マツ枯れの防止策を講じ、伐採処理したら代わりに植樹等し森林面積が減少しないようにしていくべきと考えます。
	戦後の国策で植林されたカラマツから自生していたヒノキ・スギ・ナラ・シラカバなどに少しずつでも戻っていくことを望んでいます。
	伐採したら植林して下さい。伐採した木を有効活用してください。

【テーマ4】森を守る ＜マツ枯れ対策：樹種変換・伐採＞	マツ枯れが顕著である。どんどん東方面に広がってきている。行政として対策はあるのですが、対策が現状に全く追いついていないことが見た目で見えます。マツ枯れが問題になってから今まで、一体何やってるんだ!!という感想です。コスト面等で非常に難しいことは理解しますが、できれば広葉樹林(クヌギ、ナラ、ブナなど)の植栽ができればいいと思います。市長さん、担当当局の方に必要なのは、議論や調整力ではなく、“実行力”だと思いますよ。是非次の市長選の争点のひとつに挙げてほしいものです。
	マツ枯れ後の山林の長期ビジョンを示す必要がある。転換樹種の選択など長期の目標が必要。
	業者による早急な伐採をして下さい。何年間も放置で景観上見苦しい。
	まず里山部分は間伐をして日光が入る様にする。
	マツ枯れの伐採処置をしていただき、いつもありがとうございます。真観寺の所にお墓があり、行く度に松が倒れていて、いつまでお墓参りに行けるか不安を感じています。お墓が倒れた場合の補償はないと思いますので、良い策はないものかなと思っています。
	ずいぶん前から森林についての税金は徴収されているものと認識していますが、現在はどうなっているのか？改めて情報が必要と思いました。市街地に住んでいる為、マツ枯れについても関心はうすいですがマツ枯れ対策と全ての森林整備がすすんでないのか資金的な問題とするならそれなりの情報の発信をしてほしいと思います。今年はクマ出没の被害も多く山へ遊びに行こうとは思わなくなりました。紅葉の美しい季節に残念なことと感じました。

【テーマ4】森を守る＜森林整備＞

【テーマ4】森を守る＜森林整備＞	道路沿いの危険木は生活している中でも特に感じやすく、車の運転中や歩いている時も危ないなと感じることがあるので、整備していただけるとありがたいです。 軽い登山や散歩をして森林を楽しませていただけているので、適切に伐採が行われ、森林の健康と私たちの暮らしが共存できればと思います。
	美しく景観を保つことで新たな産業や流入人口にもつながっていくと思うので整備を進めてほしい。次の世代が里山を「怖い場所」ではなく「守っていききたい」と思えるような施策を考えていかなければならないと思う。
	森林を整備利用していく事は市や住民にとって有益な事だと思います。一方、豊かな森林がある事で県の森周辺にはカラスがたくさんおり“フン害”が酷いです。二輪車輛による歩道の破損も多く見受けられます。森林に関するメリット、デメリットを勘案し広い視野にてビジョンを策定いただきたい。
	山林は手入れをしないと災害に非常に弱くなってしまふ。 行政が補助金を使っても定常的な手入れをしていく必要があると思う。
	森林は“自然”でなければならないと思う。“自然”であるために森林整備が不可欠。そのために有効と考えられる施策は積極的に実行して欲しい。
	間伐を積極的に進めていただき災害等に強い元気な森にして欲しい。
	市街地に住んでいて山や山林に縁のない生活をしているため森林の整備や対策について特に考えたことがないと思う
	あまりにも荒れた山野が多すぎて公の力で何とかできないもののでしょうか？山と畑の境もあやふやな状態の場所がふえています。山野が荒れると地球が荒れる待ったなしだと思います。
	森林作業をする為には作業現場まで行く事が大事です。道路の整備網が大切です。
	里山の手入れをして次の代に繋げるのが大切だと思います。

【テーマ4】 森を守る＜森林整備＞	東の山を見ると斜面全てが枯れていたり長野道を北に走ると山全体が茶色に枯れていたり本当に心配です。松を植林してもだめだとなるとどんな種類の木なら良いのでしょうか？全てが雑木になってしまうのもどうなのでしょう？山の仕事は大変だと思いますがボランティア等の力も借りて治山を進めて欲しいと思います。添付の松本市の森林の図面は大変参考になりました。
	私の母親が、山林を所有しています。いずれは私や私の兄弟が管理していくと思います。その山林は道から見える場所にあり、時々様子を見に行って管理しています。母親も高齢なので、私も一緒に行きます。ある時、(今年)勝手に木が切られていました。突然のことだったので最初わからなくて驚きました。松枯れ防止(松枯れになったから?)と後でわかりました。担当の話(森林組合、電話対応)だと、『地主は山の場合だと分かりにくいので地主に知らせないでやっている』と言われました。念のため塩尻市へ聞いてみましたが、塩尻市では『地主に連絡している』とのことでした。松本市では、そういうことが普通に行われているのでしょうか。今後のこともありますし、森林組合から言われてしまうと、地主はどうすることもできません。きちんと対処していただきたいと思います。
	四賀地区は過疎化により山の手入れをする人できる人がいなくなっています。手入れなどはどうしていくのか。また山を手放したい人などに対して市はどうしているのかを知りたいです。
	里山部分は個人の持ち土地が多く何も整備しない人が多い。その様な人の山林は市等の主導で整備できる様に法律を変えてもらう。市などの主導で整備できる人を募集しても良いし専門家に依頼しても良い様にする
	里山は同じ木種ではなく混合木種にして山採、きのこ等、自由に取れる様にし、入山した人には何らかのボランティアを入った森林で行ってもらう。但しキケンが無い様に
	専門の整備をする人の給料は多額にして不足分は市等で補助する。特に伐採の仕事は体力的にも技術的にも大変な職業です。人数多くしなければ木の成長に追いついていけない。50年なら年度毎に何人育てるのか計画を立て行けば良い。1つの案として若い人の職業をもっていない人とか興味のある人を募集して定年退職した人も含めて全国から集める事も必要かと思います。
	森林作業をする為には作業現場まで行く事が大事です。道路の整備網が大切です。
	里山の手入れをして次の代に繋げるのが大切だと思います。
	松枯れした木の伐採と森林テーマパークの建設やトレッキングコースの整備をセットで行えないか。上高地のような自然に極力手を付けないという考えではなくゴルフ場のように人工的に取って作るパークがあってもよいと思う
	自分が森林の整備に参加できるとは思いますが、ある程度人間の手が入らないと森林の維持は難しいと思います。見た目も美しい自然と共存している松本市であればと思います。
	森林整備は私達の生活に安心をもたらすための担保と考えます。キャンプ場などの開発による生態系の破壊は税金の無駄使いであり浅はかである。そこに暮らす鳥獣との共生をまず第一に思慮する事が先決。
	野生生物の生息地として残すところは、残し、松枯れのあるところは伐採整備をして欲しい。
	今の森林は手入れが行き届いていない所が多く森林としての役割がなされていない
	里山の整備をして、松本にできる限りの森林を残していただきたいです。 子育て期に、毎週のように里山を訪れ、子どもたちを逞しく育てていただきました。子どもたちに、森林を通した豊かな環境を残してあげたいです。
	自然環境(動物の生態)を維持しながら、森林整備をしてほしい。 松食い虫の被害が顕著となっていて、レジャーや食環境に影響が出ている。
	遊歩道のあるところは駐車場トイレを整備してくださると嬉しいです。迷わない様に道しるべも分かりやすくしてほしいです。

【テーマ４】 森を守る＜森林整備＞	高齢者が気軽に訪れることのできるような、森林地域があれば孫たちと楽しみたい。自由に入れる里山、ところどころにトイレ、散策ルートが整備されている森林。
	個人所有山林（森林）が長年放置され山の美しさが失われて来ている。所有者に積極的に働きかけて整備を促すか所有権の移管を進める措置を強力に進めてほしい
	中山霊園の桜の木が病気になるのがとても心配です。お墓参りの楽しみなのでどうか枯れませんように対策をお願い致します。
	山に太陽光パネルの設置だけはしないで欲しい
	森林の整備のできる人を養成すべきで、専門職の人を増やしてほしい。
	中山霊園へ登って行く左側に杉かと思うのですが間隔が狭すぎてただ上に伸びているだけでウッソウとして暗い所があります。これでは木の為にも道路の為にも悪影響ではないかと思っています。所有者の事もあるから何も言えませんが間伐するなどして明るくして貰えたらなと思っています。延いては木の為になると思います。もしかしたら、この林はもう再生出来ないかとも思います。善処出来るものなら何とかしてやって欲しいなと思っています。どうにもならないかもしれませんがこれからこのような事が起こらないように目を配って頂けたら私は思っています。
	花粉症の原因になるような樹木は今後増やさないでほしいです。

【テーマ４】森を守る＜森林管理＞

【テーマ４】 森を守る＜森林管理＞	第三セクターなどの検討はされていますか？人手不足なのでボランティアは難しいと思います。商売になるような手掛りにして循環させるお金も循環する
	管理ができない私有林を市が買い取り一般市民が楽しめる場として開発したら良い（例：赤沢森林公園（木曽））
	森林水源の日本各地を海外の人、外国が土地買い占めを行っている。だいたい森林を海外の人が売買出来ない様な仕組み作りが必要
	何でもそうだと思うのだが、仕事として成り立たないと長続きはしないと思う。このアンケートは市民に森林保全や活用に関わってほしいという意図があるが、イベントやボランティアに市民の参加を募る試みは良いことだと思うが、そのことによって森林の保全や活用が画期的に進むというものではないだろう。職業として林業が成り立つことを考えなくてはいけない。
	これだけの広い森林を有する松本市なので手入れが十分行き届かないことは十分理解できるが・・・。車で移動していても倒木が放置されている里山が多すぎると感じる。運転していても不安を感じる。里山歩きを楽しんでいるが・・・。もっともっと里山歩きを広げてほしい。この景観は松本にしかないものと思うので今後の対策に期待しています。
	森林は大切な水源だと思います。災害が大きく多発していますので適切に管理する必要性を強く感じています。私自身はなかなかお役に立てることがありませんが国や地域を守るために活動いただけることを望みます。
	山林があっても境界線がわからず手離すにも苦慮している
	下草刈等山の管理をしたいが方法が不明又資金等にも不安がある現状見回りのみで手つかずの状況である
	山を管理する職員がいるのか分からないけど職員を増やして管理してもらう
	林業を継続するには長期間継続して人員を雇用できる生産から流通までの社会システムが必要だと思います。現状では民間に任せていてはシステム化は望めないのではないのでしょうか？森林が豊に管理されていることは福祉の一部だと考えます。補助金の投入では不十分で、公の事業として実施すべきでしょう。
	森林は身近にあった方がいいが、管理が大変です。

【テーマ4】 森を守る＜森林管理＞	私有地も継承者問題で管理できなくなるなら、市が一括管理して仕事を生み出すほうが税金の使い道としても納得しやすいと考えています。
	このアンケートが届いた時期に、偶然にも何度も浅間温泉の山を散策する機会がありました。歩きながらところどころで感じていたことは、森林を管理なさっておられる方々により、非常によく整備されているということでした。ありがとうございます。すばらしかったです。
	少し前にTVで、ある県での野外イベントを知る機会がありました。より身近に自然に親しんでもらうことを目的として、火の起こし方を子どもたちに教えたり、キャンプを奨励するというような内容でした。私個人といたしましては、こうした町興しのイベントは好きではありません。
	森林の持つ本来の美しさを、それを心より求めている人々に提供するには、特別な人工的?作爲的な仕掛けは必要ないのではないかと考えています。
	森林を管理なさっておられる方々には、森林を、その自然な姿のまま、いつまでも存続させていていただきたいと心より願っております。
	里山に置いては間伐をして遠くまで見渡せる様にする（鳥獣駆除、獣物が人家近くまでこない様にする）景観、防犯の為
	①倒木、松枯れ、など危険な木の伐採 ②一つの山の所有者が複数いるため管理を難しくしている。①のような危険な木がある場合、緊急対策のできるシステムの構築 ③熊の出没が多くなっている。熊が里山に降りて来なくてもよいような、餌になる実がなるような樹木の植樹 ④桜、紅葉狩りなどが楽しめるような植樹 ⑤土砂災害の少ない植樹
	森林に捨てられるゴミを何とかしてほしい
	森林で荒れると自然災害や保水が出来なくなります。街中で生活している人達には分からない事でしょうが、自身の生活の場は今回のアンケートに直結する場で生活をしているので森林荒廃、獣害に悩まされています。街中で使う予算を少しでも山に回せば、ゆくゆくは里の人達の利益になる事を知ってもらえる事が大事です。
	人間の生活の都合や遊び場、又は儲け主義で開発しないで欲しい。自然を守る、森に住む動植物を守ることを大事に森を整備（保護）してもらいたい。
	山を見ると松枯れが所々で見られる。なんとかしなければいけないが関係者はどう思っているのか・・・と思っている。ハゲ山に成る前に何とかすべきである。県では森林税として居るが大いに結構だと思っている。市でも一考しては？
	森林税、登山税など松本市の環境を良くするための資金援助を理解ある方にさせていただく
	所有者の山林への関心が低いので分収林制度を進める必要がある。
	災害対策も併せて検討を（有識者の意見を聞いて）
	実際のところ森林を身近に感じていない災害が起こらない様な整備を希望します
	学生時代、講義で森林について少し勉強をしまして、森林は自然のダムという話を思い出しました。松枯れは景観の面や防災の面で早急な対応が必要かと思われます。また、野生動物が人里に降りてこないよう間伐等手入れを継続して行っていただけたらと思います。今後も豊かな住環境づくりをお願い致します。

【テーマ4】森を守る＜獣害対策＞

【テーマ4】 森を守る ＜獣害対策＞	今とても気になっているのはクマを代表とする山の生き物の被害についてです。クマの被害は何としても防がないといけないと思うので電気柵など必要に応じて作った方がよいと思います。乗鞍に出かけて山の中を歩くと、とても気分が良く老後も楽しみたいので整備していただけたらうれしいです。
	熊等の獣に対し異常なまでの保護を主張している者の意見を聞き過ぎるのは考えものだ。自ら獣の被害に遭ったらどんな考え方になるかという面から討議したらどうか
	もう少し山に入れば良いのですが昨今、家の近くでも熊を見かけるので一人での入山を控えています。
	鳥獣対策を希望します。
	気軽に散歩できる里山があればありがたいが害獣（サル熊等）が怖いと思うので、これへの対策をしっかりともらえればありがたい。
	里山の荒廃が進み山間部の農地は防獣ネット等の設置が不可欠になっていることから害獣（特に鹿）を一旦絶滅させる位に徹底的に駆除することが必要と思われる。
	温暖化、さらに沸騰化していく気象変動に、将来標高の高い場所への移住が選択の一つになるのではないかと考えています。まずは個体数の増えている野生動物の駆除、保護対策を早急をお願いいたします。

【テーマ4】森を守る＜計画＞

【テーマ4】 森を守る ＜計画＞	ビジョンを策定しておわらないことを願います→実現できるわかりやすいものとして下さい。
	今年も温暖化はすすむと思われるので森林をふくめた環境対策は重要と思われる。30年60年と長いスパンの計画を立てないと森林は育たないので市民共通の認識を確立する必要があると思う。それは単一ではなく隣接する市町村との連携も大切なので調整する場も必要だと思う。
	里山、深林等、役割が違うので別々に考える。

【テーマ5】森を知って、森を育てる

【テーマ5】 森を知って、 森を育てる	地域子どもたちに植林してもらおうなど子どもたちに関わってもらい今後の森林の変化を見守ってもらえる様な活動をしていただけたらと考えます。
	親で参加できるボランティアがあれば参加してみたい
	里山や森林を整備するのにボランティアをもっと募れば参加したい人は多くいると思います。気軽に森林を守るための参加型の企画を考えてくれたらと思います。
	森林整備や環境教育について親子でボランティアに参加するなどの機会を年に1～2回開催したらどうでしょうか？小さい時から森林にかかわっていけば将来仕事にしていく人間を育成するきっかけ作りにもなるかもしれません。
	危険を回避できる対策をとっていただき自然の中で図書館、勉強のできる場所を増やしていただければ楽しみながらの学習の場が広がると思います。
	子供が将来の就職先として森林を考えています。親として触れる機会は増えましたが身近に感じて生活するまでにはなりません。松本市よりも木曽や大町の方が森林と思えます。上高地や美ヶ原など山であって森林の印象はありません。森林を放置すると災害につながると考えますが遠い話のように思えて行動にいたりません。教育やイベント就職先として木にふれる場がもっと増えることを望みます。

【テーマ5】 森を知って、 森を育てる	今の小中高生が里山の生物とふれ合う様な場所（なるべく自然をこわさない）がたくさんあれば良いと思う。大小の虫など生物が人間と共存できる様な場所をつくってもらいたい。
	子供達が参加でき子供達の考え思っていることをしっかり聞いていくべき
	山や緑に恵まれている土地に住んでいながら、関わるのが少ない子供たちに、学習や体験を通して身近である森林等を大事にする気持ちを育んで欲しい。
	子供の頃は一冬中こたつに入れられるだけの炭を焼くのがあたりまえでした。祖父は山に行っては枝払いをして、木に節ができないように、いい木に育つようにしていました。払った枝を山のように積み上げておき秋になったら炭にするのです。今の時代では考えられない大変な作業を冬暖かく過ごす為にやっていました。あの炭のこたつのあたたかさを今の子供達にも味あわせたいなあとと思います。もし実現可能なら松本市の小学校（3年生くらい）が体験学習として出向く施設の一部に掘りこたつを作り炭のこたつのあたたかさを体験してもらえたらいい。その思い出が将来、森林に目が向くことになるかも？
	芳川地区は森林に面していないこともあり日ごろ親しんではいませんが小学生の子どもが学校で林業を学んだことで地域の森林にとっても関心を持っています。社会見学のように学校で林業体験をさせてもらえたら伸ばせそうだと思います。私自身もクマを恐れる気持ちと私有地かどうかの判別がつかないので入ることが出来ませんがイベント等であれば参加してみたいです。
	松本市内の幼・保・小学校などで森林や木材にもっとふれる機会があれば良いと思います。出張授業のような形で簡単な工作をするのもよいですし遠足や社会科見学という形で森林に行くのもよいと思います。長期的な視点から次世代の関心をぜひ高めて頂きたいです。また他県ですが木育施設といって県内の間伐剤を使って木のボールプールを作ったり木琴のようなおもちゃ（抜状の木材、種類は桜や杉、ヒノキなどいろいろを階段状に配置しボールをころがして音楽を奏でる）を作ったり小さな子でもふれあえる施設（公共）がありました。松本市にもそのような施設があればぜひ遊びに行きたいです。加工が大変なら切って乾燥だけしてバーベキュー場に置いておいて自由に使える燃やす用にするのはいかがでしょうか？アウトドアが流行ってますのでぜひ。
	1. まず、私の知る範囲で一番好きな、駒ヶ根市の『十二天の森』を、松本市でも里山保全の参考にしてほしいと、かねがね願って来ました。 （恐らく）元の持ち主のお婆ちゃんが管理できなくなった土地を、市の教育委員会を中心として、公共で管理し、大変素敵な林と小川を残していました。ああいった場所を市が音頭を取って大事にしていけば、素晴らしいですね。 当時、現地在「教育委員会」の名で管理されていたのも、最適だと思いました！ 現 駒ヶ根市長の Facebook によると、そこは今、市で認可された団体が主になって維持管理を続け、市長自らもたまに参加されているご様子。あの場所は。私の理想です。 積極的に松本市の担当者も、現地から学んでほしいと願っています。
	2. 岡山県、西栗倉「森の学校」の団体の活動をもっと知れば、林業の振興を考える上で結構参考になりそうに思われます。 ・30 年を 1 スパンと捉え、次世代にも引き継ぐべき活動をしている。 ・森林資源の利用を題材に、「林業で村興し」的な活動を進め、2013 年度現在、「30 代位の若い子育て世代が居住して来て人口が増えつつある」という所まで進めていた。 ・共同通信社主催「第 4 回 地域再生大賞」の、賞を得た数団体の 1 つ。
	3. 松本市内では、柳沢林業という所が、前向きに色々進めていると聞いています。 若い世代を育てる林業の再振興は、やり方次第なのだろうな、という感触です。
	けし坊主山のハイキングコースに行きましたが倒木も多く人も少なくとても良い所なのに、もったいないなと思いました。移住してきたので身近にすぐに行ける森林があり素晴らしいと思います。環境教育などに利用しながら活用して欲しいと思います。

【テーマ5】 森を知って、 森を育てる	森林は大切な財産です。又森林に限らず町中の木々も同じように大切なものと思います（例えば個人所有の木であっても）近年街中の木々が多く切られてしまい（ほとんどは個人的理由でしょうから非難する訳にもいきませんが）非常に残念に思う事がありました。この度のアンケートの主旨からは外れるかもしれませんが根本にある問題は同じだと思います。それは「森」というもの、それぞれの木々一本一本が大切な存在だということです。普段見慣れているものが失われて初めてその大切さが理解されるようでは遅いのです。行政を担当されている（皆様の御苦勞を想像しつつ）市の取組み県や国との協力により地域での啓蒙活動や特に子供達（幼少時から中学生くらいまで）の教育に力を入れるべきではないでしょうか？
	松本市に住んで8年目になりますが山々の雄大な景観が好きです。だからこそ松枯れが目立つところは何か対策しないのか？と思っています。私は小学生の子どもがいるので、もし学校を通じて森林活性にかかる活動へのボランティア募集などがあれば子どもの教育にもなるし参加したいなと思います。あとは家を建てるのに県産材をもっと使えないのかなーと思ったりしていて、なかなか予算は厳しいとは思いますが森林利用に松本市も頑張っ てほしいです！
	子ども達がニュース等で野生動物が人間に危害・・・。というのを見ていて“怖い”というイメージが強くなってしまっているため払拭されるような内容が小学校などの授業で学べれば色々興味が広がる子もいるのではと思う。もっと身近に感じられる環境が多ければ良い。
	未就学児が安全にたのしく森林に触れられる場を作ってください。木曽町にある木曽おもちゃ美術館を安曇地区の辺りに誘致されては。その周りにアスレチックや熊対策をした公園、キャンプ場などがあると時間を忘れて楽しめます。
	今回のアンケートは森林利用や整備が主軸のようですが、並行して、今市内に住んでいる子どもたちへの森林教育も積極的に行ってはいかがでしょうか。 これから過疎化が進み、生産人口が減れば、森林整備の担い手は必然的に減ってゆきます。環境は悪くなる可能性が高いと考えます。 一方、ヨーロッパの子どもたちは森林教育がされていると聞きます。ドイツ、スイスなどの国々では、人間の過剰な森林利用の弊害、環境悪化などを学び、どう自然と向き合うのか、幼少期から自然観を培うようです。 昨今、人間の生産活動により、住むところを追われた自然動物が、人間の住むエリアへ出没し、人や農作物が多く被害にあっています。子どもたちには将来自分の住む環境とどう向き合うのかを学び、その学びから、森林とどう付き合っていくのかを考える土台作りをしてもいいのでは？と思います。個人的に、今回のアンケートを回答する上で、自分の森林への知識不足を感じました。近くにあっても、自身の生活に関わりがなければ、何も知らないのです。子どもたちには未来への選択肢は多いほうが良いと考えます。
	林業を仕事にするのはなかなか難しいですが、森や自然は大好きです。チェーンソーなどの基本的かつ安全な使い方を学べる場所があるととても嬉しいです。薪ストーブのある生活に憧れを持っています。 また、森の区分所有のような仕組み(市民農園を森に拡大するようなイメージです)があれば、子どもを連れて森の中で遊ばせたり、森林浴などをしたいと思っています。
	森林整備の基礎として森林に親しめるように道路整備が必要。小学生時代から森林に関われるよう植樹、下草刈り等に参加する。あわせて森林の役割の教育が重要。木材生産は100年計画で総合的に考える。
	私は70代ですが私の父母の時代は山を守る仕事も父母がやっておりました。自分の山は自分がしっかり管理していました。今は子供も孫も山の仕事を知りません。山の仕事を知っている人が山の木、森林の守り方を教えてほしい。仕事としてやって行く人を育ててほしいと思います。

【テーマ5】 森を知って、 森を育てる	ヒメギフチョウや、オオムラサキなどの食草などを増やしたり。保水力上げる森林作りや火おこし体験など親子で参加出来る行事をやってほしい。
	幼い子がいるため興味があっても参加が難しい（一緒に参加してもケガなど心配）また知識が全くないので参加しても、お荷物になってしまうのでは・・・と考えてしまう。知識がなくても参加しやすいことや子どもと一緒に参加できるイベントがあれば積極的に参加したい。
	森林を使用したイベント案内が、あまりわかりにくい。広報誌が全ての人に渡るわけでもないで、年齢別により良く関わり合えるイベントが、あれば楽しいと思います。 地元の木材を使った建物を、たとえば、小さな廃材でコツコツ作るイベントがあれば、自然の大切さや木材利用のあり方を親子、孫へと伝え、自然環境問題を話し合えたり、より良い生活を送れるのではと思います。

■アンケート実施結果(森林所有者)

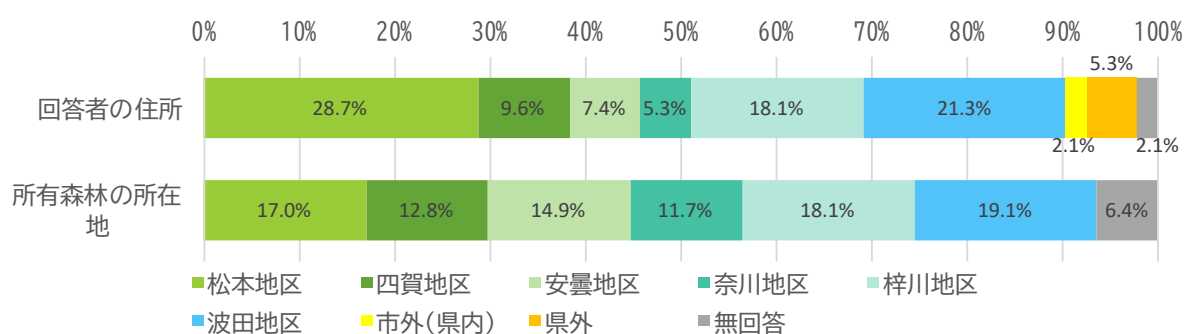
1. 調査方法：松本市内の森林を所有している方を対象に、市内 6 地区ごとに 25 人を無作為抽出した計 150 人あてに、郵送及び WEB によるアンケート調査票の配布・回収を行いました（5 通は宛先不明で未配達のため、総発送数は 145 通となりました）。
2. 調査期間：令和 6 年 2 月 8 日（木）～2 月 25 日（日）
3. 回答状況：返送数 87，WEB 回答数 7 合計 94 通 回答率 64.8%

◇回答者の属性

問 1：あなたとあなたが所有する森林について教えてください。

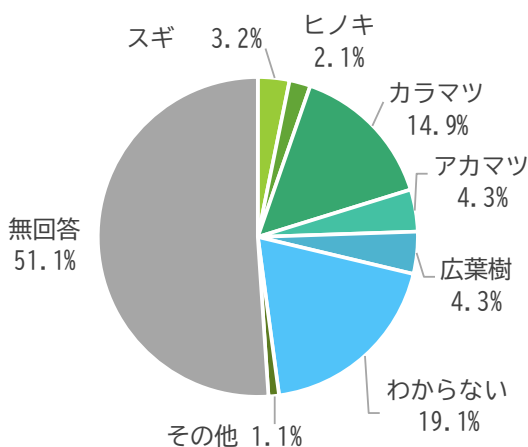
【お住まい及び所有する森林の所在地】

市内の全域の森林所有者から回答が得られました。



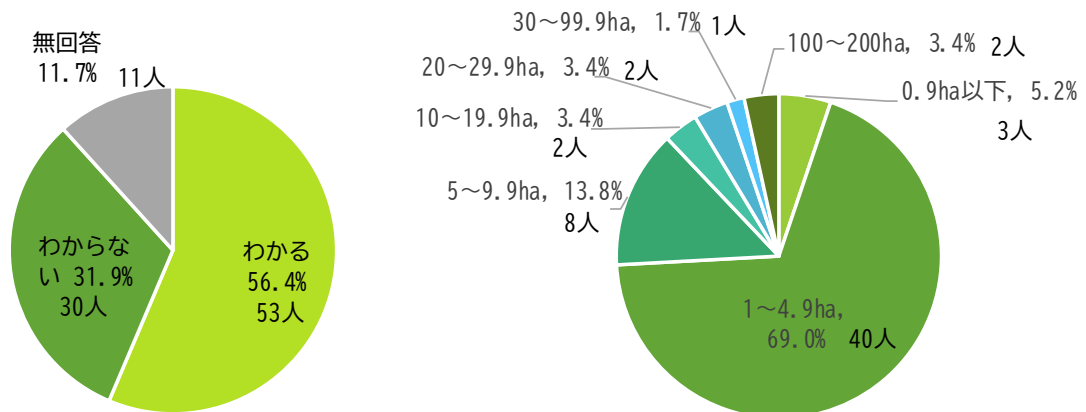
【おもな樹種】

樹種についてはカラマツが最も多く、19.1%が「わからない」、無回答が半数ありました。



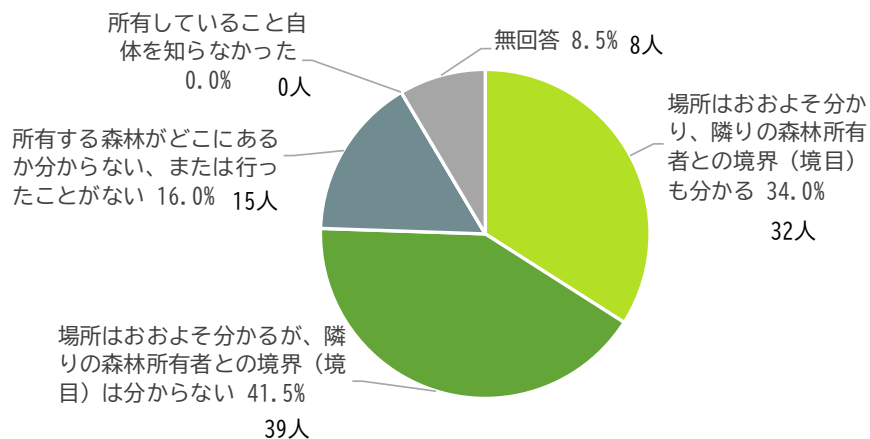
【面積】

面積については把握している所有者は56.4%で、把握していない所有者は31.9%でした。面積については1～4.9haを所有している所有者が69%と最も多い状況がわかりました。



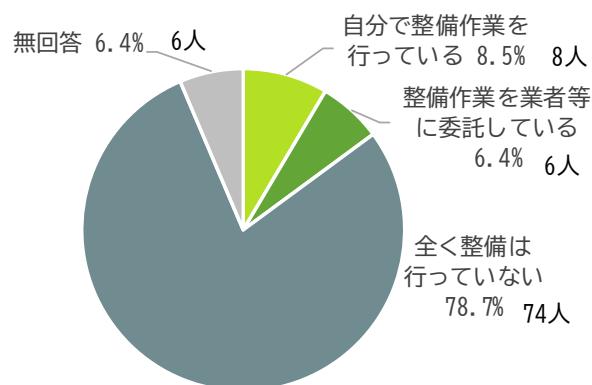
問2：所有する森林の場所は分かりますか？

所有する場所も境界も把握されている所有者は34.0%、境界はわからないが場所を把握している所有者は41.5%で、合わせて75.5%の所有者は所有する森林の場所を把握しているという回答でした。



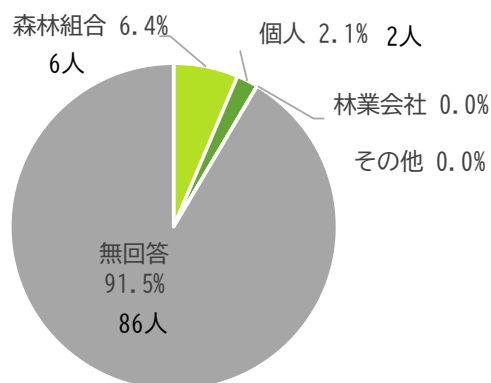
問3：あなたが所有する森林は、近年、どのような整備状況(下刈、間伐、枝打など)ですか？

78.7%の所有者が森林整備を全く行っていないとの回答でした。



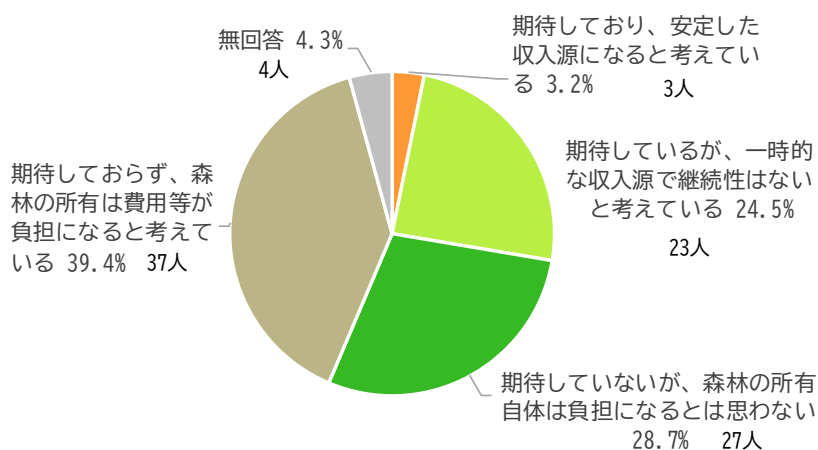
問4：整備作業を委託している場合は、どこに委託していますか？

整備作業の委託先は、森林組合が6.4%、個人が2.1%の回答でした。



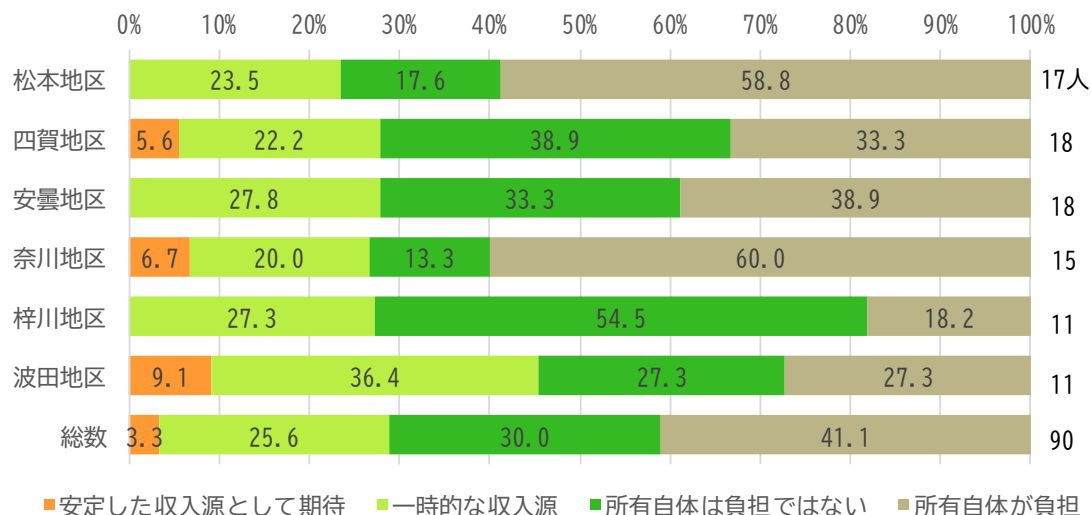
問5：所有する森林が、いつか（次の世代への相続後も含む）収入になることを期待していますか？

森林所有が将来的に負担になると感じている所有者が39.4%でしたが、所有の継続に対して肯定的な所有者は合計して56.4%となりました。



【所有する森林の所在地別】

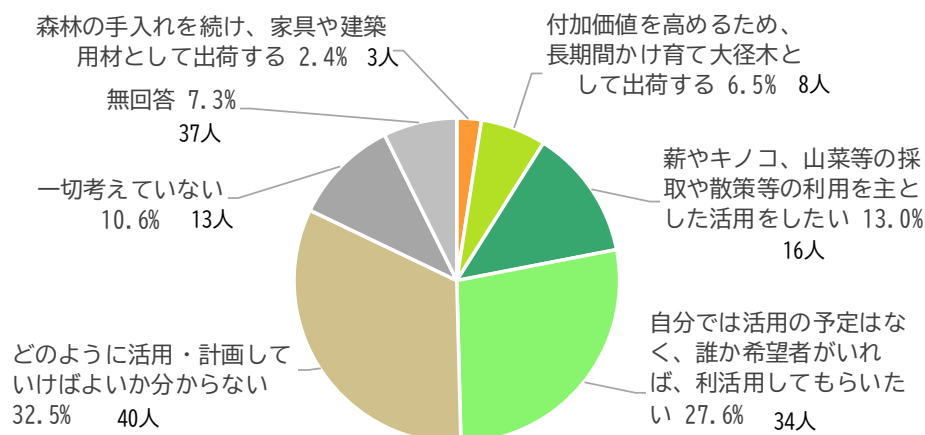
「所有自体が負担」と回答された所有者は奈川地区が60.0%、松本地区が58.8%と、総割合より高い傾向でした。一方、梓川地区では負担と考える所有者は18.2%と少ない回答でした。



◇所有する森林の今後の所有や整備について

問6：所有する森林の将来の活用計画（目的）を教えてください。（複数回答可）

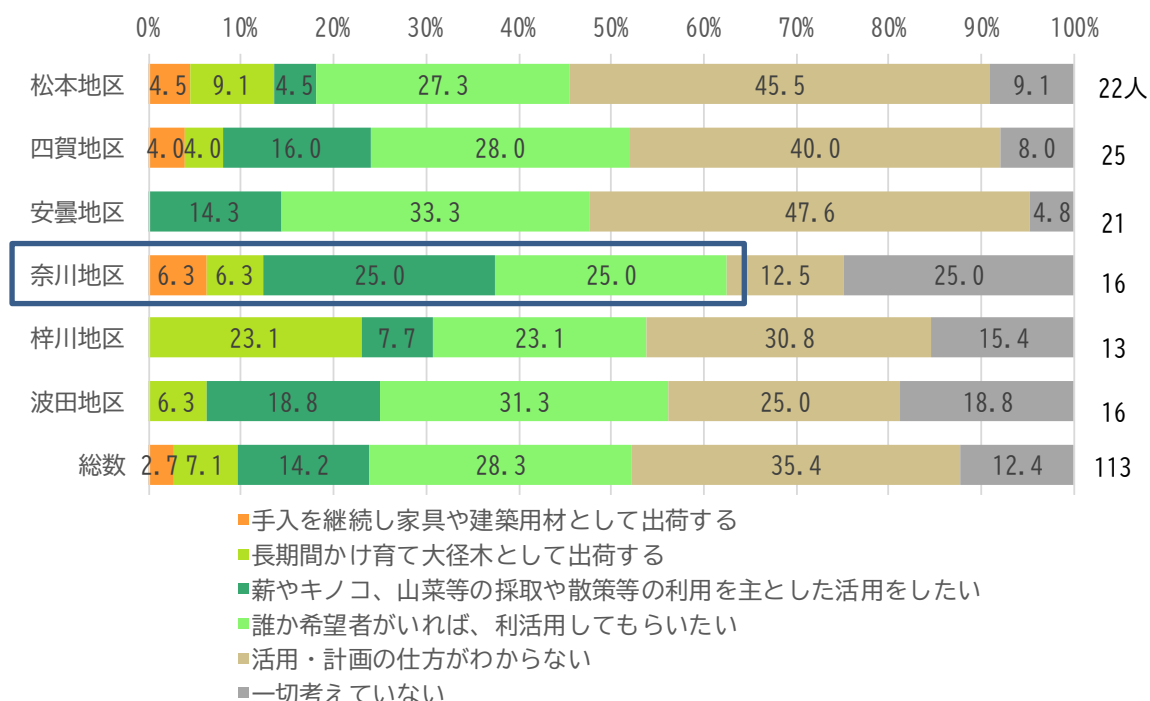
32.5%が「活用方法がわからない」との回答でしたが、27.6%は「希望者がいれば利活用してもらいたい」との回答でした。利活用を具体的に考えている所有者の合計は22%となりました。



【所有する森林の所在地別】

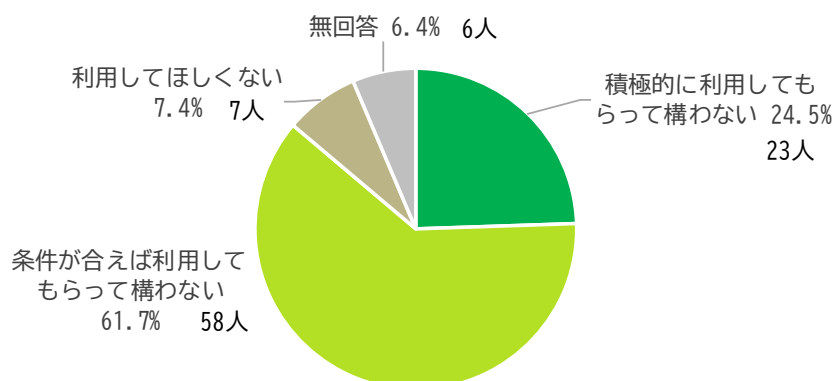
奈川地区は何らかの活用を考えている所有者が62.5%と高い割合の一方、活用を一切考えていない割合も25.0%と高い回答でした。

活用方法がわからないとの回答は、安曇地区が47.6%、松本地区が45.5%、四賀地区が40.0%で高い割合となりました。



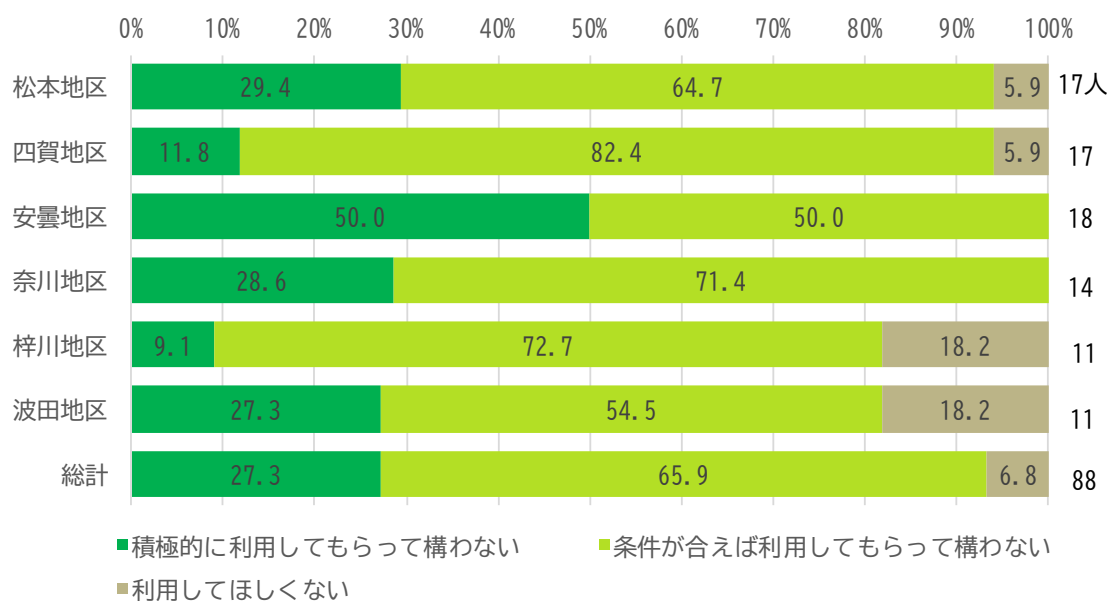
問7：所有する森林について、学校や市民団体などから環境教育や自然体験の目的で利用したいという要望があった場合、どうされますか？

教育目的の利用に対して、積極的に提供できる所有者は24.5%、条件により提供できる所有者は61.7%となり、合計して86.2%の所有者が提供できるとの回答でした。



【所有する森林の所在地別】

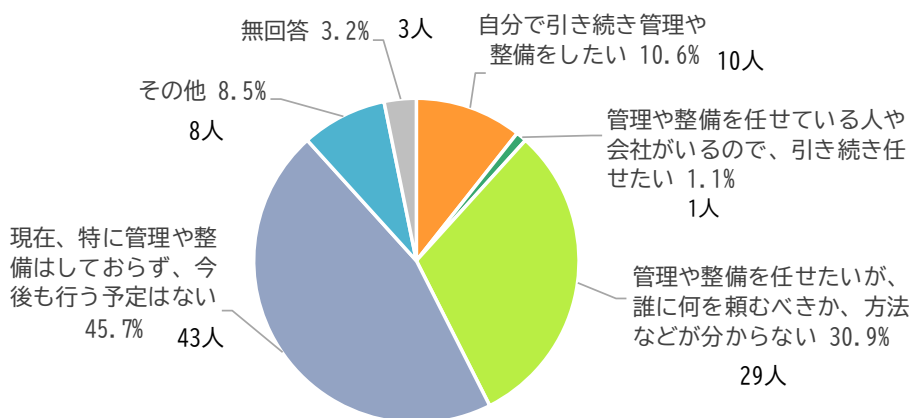
松本・安曇地区は管理半数が利用に対して積極的であり、総じてどの地区も教育利用に関して好意的な回答でした。



◇所有している森林の今後の所有や整備について、現在の考えを教えてください。

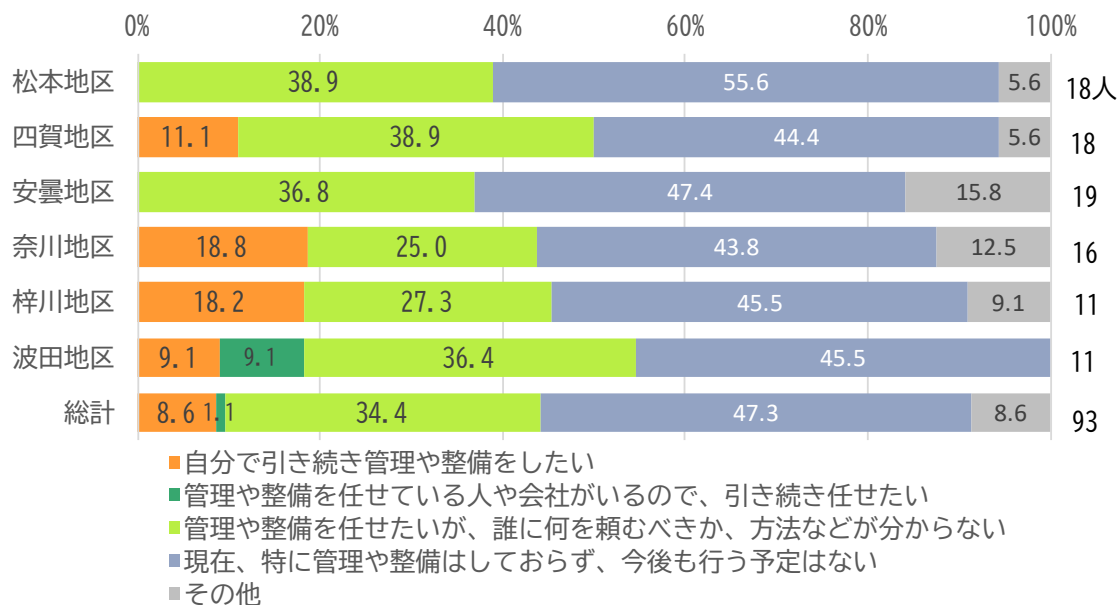
問8：管理や整備について

継続して管理を行っていく予定がある所有者が11.7%でしたが、委任先や方法がわからない所有者が30.9%、将来的にも管理の予定がない所有者が45.7%という回答でした。



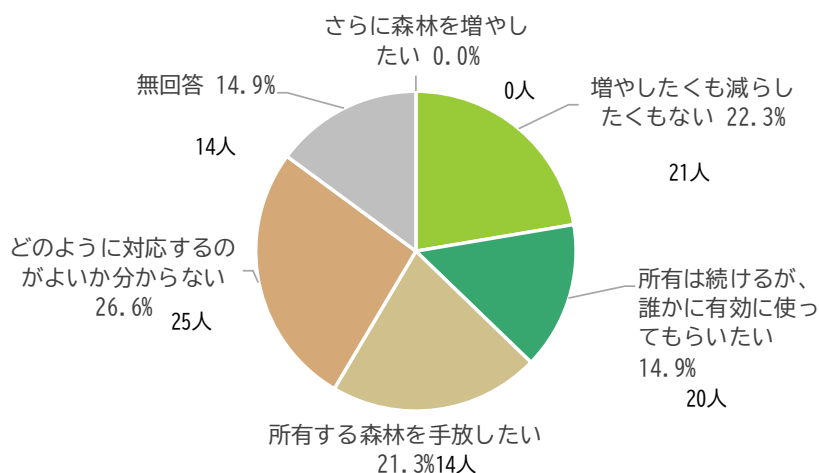
【所有する森林の所在地別】

どの地区も半数の方が「特に管理や整備はしておらず、今後行う予定はない」という回答でした。松本・安曇地区以外の地区では、10～20%の方が個人または委託での管理や整備を行っているという回答でした。



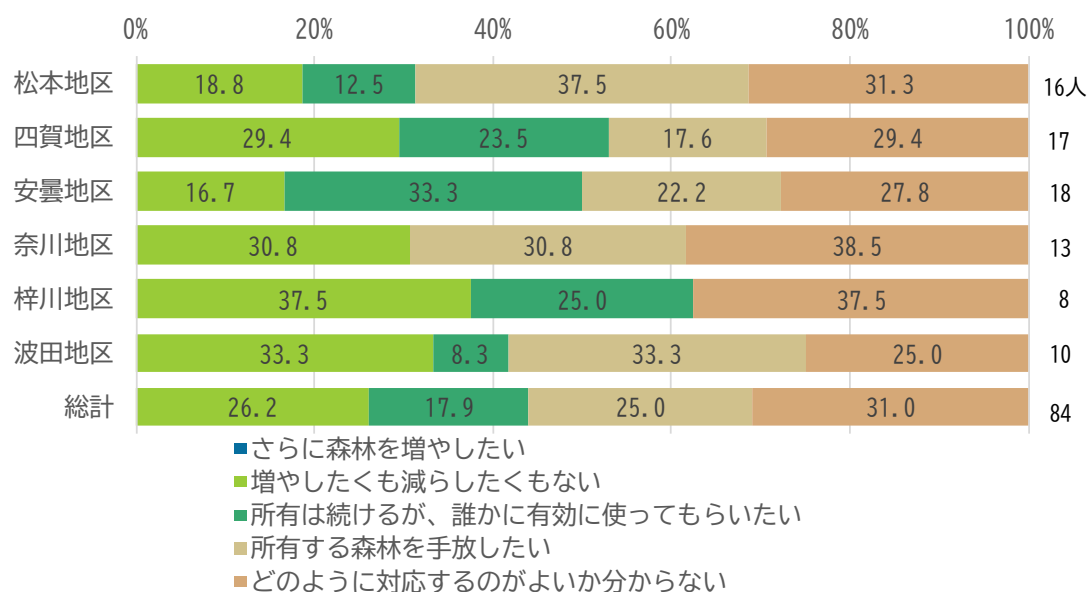
問9：所有について

継続して所有することを希望している所有者の合計は37.2%となり、手放したい21.3%、どうしてよいかわからない26.6%という回答でした。



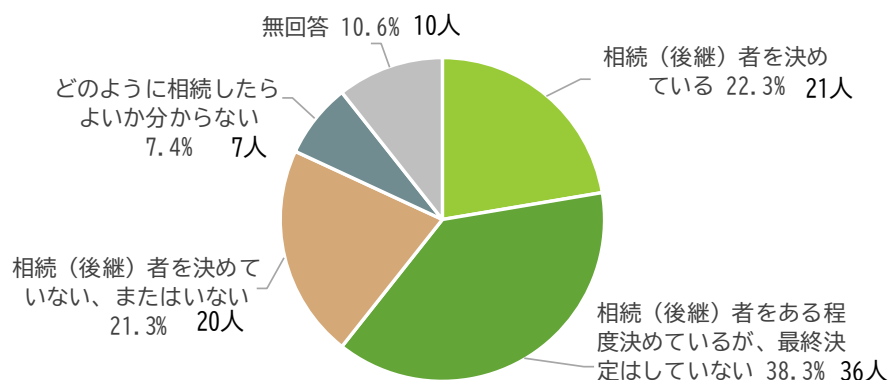
【所有する森林の所在地別】

手放したいと回答した所有者は、松本地区が37.5%、波田地区の33.3%、奈川地区の30.8%と3割以上の方が手放したいと考えておられる回答でした。一方、他者の有効利用を希望する所有者は、安曇地区33.3%、梓川地区25.0%、四賀地区23.5%の回答となりました。



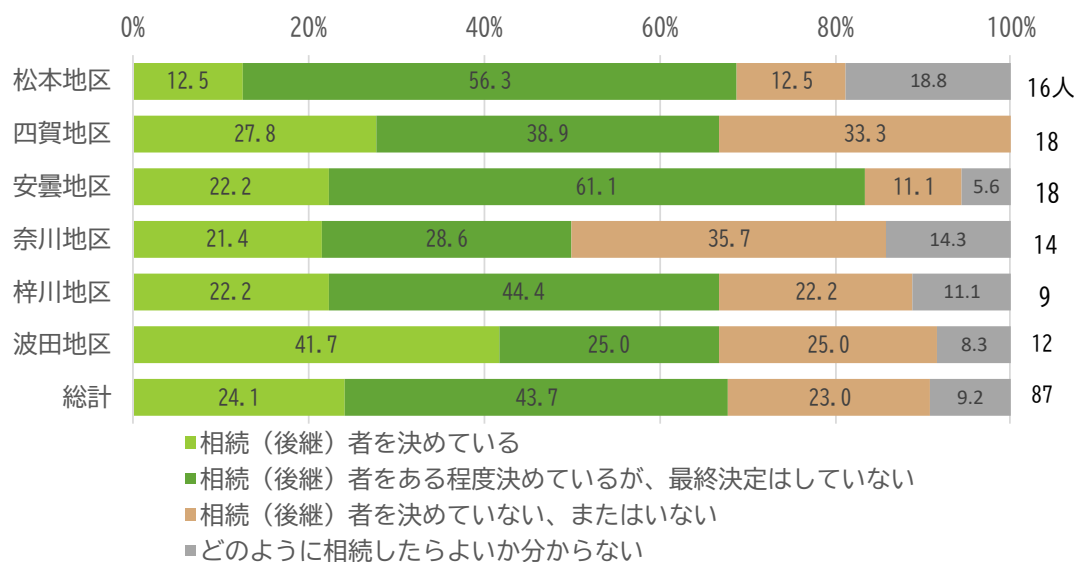
問 10：山林の相続（後継）について

相続（後継）者がいる所有者の合計は 60.6% となり、28.7% は相続について未定との回答でした。



【所有する森林の所在地別】

安曇地区については相続者が決まっている割合が高いという回答でした。



問 11 自由記述

【テーマ4】森を守る＜森林整備・管理＞

【テーマ4】 森を守る＜森 林整備・管理 ＞	・ 栃沢にある山の手入れをしたい。手入れしておけば木は大きくなっても使える。その方向で考えている。ただしヘリコプターなどで出すことを考えないといけないので、個人一人では無理で、森林組合にお願いしたいが忙しくてやっていただけない。何とかしてほしいと考えている。
	・ 現在管理や整備は全く行っておらず、今後も難しいため不安要素になっている。 ・ 何十年も前に一部植林をした記憶があるが正確な場所もよくわからず、現在どうなっているかも確認もできない。
	・ 昔は冬場の炭や薪の確保のため、個人または共有林として森林を必要としていたが、現在ではその必要がなくなった。その後建築資材用としても外材が入り森林の手入れがされなくなりました。現在は森林業に携わる人も少なく、荒れている森林が多くなりました。 ・ 今後は森林保護のためにも、自然と調和した山林作りが必要になったと思います。保安林等として森林組合などの公的管理をしていただきたいと思います。
	・ 山道の整備を希望します(以前存在した道が崩れている)。地図上では山道となっているのではと思われます。今後、スギ花粉の弊害があると聞きますので新しいスギの植林をする場合、スギ花粉の対応の苗を使用したいと思います。
	・ 林道整備をしてほしい。 ・ 森林保全が必要で間伐材が必要であれば行政全体で実施し、その間伐材がわずかでも所有者に渡る(収入) ののであれば、こんなありがたいことはない。
	・ 仮に適期伐採後の植林、間伐、下刈等の整備をだれに委託するのか。(成育中の土砂消失) ・ 今般の異常気象により崩落への危険度や水源の確保について危機感もあり、森林への重要性もある。
	・ 岡田地区の山林は更新伐が行われた後広葉樹が植えられているが、将来どの様な林相になるか心配である。(自分の山林も6割程度は含まれている) ・ 上記により山林の貯水力が低下して畑への出水が一気に生じて被害が出ている。
	・ 山沿いにある為(桑畑)平坦な場所にないので、現状のままで管理して後継者に任せたいと思います。
	・ 国道沿いの森林は事故が起きてからは遅い。間伐ぜひお願いしたい。事故が起きて所有者の責任を追及されても困る。

【テーマ4】森を守る＜維持・相続・税＞

【テーマ4】 森を守る＜維 持・相続・税 ＞	・ 相続者がいても山林の手入れはできない。
	・ 毎年、近所の10件ほどで所有することになった山林の固定資産税の通知が自分を筆頭として送られてくる。各個において納める税金額ははっきりしているのだが、集金する手間の負担が大きいとのことで、数年前から輪番制にして集金、支払いを行うようにした。しかし現在その山林の所有地も10件の中で把握しているのが1件のみ。当然のことながら、全く活用していないのが現状である。市役所や合庁の部署に行き、山林の所有を手放したい旨、相談、交渉したが全く受け入れられない。ただ税金を毎日払っていることに疑問、さらに憤慨すら覚える実情である。

【テーマ４】 森を守る＜維持・相続・税＞	・ 現在、所有する山林は、３人の共同名義であり、正直、親の代からの財産であるため、私以外の方は、登録もしておらず、固定資産税の請求が代表者の私の所へ来て困っております。
	・ 山と関わる水資源、自然を守るために、松本市で買っていただくか、あるいは、固定資産税がかからないように管理して、生かしていただけたら、ありがたいです。また、場所もわからないため教えていただけたらありがたいです。
	・ 所有する森林が多く、税金以外何も生まれない。少しでも減らす方法はないか教えてください。
	・ 現状は、ただただ固定資産税を払うために所有している感じである。できれば半分くらいは手放したいが、林道もなく、仮に木を伐採しても運び出すことが困難な場所が多いので、おそらく買い手はつかないと思う。
	・ 現地から遠く、両親も亡くなり聞く事も出来ないため市役所で現場を案内していただき、把握したいと思いますのでよろしくお願いします。
	・ 親(母)から相続した山林ですが、山の事は分からず、母も固定資産税を支払っていたのみです。活用できる状況なのかも不明です。有効活用の方法があるならば、教えていただきたいです。近隣で所有したい方(団体)等があるならば手放したいです。
	・ 所有の森林の処分を考えているが、その方法について市からアドバイスしてほしい。
	・ 法務局に行って地図をもらって張り合わせても明治 23 年の地図では場所等が何もわからない。正確な地図を作ってもらいたい。
	・ 波田町の頃に私の持山を含め、里山整備事業のような名称で計画があったことを記憶しています。森林は水源の元でもあります。それが年々家族構成が代わり、代が変わると共に主たる人が若くなり、山や田や畑に対して親から詳しい話を見聞きしていないように思います。我が家も夫が亡くなり、外から入った人にはなかなか自分からどうにかしようとは思いません。山の松の木も赤く枯れ葉が目につくようになり、そのための消毒も一部の人間により反対され、段々山の実態が変わろうとしています。とても自分一人でやる事ではないと思います。山の持ち主全体に呼び掛け山が持つ価値について専門家の話を聞くことも必要ではないだろうか。
	・ 林業で収入があれば将来考えてもよいと思う。未収入の林業では行う事はできないと思います。
	・ 森林の境界が判然としないため、手入れがやりにくく、手入れが悪い状況。できれば所有山林の境界について、市等で境界測量をする等し、境界整備をしてくれれば、各所有者が自然と手入れ等をし、良好な森林地域になるかと思いますが。
	・ 今年(6 年)は、家族を連れて、4～5 月ごろに山回りをしてみたいと思っています。道路もない山奥なので、木を売ることは不可能です。(大木にはなっていると思いますが)どうするか、家族で相談したく思っています。

【テーマ４】 森林整備などについて＜マツ枯れ＞

【テーマ４】 森林整備などについて ＜マツ枯れ＞	・ 松枯れが進み進路をふさがれている状態。その他の立木の倒木もあり、手の施しようがなく困っている。用材となるスギ、ヒノキもあるが出しが悪い場所で何ともしがたく、今後の維持管理をどうしたらよいか悩んでおり、有効に利用してもらえるような計画があれば参加したいと思いますが。
	・ 赤松をたくさん所有しており以前のように松くい虫の薬剤を空中散布してほしいです。個人の力ではどうにもならず松が枯れて土砂崩れの大災害が起こる前に実施してほしいです。それによる費用は山を所有する人の責任です。
	・ 松くい虫駆除の空中散布を実施してほしい。
	・ 松枯れが広範囲となり、どうしたものか。植林も必要ですが、現況では無理と考えている。

【テーマ４】 森林整備など について ＜マツ枯れ＞	・環境破壊が著しい松くい虫被害の松の木整備について、行政が取り組んでいた整備作業が、一人の辯髪弁護士の一言で頓挫してしまったことに、矛盾と憤りを覚えます。〈弁護士〉の肩書と罵声にひるんではいけないと思います。弁護士としての人間性が問われますが、留まってはられません。行政は民意を第一に優先した行動をとる立場にあります。心無い、横暴な弁護士に対して、一市民や職員では立ち向かえません。行政の方針を支えるには、上部機関である県や国も共同理解して取り組む立場と責任があります。国の専門弁護士の支援願うことができないのでしょうか。こうした無謀な弁護士には、公的最高機関の弁護士をお願いして取り組むしかないと思います。 ・市長は頭を抱えているだけでなく、もっと、政策的、政治責任のある立場であるはずで。行動を起こせる立場ではありませんか？ ・厳しい課題は至難であれ、何としても民意を支える信念と行動をとれないものでしょうか？期待し続けているのです。
--	---

【テーマ４】森を守る＜獣害対策＞

【テーマ４】 森を守る ＜獣害対策＞	・里山整備を進め、サル対策を実施してください。
-----------------------------------	---

【テーマ４】森を守る＜計画＞

【テーマ４】 森を守る ＜計画＞	・50年、100年先に森林の重要性が分かるように国家・国民に啓蒙すべきである。
	・降雪被害によりかつて植林したカラマツ等が全て倒れてしまい、手を入れようがない。波田地区内の山林の現状をドローン等で把握され、保護、改植可能山林の再生計画を策定いただき、年次計画で実行いただきたい。是非検討ください。期待しています。
	・山林の現況はほとんどの人が、所有している認識があっても、高齢化等に伴い、管理・維持ができていないのが実状であります。近年は赤松の松くい虫による被害が広域にわたり、温暖化等に起因する事象が多々おきております。また砂防、防災の観点からも、山が枯れてしまい自然災害に対応できなくなりつつあります。 ・抜本的な解決策がないまま、地球環境が破壊されていく様をただ眺めていくだけでなく、数年サイクルの目標を定めて策を構築していかなければならないと思います。官民一体の知恵が、今、求められているのではないのでしょうか。
	・長野県の林業は将来的に、とても大切な資源であると考えます。間伐をすることで、豊かな自然を生かすことで、CO2の削減にもつながるのではないかと思います。

■アンケート実施結果(森林事業者)

1. 調査方法：松本市内の意欲と能力のある林業事業体と県の木材流通調査対象者の事業者の計 17 社を対象に、郵送及び WEB によるアンケート調査票の配布・回収を行った。
2. 調査期間：令和 6 年 2 月 8 日（木）～2 月 25 日（日）
3. 回答状況：回答数 14 回答率 82.4%
4. 回答事業者

No	事業内容
1	意欲と能力のある林業経営体
2	
3	
4	林業経営者へと育成を図る林業経営体・木材加工
5	木材関連団体
6	林業経営者へと育成を図る林業経営体、乾燥・製材関連団体
7	
8	建築・設計関連団体
9	
10	林業経営体
11	製材・加工
12	丸太の製材・乾燥・加工、梱包用木材、土木用木材加工
13	木材防腐加工
14	建材製造

問 1：貴事業所では、林業・木材に関わるどのような事業を行っていますか？

1	・ 国有林をはじめ、公共の素材生産請負を中心に事業を展開しています。 民有林の集約化事業、危険木伐採等のライフライン事業も併せて行っています。
2	・ 森林整備、素材生産、原木販売、製材加工、木工製品販売、木材装飾デザイン施工、森林サービス産業
3	・ 保安伐採：ライフラインを守る送電線下の伐採です。 ・ 特殊伐採：ロープを使用して木に登り、ロープなどを使用し木を吊り下ろしたり伐採できない立木を安全に除去する仕事です。 ・ 松食い虫防止事業
4	・ 森林整備、素材生産、木材搬出
5	・ 長野県産材の利用促進活動として、ホームページを活用して県産材の魅力をわかりやすく伝えています。 ・ 木育活動として、長野県産材ヒノキを使って「マイ箸づくり」を無料で各イベントで行っています。
6	・ 木材の販売卸業。・ 輸入材の輸入販売。・ 国産材の製品、原木の販売。
7	・ 原木仕入れから製材→製品迄を製造。 ・ 主にアカマツ、ヒノキ、スギ、広葉樹(刈)を扱っています。 ・ また製材として使用できない丸太、枝葉はチップ化してバイオマス利用しています。 ・ 構造材(ヒノキ)、羽柄材(ヒノキ、スギ) もプレカットをしてお客様に提供しています。

8	・木工事に関する工事
9	・工務店の団体組織として情報提供、意見集約
10	・造林作業、しいたけ原木・薪原木伐採搬出作業、支障木・枯損木伐採及び枝下ろし作業等
11	・木材加工（皮付き丸太、皮むき丸太、かわつき杭、皮むき杭）・木材防腐加工（薬剤真空加圧処理）の土木用材製造販売
12	・長野県産丸太の製材・乾燥。
13	・木材に防腐防蟻薬剤注入処理を行い、ウッドデッキやフェンス等の外構用木材の販売・施工を行っています。
14	・長野県産のカラマツ・アカマツ・スギを用いて、ノンケミカルな熱処理により耐久性・寸法安定性が高い住宅・建築物向けの内外装木材を製造し、全国の工務店・ゼネコン・設計事務所に直接販売している

問2：林業・木材に関わる事業で、今後、新たに取り組みたい事業はありますか？

1	・木材の安定供給、木材自給率の向上に寄与することを理念としており、現状、新たな事業を展開することは考えておりませんが、ドローンやGNSSを活用しスマート化に向け少しずつ取り組んでいます。
2	・外構材製造販売施工、林業土木、木造建築
3	・バイオマスチップ
4	・県外に丸太を運ぶのではなく、中信エリアで木材を加工できる工場がもっと増えればいいと思います。
5	・現在は、特にありません。
6	・チップ事業。 ・一貫した県産材・地域材のウッドバリューチェーンのご提案。 （※当社の強みを活かした県産材・地域材原木の集材し当社での製材・乾燥・集成に製品化する。またプレカット加工をし施工管理まで行う。）
7	・なにも改善されない松枯れ山の処理に向けて取り組みたい。行政と組んで手の入っていない絵森林所有者の山への循環支援をしていく。（森林経営計画策定で利用促進）
8	・建物以外での木材の活用 ・残材の再利用できる商品開発
9	・地元の工務店が地元の木材を利用できるようなマッチング活動
10	・松枯れ山林の樹種転換作業等
11	・今のところ、現状維持の状況です。
12	・輸出時の木材の熱処理や、ブリケットなどの薪に変わる燃料の製造等、建築以外の分野も力を入れたい。長野県産材でDIY向けのツーバイ材を作りたい。松本市の赤松などを使い、長野県というより「松本市の木」としてブランド化したい。
13	・現在の所、ございません。
14	・木製サッシや、高強度・高寸法安定性の高いファサード建材、高い表面強度を持つ内装建材などの応用製品開発 ASEAN や北米、オセアニアなどへの海外販路開拓

問3：林業・木材に関わる事業を進める上での、課題や要望を教えてください。

1	・国を挙げて「生産性向上」を進めているものの、松本の急峻な地形ではそれを実現できる現場、事業体も少ないと思うのですが、年々労務単価が上がっても生産性も上げた設計になっており、結果、設計人工数が減ることで労務単価の上昇を給料等の改善につなげることが難しいのが現状です。機械化が進んでいるとはいえ、まだまだマンパワーに頼らざるを得ないこの業界で、給料の問題は大きいと思います。同じ賃金ならば、林業のような直接的な身体への負荷が大きいと想像できる業種を希望することは少ないと思います。ただ、林業には他の産業、業種にはない魅力があることもまた事実ですので、林業界はそれをもっとアピールすべきだと思います。 ・近年、国でも伐採造林一貫事業の発注が増えており、民有林での施業も伐採搬出後の植栽等再造林作業が必要となっています。造林、保育作業は機械力に頼れる場面が少なく、人数で勝負しなくてはなりません。また保育は何年もの期間を要するため伐採搬出事業を進めていくと、保育の面積が年々増えていくことになります。数年後には、保育作業を行う作業員が足りなくなってしまうのではという危機感を持っています。 ・伐採搬出作業を行う際の森林作業道について、線形決定時のミス、作設時の施工方法の不備、作業後の保守管理が行き届いておらず、近年増加している局地的な大雨などにより盛土部分が崩れて中小規模の崩落が発生していることが問題となっています。せっかく森林整備を行い、材を有効活用しようとした森林で崩落が起き、それが放置されてしまうようなことがあっては施業を行う意味が無くなってしまいます。作業道作設の研修なども少なくなっていると感じているので、もう少し学ぶ機会を増やし、技術の向上を図るべきだと思います。 ・作業道を作るか否かというときに、林業架線の技術があれば急斜面に無理な作業道を作設しなくても施業が可能となる場合もありますが、こちらは技術の継承が順調に進んでいるとは言えない状態だと考えています。車両系建設機械をベースとした高性能林業機械での作業を進めてきた結果、架線技術が衰退してしまっていると思います。両方の技術を施業地に合わせて選択していくことが林業事業体には求められると思います。
2	・森林と市民の暮らしがまだまだ遠い。森林所有者の特定、境界の確定。地域材を利用することの地域市民におけるメリットの周知ができていない
3	・特になし
4	・林業の仕事は好きだけど、辞めていく人を多数見てきました、中間マージンや手数料が大きい業界ですが、現場で汗を流して働いている人達にもっと還元されるような業界になればいいと思います。
5	・長野県産材（国内産材）の利用促進を進めるなかで、一番の課題は品質も悪くない外国産材とのコスト差です。県産材利用のコンセプト住宅は一過性であり、継続性のないものです。 ・補助金ありきの県産材利用には、おおいに賛成します。 ・製材所への補助の方法を考えてほしいです。林業や以前あった「木材利用ポイント」など川上、川下に対する補助はありますが、伐採後の要である製材所への補助が少ないように思えます。
6	・県産材や地域材を使うにはやはり行政の力が必要です。 自分達も営業不足ですが松本市の物件で地域材でない松本市以外の国産材が使われているのは寂しい気がします。 またいつ、どこに、誰が持っているか？対応出来るか？などある程市内の業者との協力も必要だと思います。

7	・木を使用(利用者)の促進をしてほしい。 (議題に出している行政が使って市民に PR すべき)
8	・費用と人材確保
9	・地元材購入のコスト高と販売ルート (売ってもらえない)
10	・しいたけ原木・薪原木搬出作業に補助金が出るようにお願いします。 理由としてー ①しいたけ原木伐採搬出作業は採算が合わず、実施する業者がいなくなっています。そのため、ナラ、クヌギが 30 年以上の大木になり、原木山が無くなってしまっています。 (30 年以上経つと萌芽更新しなくなる) ②薪原木を採るために伐採届を出さずに伐採されている箇所が散見されます。 ③薪ストーブ用の薪の量が足りず、価格が高騰しています。 ④しいたけ原木の数が足りていません。
11	・林業に係る仕事の減少、従事者の減少により木材調達が難しくなっている。
12	・人手不足です。長野県産材について県外に比べ設備が不十分なため、コストがかかりすぎます。付加価値の前に一般住宅での採用率が低い。
13	・伐期を迎えている森林が多いのに、消費する需要(価格?)が追い付いていない。 ・急峻な地形が多く、大型の林業機械がなかなか入れないがために効率的な伐採ができない地域がほとんどのため、森林を整備する担い手が少ない中、人力でやらざる終えないところが何とかならないのだろうかと思います。 ・材木にした際に、抜け節が少ない品種の選定ができないだろうか(主にスギ)。
14	・現在はカラムツを東信地域から、アカマツは大北・伊北地域から、スギは南信地域から購入している。それぞれ林業事業体から直接購入しているが、松本地方で購入する事業者と縁が無い 安曇野市でも行われているネットワークづくりの必要性を感じる。 ・開発や販路開拓への助成事業をもっと増やして頂ければ嬉しい。 ・公共建築により多く採用して頂けると PR の面でも非常にありがたい

問4：松本市の森林、林業、木材に関するご意見・ご要望があればご自由にお書きください。

1	・事業体同士が協力して一つの目標に向かって森林施業を進めていけるといいなと思います。例えば、森林組合さんに集約化をリードしてもらい、各事業体が委託を請けてその施業を行うなど、それぞれの事業体が持つ色をうまく引き出せれば効率的な施業もできるのではないかと思います。 ・松枯れについて、道路や畑などの近くにアカマツ林をお持ちの所有者さん、山を背負っている町会の町会長さんなど、風が吹くだけでびくびくしながら被害がないか確認に行っていると言います。倒れる前に対策ができる仕組みがもっとわかりやすく使えるといいと思います。
2	・森林に対する知見は一朝一夕に身につくものでなく、担当職員の専門性、長期従事を可能にすることなどが求められる。それが難しいのであれば、外部人材をもっと積極的に活用すべき。 ・森林を林業・木材業という視点のみで考えるのではなく、エネルギー・観光・教育・医療など、地域資源を多角的に活用することによる経済的な効果やこれからの時代を生き抜くための人づくりの視点ももち、庁内横断的に連携を図れる体制を緩やかに構築していただきたい。
3	
4	・松本市の市有林の森林整備設備実績を公表していただきたい。 ・森林環境譲与税を毎年積み立てていますが、いつから森林整備事業を始めるのでしょうか？
5	・当組合は、一般市民の方へ木材普及活動をホームページやイベントを通して行っていますが、そもそもホームページの閲覧数が伸びず（関係者用のページがほとんど）実質活動を行っているとは言えない状態です。多くの市民の方に関心を持ってもらうために、小規模で良いので、松本材の販売を「枿形広場」などで行い、少しでも状況を知ってもらいたいです。
6	・日本にある少ない資源の1つが木材だと思います。松本産材の活用は公共施設から実績を作り民間へのアピールではないでしょうか？またストーリー性を考えて周りを巻き込みながら認知度を上げて行ければ面白いと思います。是非、県産材・松本市産材の活用をして行きましょう。当社も協力していきたいと思いますので宜しくお願い致します。
7	・率直に地域材を活用しようという姿勢が行政に全く本気度が感じられないと思う。庁舎、役場等地域材の木質化進めてほしい。（見えるかでPRが必要） ・松本市の木であるアカマツの松枯れ処理を補助金などで伐採促進してほしい。地域材の利用促進に向け、施主に助成金を出してほしい。
8	・松本市の森林長期ビジョンがこの地域の為に様々な分野の方々が参画し、偏らない考えの下運用されることを期待します。
9	・公共建築物における木造化、木質化は決して進んでいるという印象をうけません。県内の自治体でも木造でふんだんに木を使った保育園がある一方、松本市ではそこまでの施設はあまり見られません。積極的な利活用をおねがいします。

10	・塩尻市森林公社や筑北村にあるような間伐材を買い取ってくれるような所があれば良いです。（風倒木の処理に困っている山主に相談されます。） ・松の枯損木処理にかかる補助金の拡充（何十本もまとめて処理する必要がある所有者には現在の補助額では対応出来ない。）
11	・森林の整備と周辺の維持管理。木材の有効活用の検討
12	・製材工場は松本市ですと弊社とあと二件ほどになってしまいました。県の補助金も JAS 指定になり、敷居が高くなり大型工場等へ流れてしまいます。 ・工場や設備にけるお金の確保も厳しいのが現状です。松本市産の木材の製造やブランド化等、精いっぱい頑張りますので建物や設備、トラックなどの整備に支援していただけないでしょうか？何卒お願いいたします。
13	・もともとアカマツ林だった所がマツ枯れにより伐採されないまま、放置されている状態がきになっています。伐採するにしても枯れてしまった樹木を切るとは生きている樹木よりも危険が伴うことは十分にわかりますが、アカマツが枯れてしまった跡地に新たな樹木が育たない場合、表面の土砂が崩れるのではないかと心配しています。日本の木材よりも海を渡ってきた木材のほうが安く仕入れられている現在、ウッドショックにより丸太の仕入れ値は上がったものの、上がった分のお金は山に戻っているのでしょうか。持続可能な林業経営してもらうために、伐採後、植林や間引き、整備などにかかる費用を見積もったうえでの木材価格になっているといいなと思っています。安く買えたことにこしたことはないのですが、木材を切り出し搬出して、製材所に持っていつてくれる森林やキコリの方々がいないと成り立たなくなる立ち位置にいるため、キコリの方々が怪我無かつ人数が減らないような仕組みがあるといいなと思っています。
14	・北信州ではスマート林業に力を入れて、今後の伐採計画の策定に力を入れている 同様の取り組みには資金が必要だがどこまで投資できるか。合板だけに頼らず、建築や家具・車載パーツ・楽器・電子機器などあらゆる分野で木材が選ばれるための差別化できる性能を有する木材が必要。 ・伐ったうえで、今後の生産林・景観林をどの様に子孫に渡していくかの計画づくりが必要。 ・市民がより森林や木材に親しめる取り組みが必要。

関係者聞き取り



■関係者聞き取り(概要)

松本市の森林・林業の関係者に対して実施した聞き取り調査の結果は、2024 年 6～7 月に実施した。①森林が多い地区の自治団体・住民、狩猟団体、②森林や緑地を活用する教育・保育機関、③林業、木材・木製品産業、観光関係者の計 11 か所の方々にご協力いただいた。概要は下記の通り。

○森林が多い地区の自治団体・住民、狩猟団体

森林が多い地域であっても、住民の森林管理に対する意欲は高くなく、「山を見限っている」ような状態にあるところもある。他方で、住民による山菜等の採取が継続しているところでは、地区外の人が採取に入り込むことが問題視されている。松枯れに対しては、枯損木を処理し広葉樹林化することで、これからの望ましい景観や利用をつくることができるとみられている。薪の生産や、既存の峠道の再整備による観光利用にも可能性があると考えられており、一部ではすでに取り組みが始まっている。

森林の更新に大きな影響を与えるシカは生息域が拡大しているが、わなを仕掛けて見回りをする、捕獲をするなどの狩猟者の行動で圧力を加えることはできる。そのためには新たに狩猟をする人を増やす必要があるが、関連イベントなどへ、ベテランが講師として参加するなどすれば周知は可能である。

○森林や緑地を活用する教育・保育機関

市内の身近な森林や緑地を、教育・保育に活用することは、活発におこなわれている。この際に重要になってくるのが、身近な森林・緑地から子どもの遊びや学びを作り出す視点だとされる。たとえば、緑地（公園）で子どもが木の実や落枝を使って自ら遊びを発見するためには、それらが地表に残され利用できる環境である必要があり、公園管理者との合意が求められる。また、樹木を学園側が管理している場合は、管理方針について専門家（県など）の助言が得られるネットワークが欠かせない。なお、温暖化の進行やコロナ禍を通じた子どもの行動変容、スタッフの減少によって、子どもの屋外活動が減少している事例もみられた。

○林業、木材・木製品産業、観光関係者

苗木生産では、新しいタイプの苗木であるコンテナ苗の生産が行われている。苗木生産は農地でおこなうが、産業上は林業に分類されるので農業者向けの支援施策が受けられないこと、また圃場の上には恒常的なトイレや更衣室が設けられず労働環境の改善に限度があることなどが課題である。

林業（造林、素材生産）では、経営方針をもつ森林所有者は一部であるという。素材生産は松枯れ被害対策が占める部分が大きく、伐採（主伐）後の再造林、とくに多くの労力を要する下刈り作業が増えてくることを考えると、飛躍的に素材生産量を増やすことは難しいと考えられている。生産された素材（丸太）のうち、4 割程度が域内流通しているが、地域内の木工業者・木工作家が原木市場で直接購入することはあまりみられない（流通業者が仲介している可能性はある）。最終消費者の自然素材への関心は

高まっているが、住宅などの材料として地域産材を流通させるためには、「規格が定まったものが、遅延なく、年中安定的に供給されること」が最低条件であるとされる。

他方、松本という生産地の証明ができる木材を、限定モデルとして木製品に用いることは、国内外への訴求力になりうると考えられている。これは観光業でも類似しており、松本の森林環境のなかで、従来着目されていなかった、あるいは組み合わせられてこなかった側面を活用することに可能性があるとみられる。

■関係者聞き取り(記録)

○森林が多い地区の自治団体・住民、狩猟団体

自治団体

- ・地域住民の山離れが進んでいるが、昭和30年代の燃料革命と松くい虫(被害)が人と山との関係を大きく変えた。山への関心が老若男女問わず薄れた。山菜は採るが山の整備には関心がないといった状況。
- ・松枯れについては、以前は地区の松くい虫対策協議会が中心となって市とも連携し防除対策を検討し、薬剤散布も含めて対策が行われていたが、薬剤散布が中止となり、ご覧のとおりの状態となった。白骨化したものも目立ち、安心して山の中に入れない。松くい虫対策協議会は現在もあるが実質的な活動はない。
- ・松枯れにおいてライフライン対策は進んだが、山の中は枯れ木で入れない状態。山の活用を考えれば、山の中の枯れ木処理が先決問題。
- ・松枯れによりマツタケ生産は大きく減少したが素晴らしい資源がある。
例えば、古道や峠、その他としては、化石、水晶、山菜等もある。
(山の中の)古道は、自転車やバイクのコースとして使えるのではないか。
バイクの世界で著名な方が営むカフェがバイク乗りの聖地となっている。
- ・地域をよく知り、地域全体で地域の資源を生かすことを考え、地元で盛りあげていくことが大切と考える。
- ・松くい虫で荒れた山を整備しきれいな山を取り戻し、地域住民の目を山に向けていきたい。

狩猟団体

野生鳥獣・獣害対策について

- ・イノシシ、シカは減少していると感じている。
- ・クマは里等にも出てきているが本来は臆病。但し、餌に対する執着は大変強い。
人間が山に入る時、食べ残しの処理は大切で、味を覚えさせないようにすることが基本。
- ・獣害対策としては駆除も必要であるが、人の圧力が重要。人が山に入ることが獣への圧力になる。
人の圧力がなくなると獣は移動する。
- ・獣は、一般的に「薄暗く」、「隠れやすく」、「暗いところ」を好む。
- ・獣が人を怖いと思う関係をしっかり継続させることが必要。

猟友会について

- ・松塩筑猟友会の会員数は、現在、約500人。松本市の会員は約300人。
- ・女性や若い人の加入もあるが、会員の高齢化もあり全体としては減少傾向にある。
- ・新規加入促進としてのイベント等も必要と考えるが、猟友会だけで企画、運営・実行は難しい。イベ

狩猟団体

ントについては、行政との連携が必要。

- ・猟師は自分のテリトリー（縄張り）意識が強い。他の猟師が入るのを嫌う。

ジビエについて

- ・シカなどのジビエ’ 利用について過去に検討したことがあるが採算が合わなかった。

食肉加工施設の補助事業等があり施設整備はできるが運営していくことが難しい。

一方、肌感覚ではあるが、海外からの観光客もあり（市内の）飲食店はジビエに興味（関心）を持っていると感じている。

その他

- ・山林所有者が山に関心がないと感じる。
- ・松枯れ等で樹種転換する場合は、ナラ、クヌギの植栽を。

○森林や緑地を活用する教育・保育機関

保育機関

山保育

- ・活動できる場所は、スタッフで歩いて探し、専門家の助言・支援も受けて確保している。活動においては、やはり安全が最重要。
- ・家ではできない体験をとおして「多様な感覚を育てる」を実践している。
- ・遊び方を知っている’人’が必要。山には山のルールがある。
- ・活動場所としては、「〇〇公園」がひとつのモデルと考えている。〇〇公園を管理する方とも良好な関係が築けている。
- ・アルプス公園は、決まりごとに縛られて自由な活動が難しい。

危険に対して

- ・服装を整える（長袖、長ズボン、帽子、肌の露出を無くすなど）
- ・蜂訓練（お地蔵さんのようにじっと動かない訓練）
- ・クマ訓練（クマよけ鈴をつけ、声を出す等の訓練）
- ・その他マダニやサルについても注意している。
- ・松本市には気軽に自然に触れるところが少ない。
- ・自然はたくさんあるのに入れるところがない。それらについての情報がない。
- ・私たちの身近とは、子どもたちが自転車で行ける程度の距離を考えている。
- ・松枯れで「枯れ枝の落下」や「倒木」が心配。

児童センター

- ・新型コロナウイルスは、子どもの遊び方や活動に大きな影響を及ぼしたのではないかと。外遊びは、現在ほとんど見られない。
- ・個人の感想ではあるが、今の子どもたちを見ていると「元気がない」、「エネルギーが内に向いている」と感じる。又、森林や木に触れる機会が少なく、外で遊ぶ経験が不足している。当然、木や草の名前を知らない。昔と比較して、基礎的体力の低下も感じる。放課後の子どもたちの活動は、習い事や室内ゲームが中心。
- ・こどもを預かる立場としては、子どもたちの安全が一番であり、安心して活動できる場所があると思う。
- ・松枯れや山の開発(山肌が茶色になっている)は、大変気になる。(心配になる)

小学校

- ・構内の森を生徒が遊びに利用したり、教材としても用いている。昨年度は生徒たちが小屋を建てた。
- ・ただし、樹木の管理方針はなく、知識がある人とのつながりも、学校としてはもっていない(教員の属人的なつながりに依存している)。危険本をその都度伐採するに留まる。

○林業、木材・木製品産業、観光関係者

林業・林産業団体

- ・昨年、松本市で地域産材利活用の検討会議が設置され、川上(林業事業体)・川中(木材流通)・川下(工務店等)の関係者が集まり、それぞれの分野で抱える課題を明確化し、その対策等についてとりまとめ、地域産材利活用の提言書を臥雲市長に提出した。
- ・この提言書は、大変重要なものであり、この提言を踏まえ地域材の利活用を進めて頂きたいと考えている。行政として公共施設で計画的に地域材利用を進めるとともに一般市民が地域材を使うことを目指して欲しい。
- ・地域資源(地域産材)を活かすことは、森林整備につながり、カーボンニュートラル、温暖化防止などにも大きく貢献ができる。
- ・今までは、外材が主で外材しか扱ってこなかったという大工さんも沢山いると思うが、ウッドショック等もあり、国産材(地域材)に全体としてはシフトしていると感じる。
- ・なお、流通においては、受注した品を期限までに収めることが基本であり、色々な品を選択できるということが重要で地域の中で地域材が常に一定量流通していないと地域材の利用は進まない。
- ・また、木を使いたいという規制(消防法)があり使えないという課題などもある。
- ・自然素材を好む傾向は強くなってきていると感じている。
- ・地域材利用について様々な視点で広く情報発信する必要がある。

苗木生産

- ・裸苗用の雑草の抑制剤が生産されなくなったこともあり、コンテナ苗に移行している。コンテナ苗なら通年の仕事ができ、腰を曲げる作業も減る。
- ・苗木生産は産業的には「林業」なので、県の農業者向けの支援策は受けられない。
- ・圃場の上には立派なトイレや更衣室を設けることができない。これは女性労働者に多くを依存する業者としては「せつない」ことである。
- ・現状では、仮設トイレを設置し、ビニールハウスの中で着替えをしてもらっているが、それでは福利厚生が向上しない。

林業団体

- ・森林経営の方針を自分で持っているような組合員はごく一部である。相続で新たに組合員になった人も、「森林整備はいいから、誰か買い手はいないか」という。
- ・現在の素材生産量は 2.5 万立方メートル程度である。3 万立方メートルくらいまでは増産できるが、それ以上は難しいだろう。
- ・主伐が増えると再造林面積も増え、そうすると下刈りに労力を取られるようになるから、素材生産が頭打ちになる。

ギター製造

松枯れ材を活用したエレキギター製作について

- ・「被害を受けたアカマツを何とかギターにしたい、被害材が使えたらいいよね、」という気持ちから社内でプロジェクトが立ち上げられた。
- ・材料とした松くい虫の被害材のアカマツは、節、穴、シミがあり、技術的にも困難な課題があったが、欠点を長所に替える試行錯誤を重ね完成にこぎつけ、ウッドデザイン賞2018も受賞した。
- ・私たちは、単なる被害材の活用だけではなく、製作に携わった者の想いや作製のプロセス等も市民の方にも知って頂きたいと考え、市への寄贈や展示等の活動を行っている。
- ・アカマツのエレキギターを通じて、市民に松枯れについても考える契機になればと考えている。
- ・和材の利用にも取り組んでいるが、今まで使われてこなかった木材にも価値を見出し利用することができると確認できた。

信州ギター祭りについて

- ・松本市はギターの生産が日本一であり「信州ギター祭り」も毎年開催されている。
- ・信州ギター祭りでは、エレキギターやベース等が展示される他、職人による楽器作製の実演なども行われる体験型のイベントである。
- ・このようなイベントを通じて松本市で様々なギターが生産されていることの認知度も高めていきたいと考えている。
- ・街中で気軽に楽器演奏できる場所があると素晴らしいと思う。

木材流通

- ・素材取扱量は年間8万立方メートルで、域内流通は 3～4割程度。カラマツは県外の合板工場に出ている。
- ・松本地区には木工業者・作家が多く、その中には有名な人もいるが、原木市場に直接買いに来ることはあまりない。

観光関係

- ・国の環境政策は「保護」から「利用」に転換している。
- ・観光はハードとソフトの両方が重要。
- ・松本市のコアバリューは、森から得られる「水資源」。山岳～街まで繋がっているものは「水」。森林と水、井戸水をベースに街中を専門家と歩く等も面白い。
- ・松本市の特徴は標高差があること。また、植生の変化が多様であること。地域特性の背景としては、抽象的ではあるが、自然と文化が繋がっていること。
- ・松本城を中心とした町づくりが行われている。

観光関係

- ・愛着、驚き＋発見(気づき)がキーワード。
- ・独自に持っている文化価値を大切にする。
- ・歴史医的背景を取り入れる。
- ・ストーリーが大切。
- ・悪いところも見せてみんなで考える。松枯れは、どのようにアプローチしているかを伝えることが大切。当事者本人が語ると説得力がある。促せば誰でも語れるようになる。行政は促すことが重要
- ・松本市を訪れる人がリスペクトすることも重要。松本市の地域の人を持っている誇りとは、また、森林・林業での誇りとは何かをみんなで考える。
- ・同じ理想を持っている人が3人いるとことは進む。